SONY

2-320-745-**04**(1)



接続と準備
再生する
アンプを操作する
サラウンド効果を楽しむ
スピーカーのより細かい設定をする
リモコンを使う
その他

マルチチャンネル インテグレートアンプ

TA-DA7000ES

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

- http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター
- ナビダイヤル …………0570-00-3311
（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）
- 携帯電話・PHSでのご利用は…03-5448-3311
（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）
- FAX ……………………0466-31-2595

受付時間 ：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主にAVリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。AVリモコンと同じ名前の本体または簡単リモコンのボタンは、同じ働きをします。
リモコンのON SCREENを押すと、本機のMONITOR OUT端子に接続したテレビに、メニューの設定画面が表示されます。

本機はドルビー*デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II、IIx）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS ** (DTS-ES および DTS 96/24) デコーダーを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、"AAC" ロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国 AAC パテントナンバーです。
Pat. 5,848,391；5,291,557；5,451,954；5 400 433；5,222,189；5,357,594；5 752 225；5,394,473；5,583,962；5,274,740；5,633,981；5 297 236；4,914,701；5,235,671；07/640,550；5,579,430；08/678,666；98/03037；97/02875；97/02874；98/03036；5,227,788；5,285,498；5,481,614；5,592,584；5,781,888；08/039,478；08/211,547；5,703,999；08/557,046；08/894,844

**Digital Theater Systems, Inc からの実施権に基づき製造されています。DTS、DTS-ES、Neo:6 および DTS 96/24 は Digital Theater Systems, Inc の商標です。

マルチチャンネルインテグレートアンプは、HDMI（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

目次

接続と準備

各部の名前と働き 4
準備 1 ：スピーカーを設置する 14
準備 2：スピーカーを接続する 16
準備 3a：オーディオ機器を接続する 17
準備 3b：映像機器を接続する 22
準備 4：電源コードをつなぐ 29
準備 5：リモコンを準備する 31
準備 6：スピーカーを設定する 32
スピーカーシステムを選ぶ（サラウンドスピーカースイッチ 5.1/7.1/9.1）.............................. 36
準備 7：スピーカーのレベルとバランスを調節する（テストトーン）.. 37

再生する

スーパーオーディオ CD/CD を聞く 39
DVD を見る 40
ゲームを楽しむ... 41
ビデオを見る 42

アンプを操作する

入力を切り換える 43
デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える（INPUT MODE）...................................... 44
入力に名前を付ける....................................... 45
デジタル音声を他の入力でも聞くことができるように設定する（DIGITAL ASSIGN）............... 46
コンポーネント映像を他の入力でも見られるように設定する（COMPONENT/D-VIDEO ASSIGN）... 47
調節した内容を登録する（USER PRESET）..... 48
各種設定を変える.. 49
表示窓の表示を切り換える 53
スリープタイマーを使う 54
他機を使って録音 / 録画する........................... 54

サラウンド効果を楽しむ

フロントスピーカーのみから音を出す（2CH STEREO）.....................................56
入力音声を自動的に判別する（AUTO FORMAT DIRECT）......................56
音場効果を選ぶ（サウンドフィールド）..............59
サラウンドバックデコーディング機能を使う（SB DECODING）...................................62
サウンドフィールドの効果を調節する 64

スピーカーのより細かい設定をする

スピーカーを拡張設定する 68
イコライザー（低域 / 中域 / 高域のレベル）を調節する 70

リモコンを使う

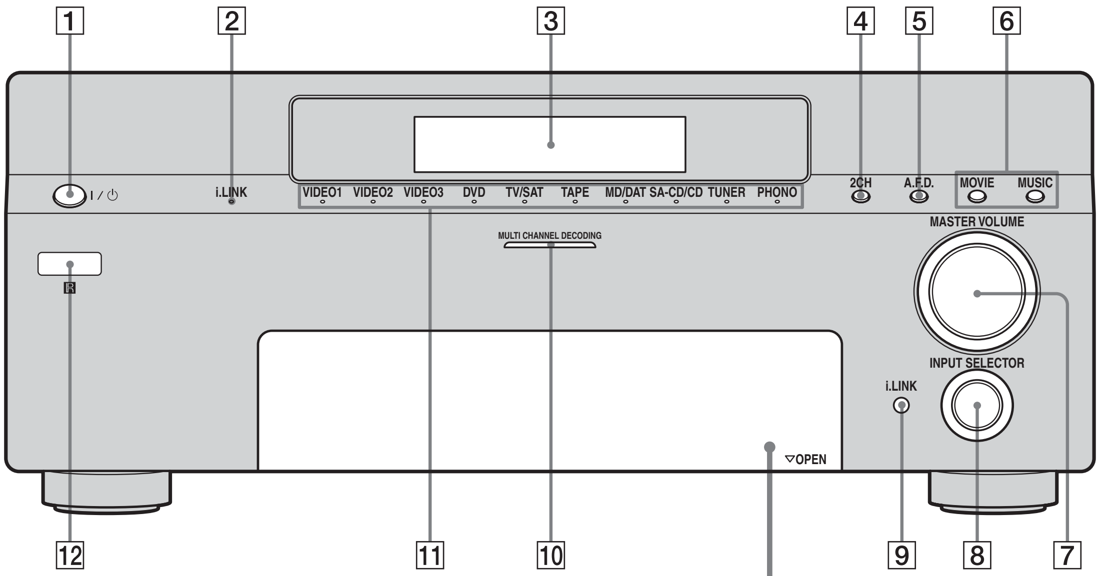
本機のリモコンで他機を操作する 72
接続機器に合わせて本機のリモコンに登録する...73
いくつかの操作を続けて実行させる（マクロ機能）...76
本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる..77
リモコンをお買い上げ時の設定に戻す 78

その他

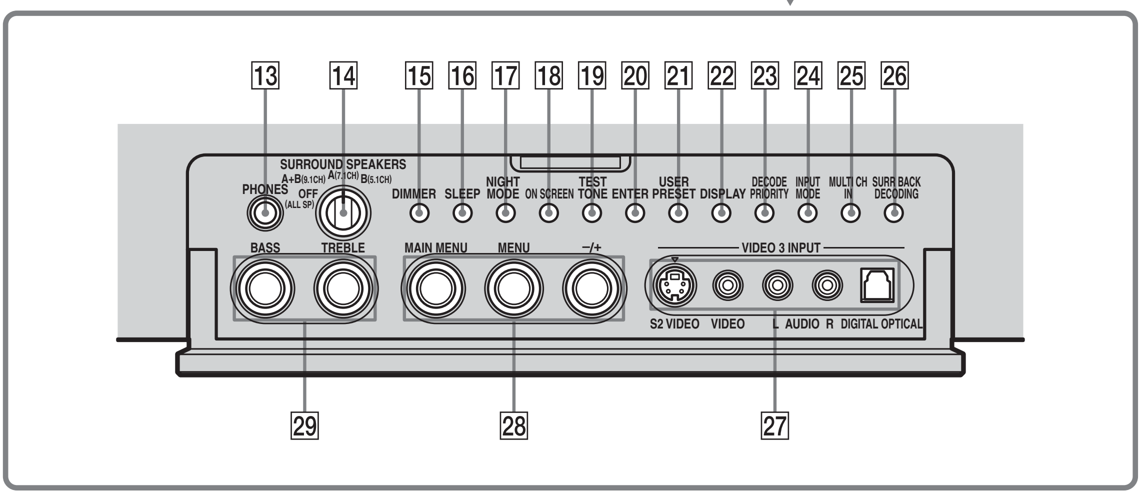
メニュー一覧（LEVEL/SURR SET UP/EQUALIZER/SPEAKER SET UP/CUSTOMIZE）...79
用語集 82
技術解説 84
使用上のご注意...85
故障かな？と思ったら 86
保証書とアフターサービス 89
主な仕様 90
索引 92

各部の名前と働き

本体前面



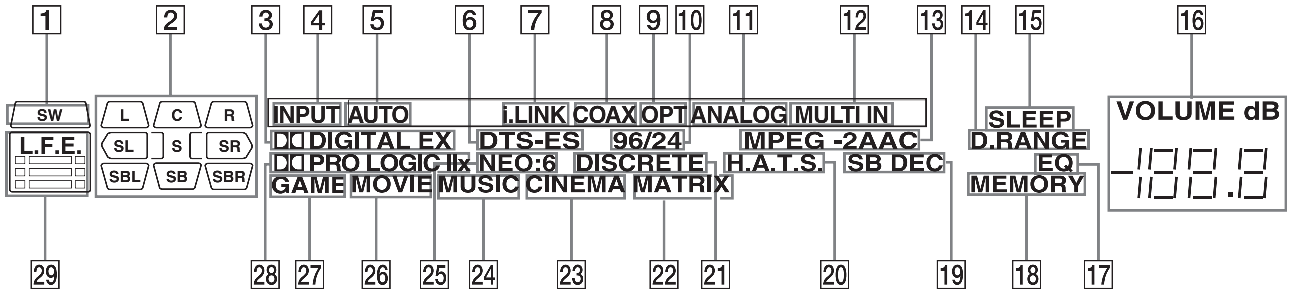
本体前面のふたを開ける



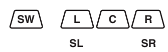
名称	働き
1 I/⏻（電源）	本機（アンプ）の電源の入（オン）/切（オフ）を切り換えます（30、38、39、40、41、42、67ページ）。
2 i.LINKランプ	再生する入力ソースとしてi.LINKが選ばれているときに点灯します（43ページ）。
3 表示窓	プログラムの名称や設定など、さまざまな情報を表示します（6ページ）。
4 2CH	2CH STEREOモードを選びます（56、60ページ）。
5 A.F.D.	A.F.D.モードを選びます（56、57、60ページ）。
6 MOVIE MUSIC	サウンドフィールド（映画用：MOVIE、音楽用：MUSIC）を選びます（59、60ページ）。
7 MASTER VOLUME	本機（アンプ）の音量を調節します（38、39、40、41、42、43ページ）。
8 INPUT SELECTORつまみ	再生する入力ソースを選びます（39、40、41、42、43、44、45、55ページ）。
9 i.LINK	i.LINKにより接続されている外部機器の入力を選びます（43ページ）。
10 MULTI CHANNEL DECODINGランプ	マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します（40ページ）。
11 入力ランプ	選ばれている入力ソースのランプが点灯します。
12 リモコン受光部	リモコンからの信号を受信します。
13 HEADPHONES端子	ヘッドホンを接続します（60ページ）。
14 SURROUND SPEAKERSスイッチ	サラウンドスピーカーのOFF、A+B（9.1チャンネル）、A（7チャンネル）、B（5.1チャンネル）を切り換えます（36ページ）。
15 DIMMER	表示管の明るさを切り換えます（53ページ）。
16 SLEEP	スリープタイマーをオンに設定しているときに点滅します（54ページ）。
17 NIGHT MODE	NIGHT MODE機能のオン/オフを切り換えます（61ページ）。
18 ON SCREEN	本機に接続されたテレビにメニューや設定を表示させます（33、37ページ）。
19 TEST TONE	テストトーンを出力します（38ページ）。
20 ENTER	設定を選ぶときなど、押して決定します（30、46、48ページ）。

名称	働き
21 USER PRESET	調節したサウンドフィールドなどの設定を登録します（48ページ）。
22 DISPLAY	表示管に表示される情報を切り換えます（53ページ）。
23 DECODE PRIORITY	DIGITAL IN端子から入力されるデジタル音声の入力モードを設定します（51ページ）。
24 INPUT MODE	同じ機器をデジタルとアナログ両方の入力端子に接続している場合に、入力信号の優先順位を設定します（44ページ）。
25 MULTI CH IN	MULTI CH INPUT端子に接続されている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。
26 SURR BACK DECODING	サラウンドバック音声デコードの設定を切り換えます（62ページ）。
27 VIDEO 3 INPUT端子	ビデオカメラやテレビゲーム機を接続します（28、41ページ）。
28 +/−つまみ MENUつまみ MAIN MENUつまみ	設定したいメニューや項目、パラメーターを選び、確定します（33、38、45、46、48、64、65、68ページ）。
29 TREBLEつまみ BASSつまみ	スピーカーから出力される音域の音質（高音域：TREBLE、低音域：BASS）を調節します（70ページ）。

表示窓に点灯する項目



名称	働き
1 SW	サブウーファーの設定が「YES」になっているとき（34ページ）に点灯します。この表示が点灯しているときは、入力信号のL.F.E.信号またはスピーカーの低域成分をもとにサブウーファーから音声を出力しています。

名称	働き
2 再生チャンネル表示	現在本機が出力しているチャンネルを表示します。 文字（L、C、Rなど）はソース音源を、文字の周りの枠は、ソース音源が、スピーカーセッティングに基づくダウンミックス処理で、どのチャンネルから出力されているのかを示します。 SLとSRの二重枠は9.1チャンネルで出力されているときに点灯します。
L	フロント左
R	フロント右
C	センター（モノラル）
SL	サラウンド左
SR	サラウンド右
S	サラウンド（モノラル/プロロジック処理されたサラウンド成分）
SBL	サラウンドバック左
SBR	サラウンドバック右
SB	サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分） 例: 記録形式（フロント/サラウンド）: 3/2.1 再生チャンネル：サラウンドスピーカーなし サウンドフィールド：A.F.D. AUTO 
3 DIGITAL (EX)	ドルビーデジタル信号が入力されたときに点灯します。ドルビー EXデコードしているときに「EX」も点灯します。

ご注意

SW は 2CH STEREO が選ばれているとき、または「A.F.D. AUTO」を選んでいて、SURR SET UP メニューの「A.F.D. 2CH SW」を「OFF」にしているときに、2 チャンネル信号が入力されているときは消灯します。

名称	働き
4 INPUT	現在の入力ランプとともに常に点灯します。
5 AUTO	INPUT MODEが「AUTO 2CH」に設定されているときに点灯します（44ページ）。
6 DTS (-ES)	DTS信号が入力されたときに点灯します。DTS-ESデコードしているときに「-ES」も点灯します。DTSのフォーマットで記録されたディスクを再生するときは必ずデジタル接続をし、INPUT MODEは「ANALOG 2CH FIXED」に設定しないでください（44ページ）。
7 i.LINK	i.LINK機器を認識しているときに点灯します（20ページ）。
8 COAX	INPUT MODEを「AUTO 2CH」に設定していて、デジタル信号がCOAXIAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「COAXIAL FIXED」に設定されているときに点灯します（44ページ）。
9 OPT	INPUT MODEを「AUTO 2CH」に設定していて、デジタル信号がOPTICAL端子から入力されているとき、またはINPUT MODEが「OPTICAL FIXED」に設定されているときに点灯します（44ページ）。
10 96/24	DTS 96kHz/24bit信号をデコードしているときに点灯します。
11 ANALOG	INPUT MODEを「AUTO 2CH」に設定していて、COAXIALまたはOPTICAL端子に信号が入力されていないとき、またはINPUT MODEが「ANALOG 2CH FIXED」に設定されているときに点灯します（44ページ）。
12 MULTI IN	MULTI INが選ばれているときに点灯します（43ページ）。
13 MPEG-2 AAC	MPEG-2 AAC信号が入力されたときに点灯します。
14 D.RANGE	ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します（67ページ）。
15 SLEEP	スリープタイマーが働いているときに点灯します（54ページ）。
16 VOLUME	現在の音量を表示します。
17 EQ	イコライザーが働いているときに点灯します（70ページ）。
18 MEMORY	Name InputやPreset Memoryなど、メモリー機能が働いたときに点灯します。

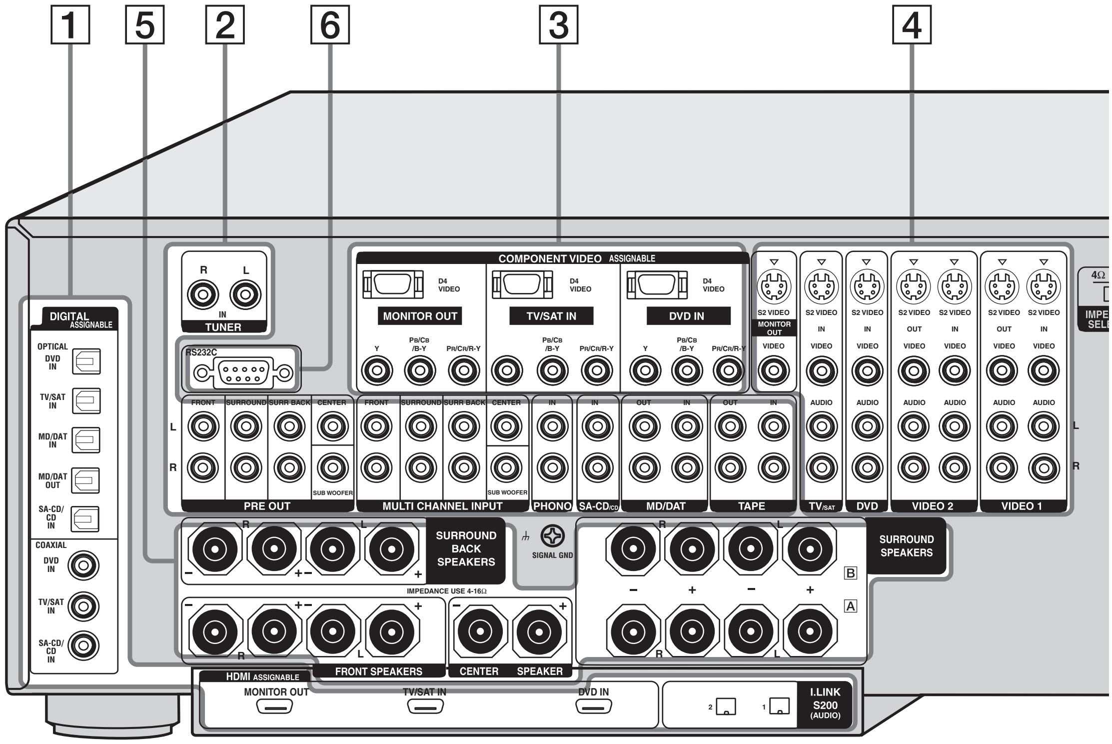
名称	働き
19 SB DEC	サラウンドバック音声のデコーディングが行われているときに点灯します（62ページ）。
20 H.A.T.S.	i.LINK接続した機器から、H.A.T.S.信号を受信中に点灯します（50ページ）。
21 DISCRETE	DTS-ES Discrete信号をデコードしているときに点灯します（63ページ）。
22 MATRIX	DTS-ES Matrix信号をデコードしているときに点灯します（63ページ）。
23 CINEMA	DTS Neo: 6のシネマ処理を行っているときに点灯します（63ページ）。
24 MUSIC	プロロジックII、プロロジックIIx またはDTS Neo: 6のミュージック処理を行っているときに点灯します。
25 NEO:6	DTS-ES Neo:6のシネマ/ミュージック処理を行っているときに点灯します。
26 MOVIE	プロロジックII 、プロロジックIIxのムービー処理を行っているときに点灯します。
27 GAME	プロロジックII 、プロロジックIIxのゲーム処理を行っているときに点灯します。
28 ▯▯PRO LOGIC (II/IIx)	2チャンネル信号をプロロジック処理し、センターやサラウンドチャンネルの信号を出力しているときに点灯します。また、プロロジックII またはプロロジックIIxのムービー /ミュージックモード処理を行っているときにも点灯します。
29 L.F.E.	再生中のディスクにL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「L.F.E.」の文字が点灯します。また、実際にL.F.E.信号の音が再生されているときには、文字の下のバーが信号のレベルに応じて点灯します。L.F.E.信号は、全ての部分に記録されているとは限らないため、多くの場合、バーは点灯と消灯をくり返します。

ご注意

- MPEG-2 AAC に関しては、アルゴリズム：(LC (Low Complexity)）にのみ対応しています。
- ▯▯PRO LOGIC（II/IIx）は、センタースピーカーとサラウンドスピーカーの両方が「NO」と設定されているときは点灯しません。

つづく

本体後面



1 デジタル入出力部

	OPTICAL（光）デジタル音声入出力端子	DVDプレーヤー、スーパーオーディオCD/CDプレーヤーなどをつなぎます。COAXIALのほうがより高音質です（17、25ページ）。
	COAXIAL（同軸）デジタル音声入力端子	
	HDMI入出力端子	DVDプレーヤー、チューナーなどをつなぎ、映像と音声をテレビやプロジェクターなどに出力します（24、27ページ）。
	i.LINK入出力端子	ソニーのスーパーオーディオCDプレーヤー SCD-XA9000ESまたはSCD-DR1とつなぐことができます（20ページ）。

2 音声入出力部

白(L)/赤(R)	音声入出力端子	カセットデッキ、MD/DATなどをつなぎます（21ページ）。
白/赤/黒	マルチチャンネル入力端子	7.1チャンネルや5.1チャンネルのアナログ音声出力端子を持っているスーパーオーディオCDプレーヤーやDVDプレーヤーをつなぎます（19ページ）。
白/赤/黒	PREOUT（プリアウト）出力端子	外部のパワーアンプなどとつなぎます。

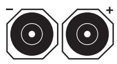
3 コンポーネント映像/D4映像入出力部

緑/青/赤	コンポーネント映像入出力端子 a)b)	DVDプレーヤー、テレビ、チューナーなどとつなぎ、より高画質な映像を楽しめます（26、27ページ）。
	D4映像入出力端子 a)b)	

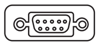
4 映像と音声の入出力部

 白(L)/赤(R)	音声入出力端子	ビデオデッキ、DVDプレーヤーなどの映像と音声をつなぎます（25、27、28ページ）。
 黄	映像入出力端子	
	S映像入出力端子[a)]	

5 スピーカー出力部

		スピーカーをつなぎます（16ページ）。

6 RS-232C端子

		保守、サービス用です。

a) お手持ちのテレビを MONITOR 端子に接続すると、選んだ入力の映像を見ることができます（24、33 ページ）。また、ON SCREEN を押したとき、SPEAKER SET UP、LEVEL、SURR SET UP、EQUALIZER、CUSTOMIZE メニューの設定やサウンドフィールドを表示できます。

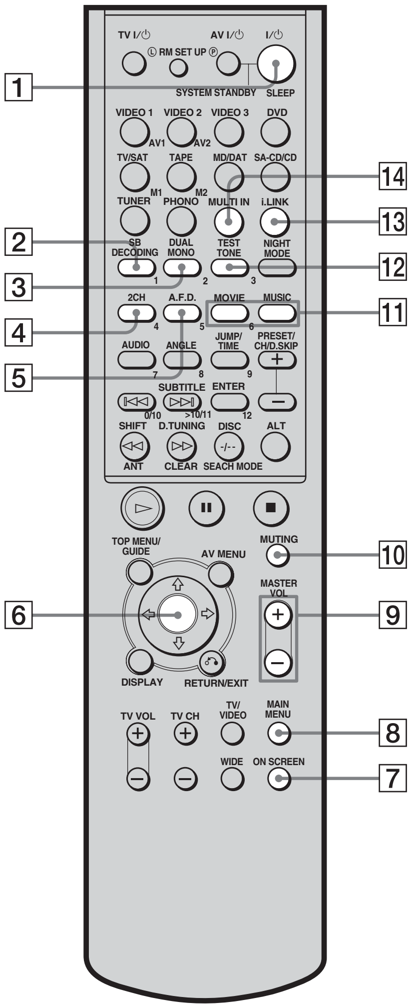
b) 同じ入力のコンポーネントビデオ端子と D4 ビデオ端子に同時に接続しないでください。これらは本機内部で並列に接続されているためです。

リモコン

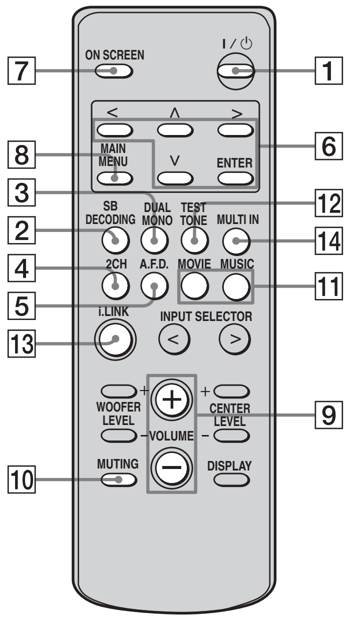
付属のAVリモコン（RM-PG7J）または簡単リモコン（RM-U7S）を使って、本機の操作ができます。

AVリモコン(RM-PG7J)/簡単リモコン(RM-U7S)共通の機能

AVリモコン（**RM-PG7J**）

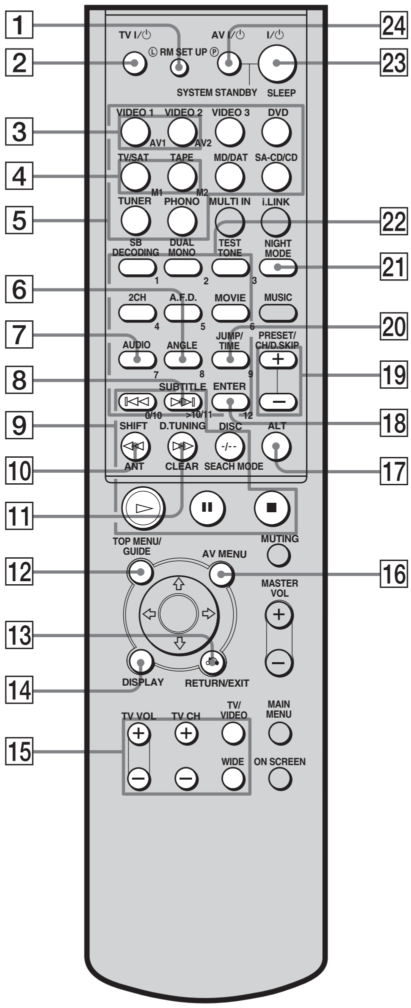


簡単リモコン（**RM-U7S**）



リモコンのボタン	機能
1 I/⏻（電源）	本機の電源を入/切します（32、37、39、40、41、42、67、78ページ）。
2 SB DECODING	サラウンドバック音声のデコード設定を選びます（62ページ）。
3 DUAL MONO	二重音声の再生モードを選びます（51ページ）。
4 2CH	2CH STEREOモードを選びます（56、60ページ）。
5 A.F.D.	A.F.D.モードを選びます（56、57、60ページ）。
6 ⇧/⇩/⇦/⇨/コントロールボタン（AVリモコン）、∧/∨/</>/ENTER（簡単リモコン）	設定したいメニューや項目、パラメーターを選び、確定します（32、33、37、45、47、48、49、53、64、65、70ページ）。
7 ON SCREEN	本機に接続されたテレビにメニューや設定などを表示させます（33、37ページ）。
8 MAIN MENU	LEVELやCUSTOMIZEなど、メインメニューを選びます（32、37、46、47、49、53、64、65、68、70ページ）。
9 MASTER VOL＋*/－（AVリモコン）/VOLUME ＋*/－（簡単リモコン）	音量を調節します（39、40、41、42、43、78ページ）。
10 MUTING	消音します。消音されているときに押すと、消音が解除されます（43ページ）。
11 MOVIE MUSIC	サウンドフィールド（映画用：MOVIE、音楽用：MUSIC）を選びます（59、60ページ）。
12 TEST TONE	テストトーンを出力します（37ページ）。
13 i.LINK	i.LINK端子につながれている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。
14 MULTI IN	MULTI CHANNEL INPUT端子につながれている機器へ入力を切り換えます（43ページ）。

AVリモコン（RM-PG7J）のみの機能



リモコンのボタン	機能
1 RM SET UP	リモコンを設定します（31、73、76、77ページ）。
2 TV I/⏻	テレビの電源を入/切します（73、77ページ）。
3 AV1 AV2	リモコンのコマンドモードを選びます（31ページ）。
4 M1 M2	マクロ機能を設定します（76ページ）。

ちょっと一言

*の付いたボタン（MASTER VOL ＋ボタン（AV リモコン）、VOLUME ＋ボタン（簡単リモコン））には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

リモコンのボタン	機能
5 VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3 DVD TV/SAT TAPE MD/DAT SA-CD/CD TUNER PHONO	入力を各機器に切り換えます（43、44、45、54、55、73ページ）。
6 ANGLE	アングルを選びます。
7 AUDIO	音声を選びます（マルチ、バイリンガル）。
8 SUBTITLE	字幕のオン/オフを選びます。
9 ⏮/⏭ ◁◁/▷▷ ▷* ■ ❚❚ DISC SEARCH MODE	オーディオ機器や映像機器の操作をします。
10 ANT	ビデオのアンテナ端子からの出力信号（テレビまたはビデオ信号）を選びます。
SHIFT	放送局を登録するときや、登録した放送局を選ぶときに、くり返し押してメモリーページを選びます。
11 CLEAR	数字ボタンを押すときや連続再生に戻すとき、間違えたボタンを押した後に取り消すことができます。
D.TUNING	手動受信モードにします。
12 TOP MENU/GUIDE	DVDのタイトルを表示します（DVDプレーヤー）。
	ガイド画面を表示します（BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー）。

リモコンのボタン	機能
13 RETURN ↶/EXIT	前のメニューに戻る、またはメニュー設定を終了します（ビデオCDプレーヤー /DVDプレーヤー /ビデオデッキ）。
	メニュー設定を終了します（BSデジタルチューナー /デジタルCチューナー）。
14 DISPLAY	リモコンに登録してある機器の表示を切り換えます（テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、CDプレーヤー、MDデッキ、BSデジタルチューナー、デジタルCSチューナー）。
15 TV VOL +*/– TV CH +*/– WIDE TV/VIDEO -/--	テレビの操作をします。
16 AV MENU	メニューを表示します。
17 ALT	オレンジ色で印字されたボタンの機能を使う前に押します（54ページ）。
18 ENTER	数字ボタンでチャンネル、ディスク、トラックを選んだあと、押して確定します。
19 PRESET/CH/ D.SKIP +/–	登録した放送局を探すまたは選びます。
	プリセットチャンネルを選びます（テレビ/ビデオデッキ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー）。
	ディスクをスキップします（チェンジャーのみ）（CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ）。
20 JUMP/TIME	前のチャンネルと今のチャンネルを切り替えます（テレビ/BSデジタルチューナー /デジタルCSチューナー）。
	時間情報を表示します（CDプレーヤー /ビデオCDプレーヤー /DVDプレーヤー /MDデッキ）。

ご注意

- 機種によっては動作しないボタンがあります。
- 機能の説明は、例としてあげています。機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。
- オレンジ色で書かれたボタンの機能を使うときは、先にALT を押してください。
- VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、DVD のいずれかの入力切り換え用のボタンを押してもテレビの入力が切り換わらない場合があります。この場合は、TV/VIDEO を押してテレビの入力に切り換えてください。

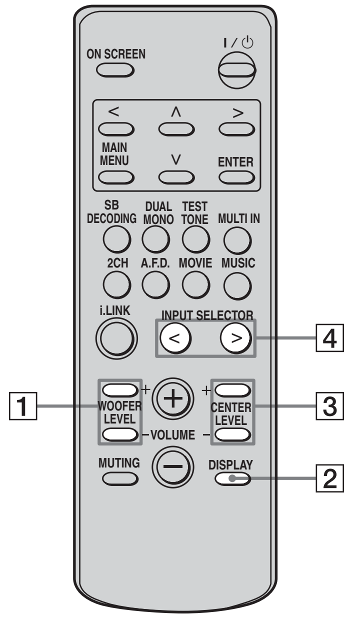
ちょっと一言

＊の付いたボタン（▷ ボタン、TV VOL + ボタン、TV CH + ボタン）には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

リモコンのボタン	機能
21 NIGHT MODE	NIGHT MODEのオン/オフを切り換えます（61ページ）。
22 1-9 0/10 >10/11 12	チャンネル番号を選びます（テレビ、映像機器）。 トラック番号を選びます（オーディオ機器、映像機器）。
23 /24 SYSTEM STANDBY（AV I/⏻とI/⏻を同時に押す）	本機とソニー製オーディオ/ビデオ機器の電源を切ります。
23 SLEEP	スリープタイマーを使って本機の電源が自動的に切れるまでの時間を設定します（54ページ）。
24 AV I/⏻	オーディオ/ビデオ機器の電源の入（オン）/切（オフ）を切り換えます（73、78ページ）。

各機器を操作できるボタンについては、72ページの表をご覧ください。

簡単リモコン（RM-U7S）のみの機能



リモコンのボタン	機能
1 WOOFER LEVEL +/–	サブウーファーの音量を調節します。
2 DISPLAY	表示管に表示される情報を切り換えます（53ページ）。
3 CENTER LEVEL +/–	センタースピーカーの音量を調節します。
4 INPUT SELECTOR </>	再生する入力ソースを選びます（39、40、41、42ページ）。

準備１：スピーカーを設置する

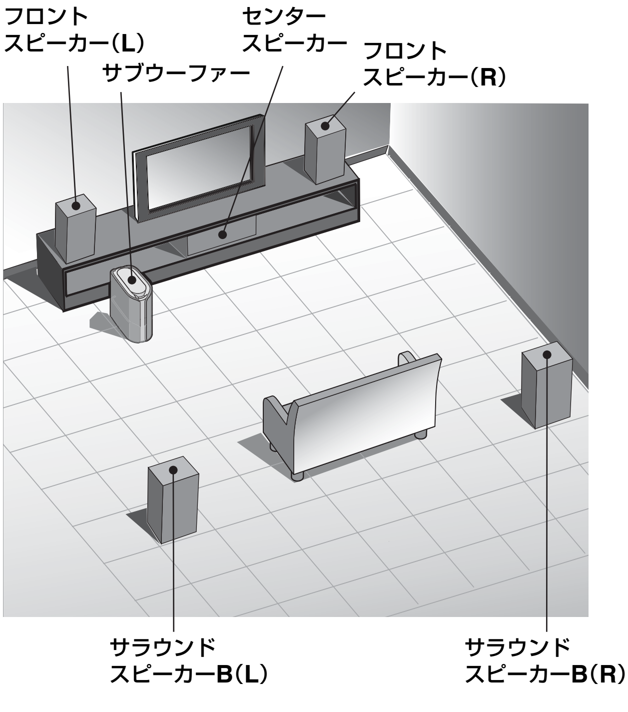
本機では最大9.1チャンネル（スピーカー 9本とサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。
5.1/7.1/9.1チャンネル以外のスピーカーシステムについては、付属の「接続・設定ガイド」をご覧ください。

5.1/7.1チャンネルで楽しむ

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分にお楽しみいただくには、
- 5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）
- サブウーファー

が必要です（5.1チャンネル）。

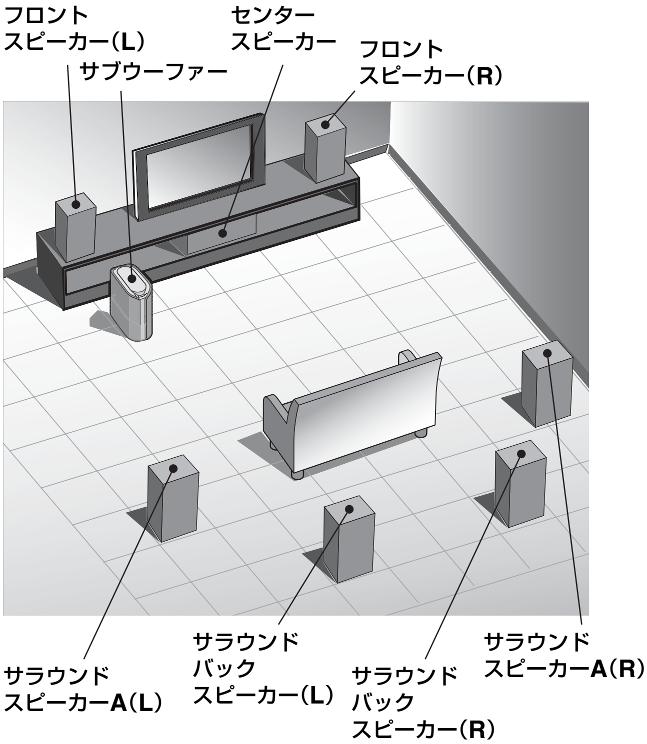
5.1チャンネルの設置例



5.1チャンネルにさらに
- サラウンドスピーカー：1本（6.1チャンネル）
- サラウンドスピーカー：2本（7.1チャンネル）

を追加することによって、サラウンドEXフォーマットのDVDソフトを忠実に再現できるようになります（「サラウンドバックデコーディング機能の種類」（62ページ））。

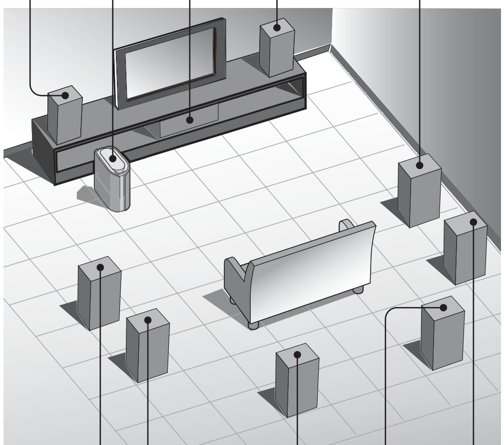
7.1チャンネルの設置例



ちょっと一言
- 6.1 チャンネルのスピーカーシステムを構成する場合は、サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。
- サブウーファーには指向性がありませんので、お好みの場所に設置できます。

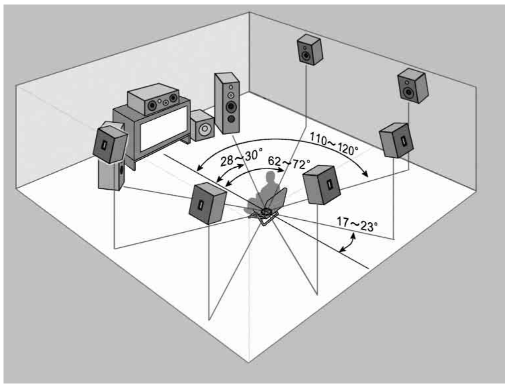
9.1チャンネルで楽しむ

映画の音を製作する大型のスタジオでは、サラウンドスピーカーが合計で10個程度使われています。しかし、小型のスタジオでは、左右の壁と後ろの壁に、それぞれ2個ずつ設置されている場合がほとんどです。本機では、最小構成の9.1チャンネルを使うことができます。
9.1チャンネルの優位性は、フロントの映像の世界とサラウンドの世界のつながりが非常によくなることです。従来もバーチャル技術でこの音場を提供してきましたが、9.1チャンネルはリアルマルチチャンネルです。サービスエリアが広く、室内にいる家族全員が効果的な音を聞くことができます。部屋の中央で聞く音場は、まさに映画製作者が聞いた音です。



スピーカーの設置のポイント

部屋の中央を基準にして、下の図の角度を参考にしてスピーカーを配置してください。角度が理想的にならない場合は、一組のサラウンドスピーカーをリスニングポジションより前（フロントスピーカー寄り）に配置してください。この位置を微調整することで、フロントとサラウンドのつながりが非常によくなります。配置の基準点は部屋の中央ですが、基準点より後ろの空間であれば、部屋の中のどこにいても音を効果的に楽しむことができます。



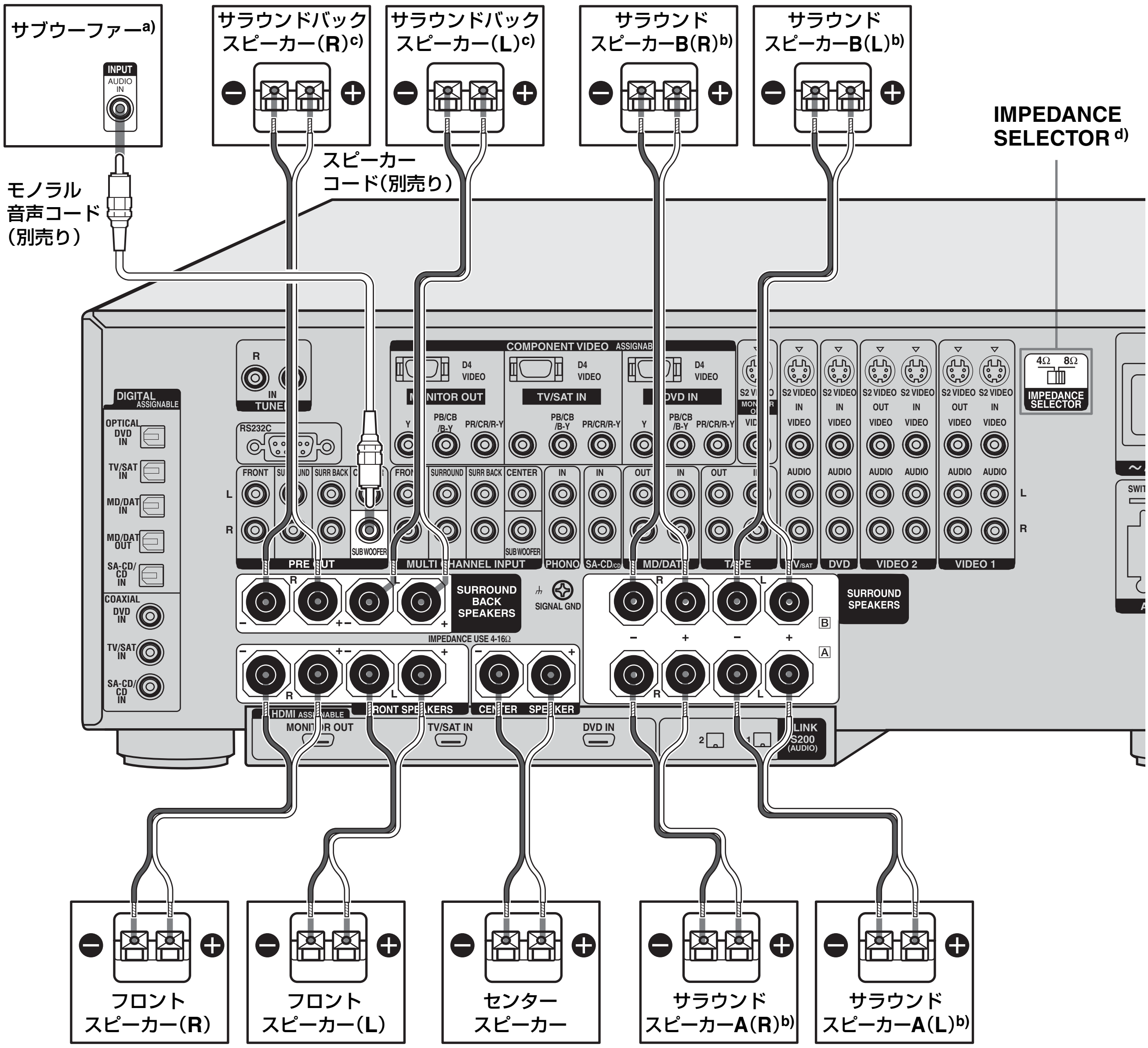
9.1チャンネルでシネマスタジオEXモードをお使いのときは

SURR SET UPメニューで「VIR.SPEAKERS」を「OFF」にしてください（65ページ）。本物のスピーカーが多いため、バーチャルスピーカー(仮想スピーカー）を使わなくても効果的に映画を鑑賞できます。本物のスピーカーはバーチャルスピーカーと違い、表現力がスピーカーにより違います。エフェクトレベルは、セリフが自然な感じに聞こえ、サウンドエフェクトの迫力がバランスよくなるように調整してください。

9.1チャンネルでスーパーオーディオCDなどのピュアオーディオを聞くには

9.1チャンネルは、スーパーオーディオCDなどのピュアオーディオ用にそのまま使うことができます。しかし、スピーカーの性格や音楽ソフトの作りかたによっては、スーパーオーディオCDは7.1チャンネル、または5.1チャンネルで再生したほうがいい場合があります。このような場合は、サラウンドスピーカーのAとBを入れ換えて、サラウンドBで5.1チャンネル、サラウンドA＋Bで9.1チャンネルとしてお使いいただくことをおすすめします。

準備 2:スピーカーを接続する



a) オートスタンバイ機能があるサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、サブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイモードになり、音が出なくなることがあります。

b) 使用するサラウンドスピーカーを本機前面の SURROUND SPEAKERS スイッチで選べます。詳しくは、「スピーカーシステムを選ぶ（サラウンドスピーカースイッチ 5.1/7.1/9.1）」（36 ページ）をご覧ください。

c) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK SPEAKERS L 端子に接続してください。

d)
- IMPEDANCE SELECTOR を切り換えるときは、必ず電源を切ってください。
- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください（通常、スピーカー後面にはインピーダンスが表示されています）。
- すべて 8Ω 以上のスピーカーをつないだ場合は、IMPEDANCE SELECTOR スイッチを「8Ω」にしてください。それ以外の場合は「4Ω」にしてください。
- SURROUND SPEAKERS A と B 端子の両方にスピーカーをつないで使う場合は、「スピーカーシステムを選ぶ（サラウンドスピーカースイッチ 5.1/7.1/9.1）」（36 ページ）をご覧ください。

準備 3a：オーディオ機器を接続する

お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	スーパーオーディオCD/CDプレーヤー	デジタル音声出力端子付き[a]	18ページ
		マルチチャンネル音声出力端子付き[b]	19ページ
		i.LINK端子付き	20ページ
		アナログ音声出力端子付き[c]	21ページ
	MD/DATデッキ	デジタル音声出力端子付き[a]	18ページ
		アナログ音声出力端子付き[c]	21ページ
	カセットデッキ、レコードプレーヤー、チューナー		21ページ

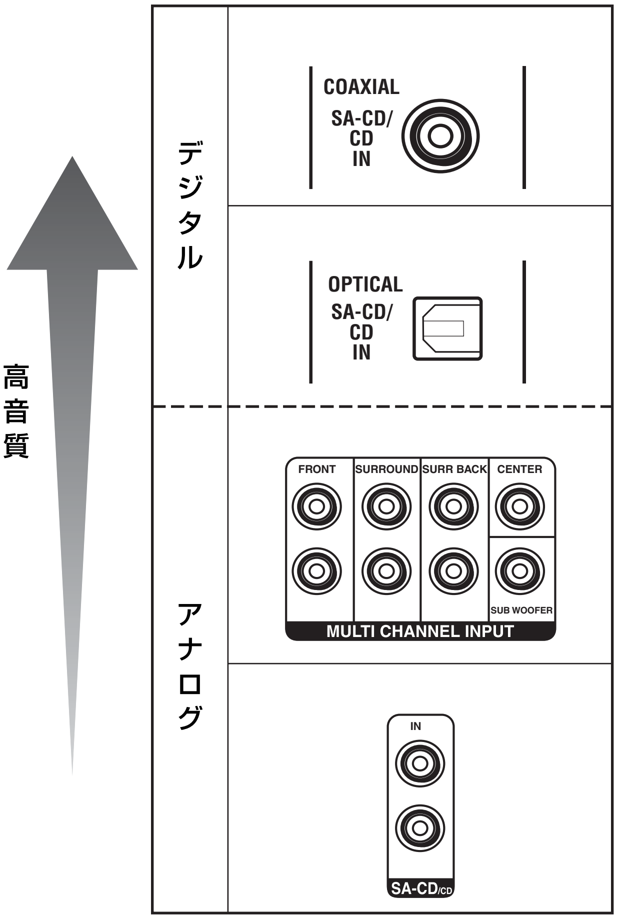
a) DIGITAL OPTICAL OUTPUT、DIGITAL COAXIAL OUTPUT などの端子がある場合。

b) MULTI CH OUTPUT などの端子がある場合。接続機器のマルチチャンネルデコーダーでデコードした音声を、本機から出力するときの接続です。

c) AUDIO OUT L/R などの端子がある場合。

接続する音声端子について

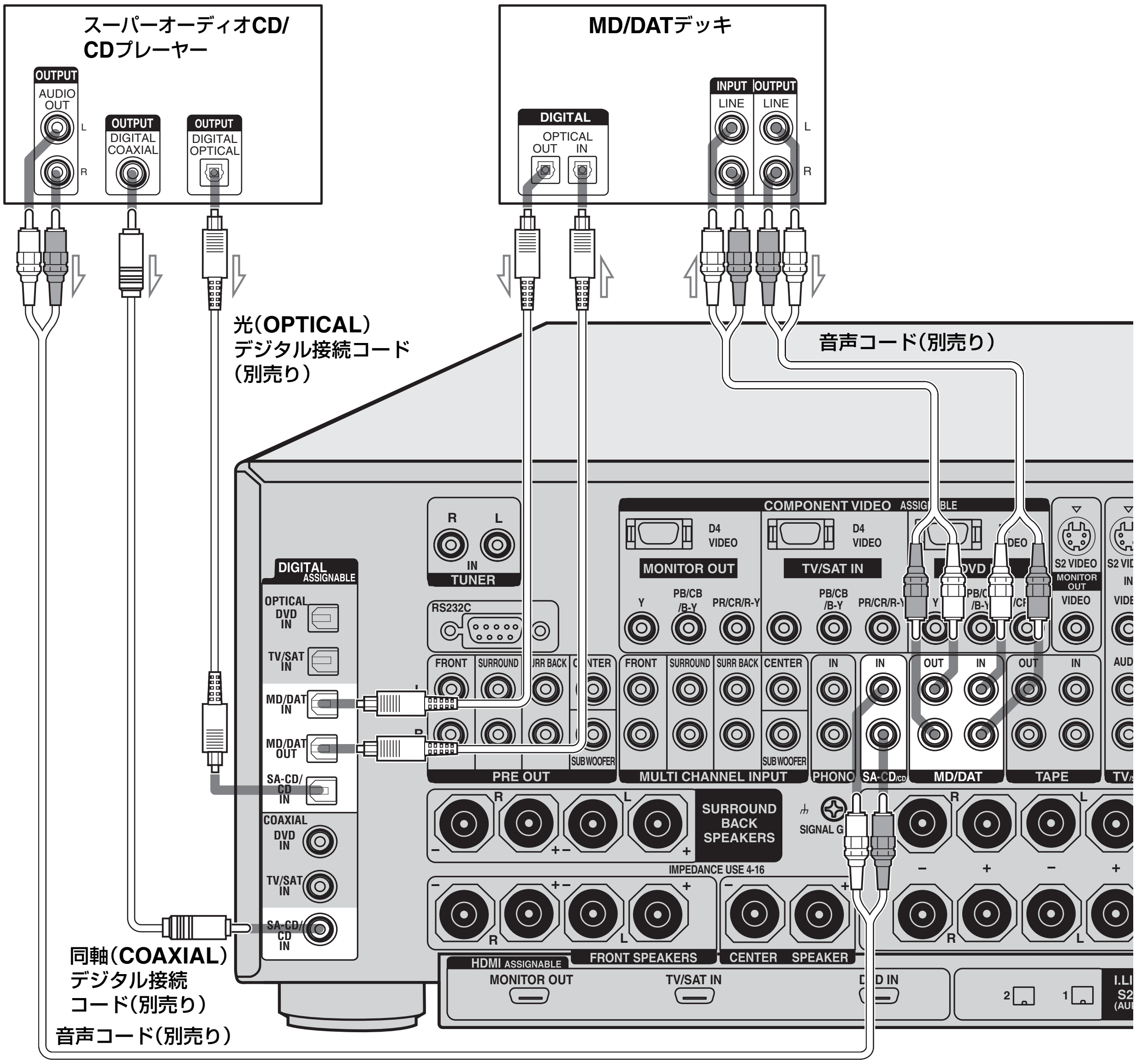
音声信号は下の図のような順によい音質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



つづく

デジタル音声出力のある機器

スーパーオーディオCD/CDプレーヤーやMD/DATデッキの接続例です。



スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

- 本機の SA-CD/CD OPTICAL IN 端子または SA-CD/CD COAXIAL IN 端子に接続したスーパーオーディオ CD プレーヤーでスーパーオーディオ CD を再生しても、信号の種類が異なるため、音声は出力されません。スーパーオーディオ CD のディスクを再生するには、本機の MUTI CHANNEL INPUT または SA-CD/CD IN 端子に接続してください。スーパーオーディオ CD プレーヤーの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- スーパーオーディオ CD のデジタル音声はデジタル録音できません。アナログ接続してください。
- 光デジタル接続コードを接続するときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

複数のデジタル機器を同時に接続したいときに、空いている入力端子がない場合は

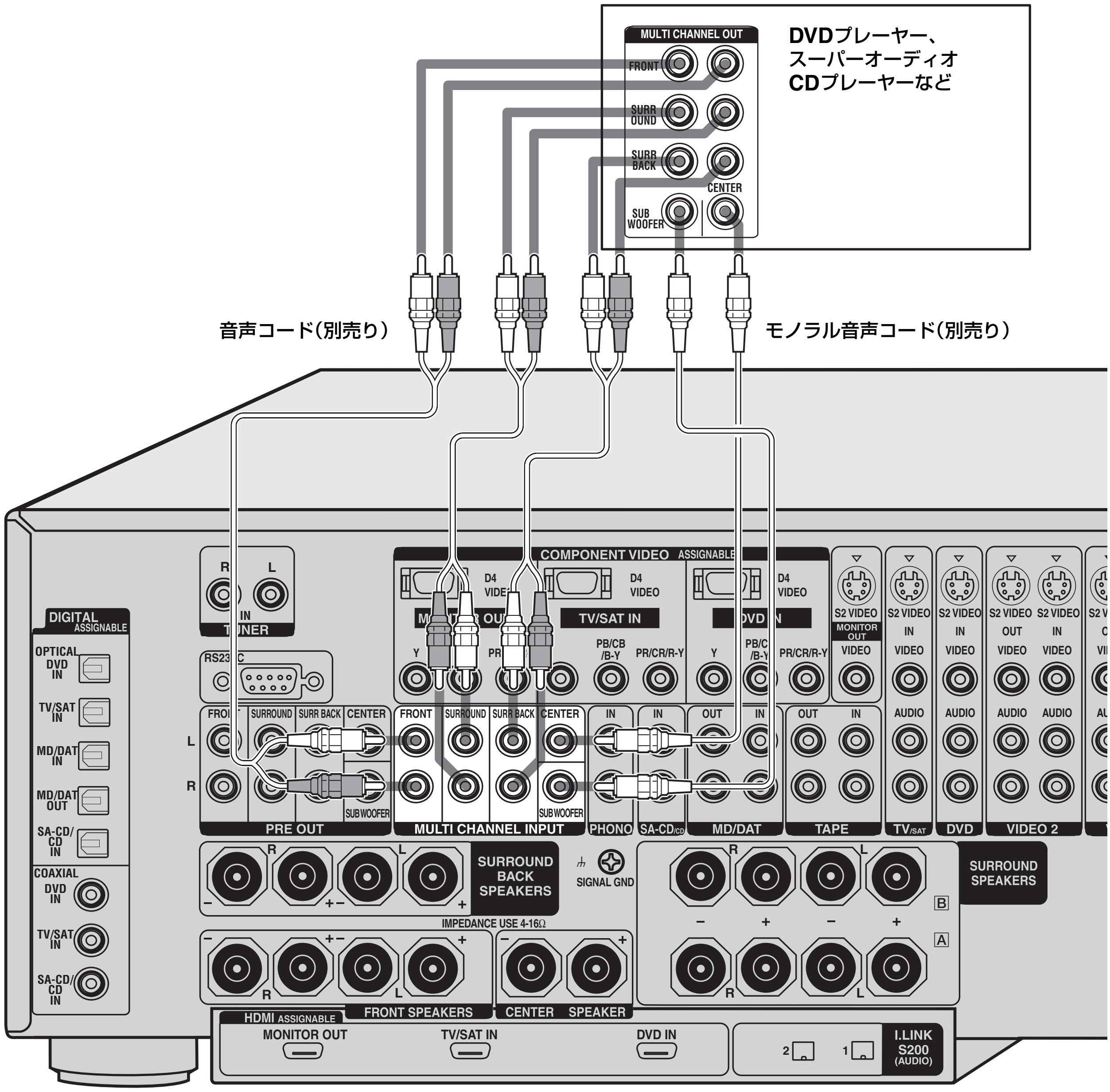
「デジタル音声を他の入力でも聞くことができるように設定する (DIGITAL ASSIGN)」(46ページ)をご覧ください。

ちょっと一言

本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。

マルチチャンネル音声出力端子のある機器

お手持ちのDVDプレーヤーやスーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CHANNEL INPUT端子に接続して、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。



ご注意

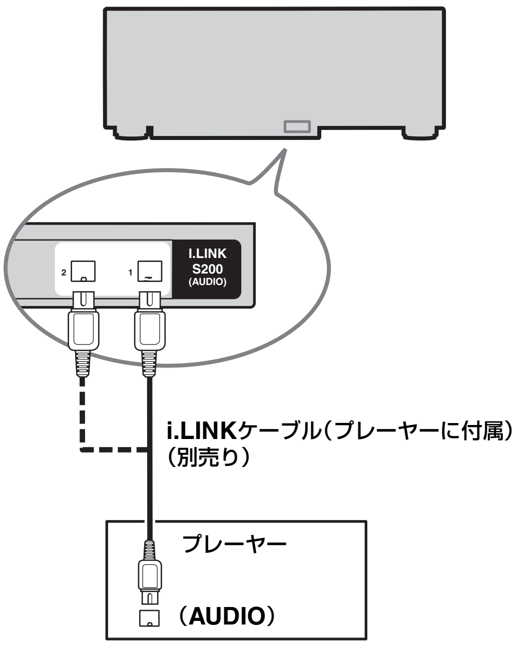
DVD プレーヤーとスーパーオーディオ CD プレーヤーには SURR BACK 端子はありません。

つづく

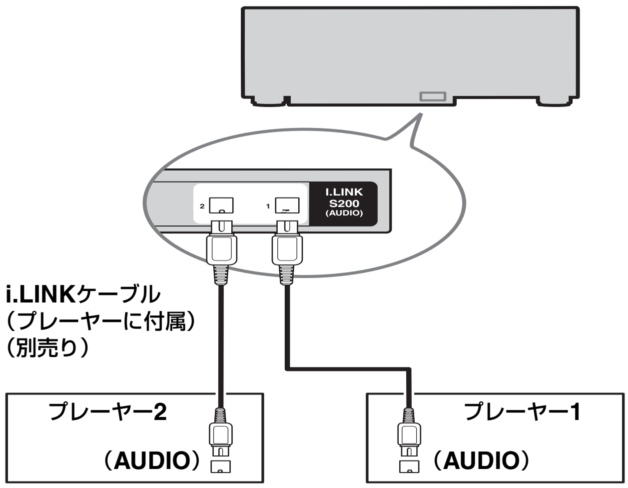
i.LINK端子のある機器

ソニーのSCD-XA9000ESまたはSCD-DR1は、i.LINKケーブル（SCD-XA9000ESまたはSCD-DR1に付属）を使ってつなぎます。接続のしかたはSCD-XA9000ESおよびSCD-DR1の取扱説明書もご覧ください。
本機のi.LINK端子はSCD-XA9000ESまたはSCD-DR1との接続にのみ対応しています。本機とSCD-XA9000ESまたはSCD-DR1の間に他の機器をつないだり、SCD-XA9000ESまたはSCD-DR1以外の機器とi.LINK接続をして使用した場合の動作については保証していません。

① i.LINK 1 またはi.LINK2にプレーヤーを1台接続する



② i.LINK 1 とi.LINK2にプレーヤーを1台ずつ接続する

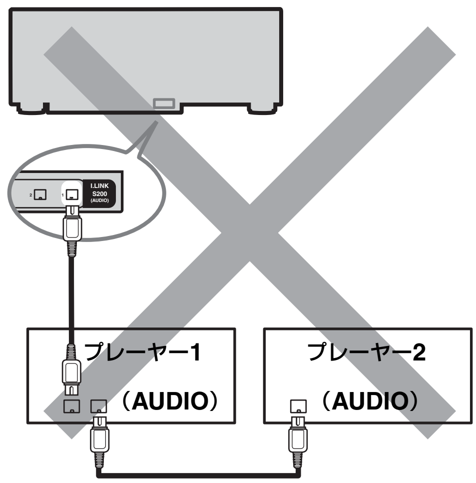


接続できない例

i.LINK1端子とi.LINK2端子にはそれぞれ 1 台のプレーヤーのみ接続可能です。

次のようなi.LINK1端子またはi.LINK2端子への2台以上の機器の接続はできません。

TA-DA7000ES

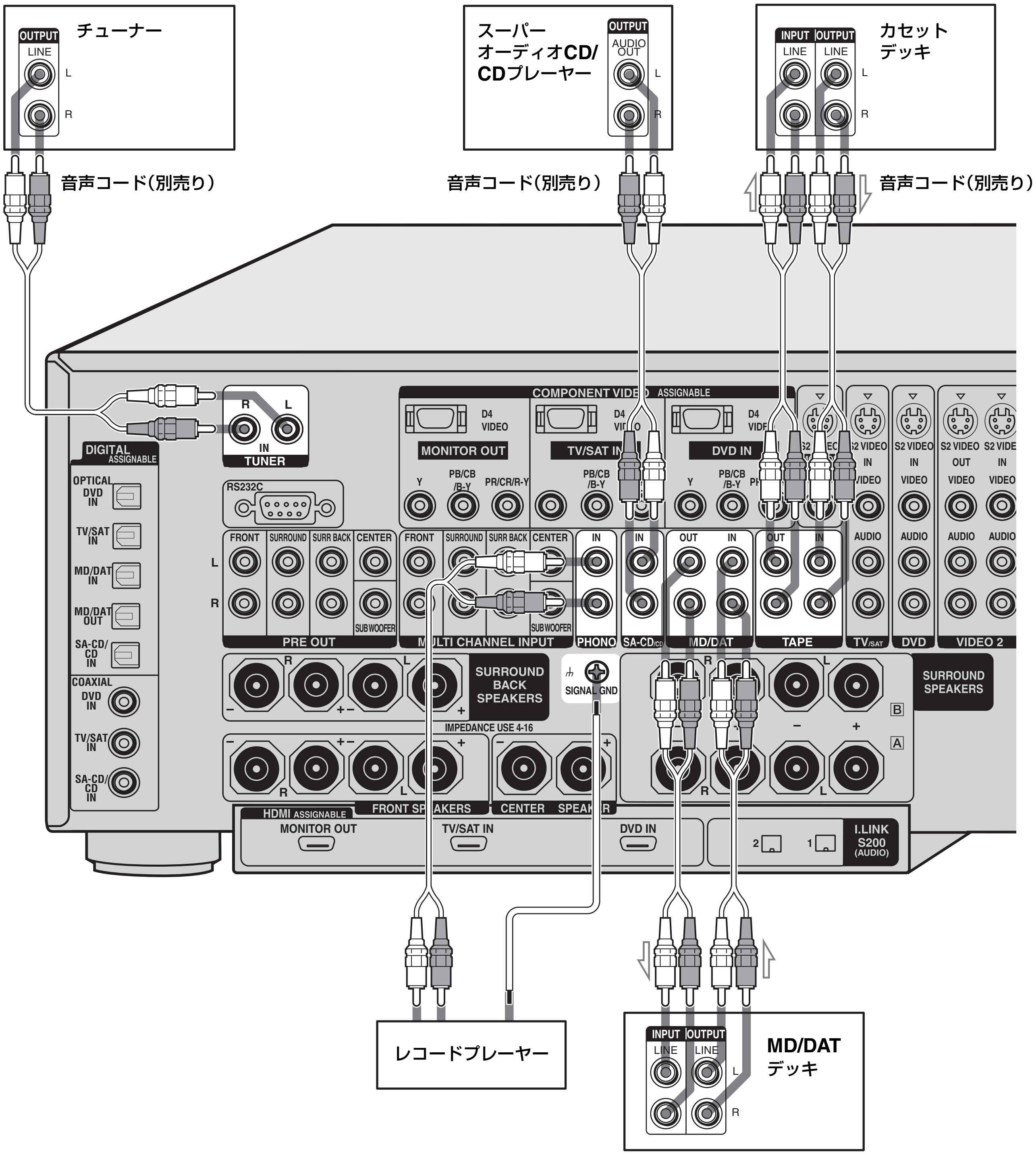


ご注意

- i.LINK1 端子と i.LINK2 端子は独立した端子であるため、i.LINK1 に接続された機器と i.LINK2 に接続された機器との間では信号が流れません。
- i.LINK でオーディオ信号を出力する機器のみ接続可能です。映像信号を扱う機器、PC 関連機器、他の A V アンプとは接続できません。
- i.LINK 表記のない IEEE1394 関連機器のオーディオ信号は受信できません。
- i.LINK ケーブルは 1.5m 以下の長さのものを使用してください。
- 他社の i.LINK オーディオ出力付き DVD プレーヤー , スーパーオーディオ CD/CD プレーヤーと接続した場合の動作については保証していません。
- i.LINK 端子に金属が触れるとショートし、接続した機器にトラブルが生じる場合があります。
- プラグはしっかりと差し込んでください。不完全な接続は誤動作の原因となります。
- 本機が対応している信号については、90 ページをご覧ください。本機が対応していない信号（DV、MICROMV や MPEG-TS など）は扱うことができません。
- DSD 信号を受けている場合、サウンドフィールド、A/V SYNC、サラウンドバックデコーディングは機能しません。

アナログ音声出力端子のある機器

カセットデッキやレコードプレーヤーなどアナログ端子のある機器の接続例です。



ご注意

お手持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。

準備 3b：映像機器を接続する

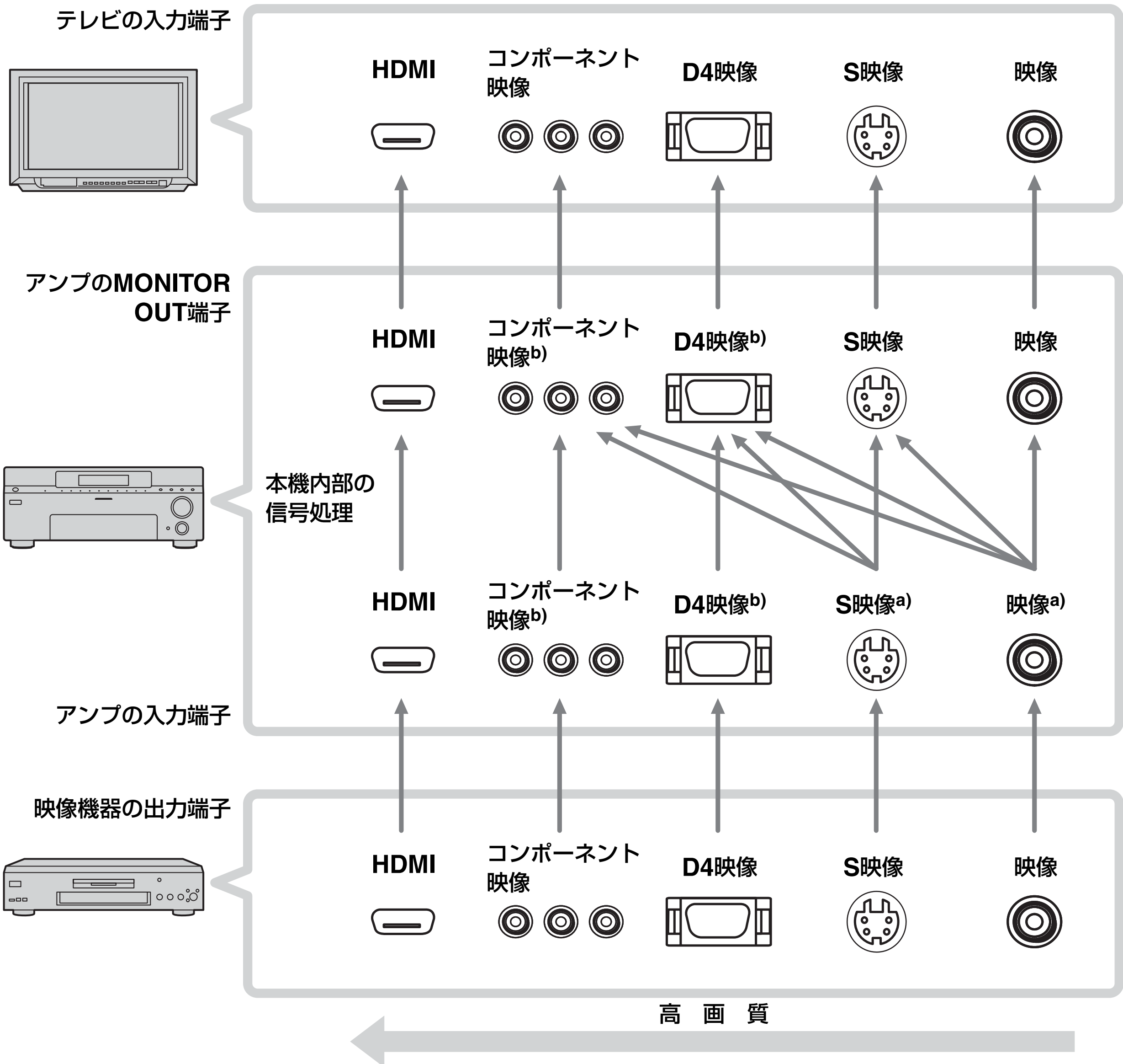
お手持ちの機器の接続のしかたを確認する

本機とお手持ちの機器との接続のしかたを説明します。はじめに下記の「接続機器一覧」で、それぞれの機器の説明ページをご確認ください。

接続機器	テレビ	24ページ
	DVDプレーヤー	25～26ページ
	BSデジタル/デジタルCSチューナー	27ページ
	ビデオデッキ	28ページ
	ビデオカメラ、テレビゲームなど	28ページ

接続する映像端子について

映像信号は次の図のような順によい画質でお楽しみいただけます。お手持ちの機器にある端子に合わせて、接続のしかたを選んでください。



a) 映像の変換（アップコンバート）機能について

本機は映像信号のアップコンバート機能を装備しています。本機につないだ映像機器の信号は、イラスト（22ページ）のa)のように変換して、MONITOR OUT端子から出力できます。

- 映像信号をコンポーネント映像信号、D4映像信号やS映像信号に変換することができます。
- S映像信号をコンポーネント映像信号やD4映像信号に変換することができます。

映像の変換（アップコンバート）機能のご注意

- コンポーネント映像信号やD4映像信号への変換は、その入力にコンポーネント映像入力が割り当てられていると機能しません。
  （例）本機のDVD入力やTV/SAT入力に映像信号やS映像信号をつないで、テレビのコンポーネント映像信号に出したい場合：
  DVD入力とTV/SAT入力は出荷時の設定でコンポーネント映像入力が割り当てられているので、映像信号やS映像信号の入力はアップコンバートされません。COMPONENT/D-VIDEOASSIGNメニューで設定を他の入力に変更してください（47ページ）。
- ビデオデッキからの映像信号またはS映像信号を、本機で変換してテレビへ出力する場合、映像信号の状態によっては、テレビの映像が横方向にずれたり、映像が出なくなる場合があります。
- 本機ではダウンコンバートはできません。コンポーネント映像信号やD4映像信号を映像信号やS映像信号に変換することはできません。S映像信号を映像信号に変換することはできません。
- REC OUTにはアップコンバート機能はありません。

b) コンポーネント映像端子とD4映像端子の関係について

コンポーネント映像端子とD4 映像端子は本機内部で並列に接続されています。

- 同じ入力のコンポーネント映像端子とD4 映像端子に同時に接続しないでください。
- コンポーネント映像端子につないだ機器の映像はD4映像端子から、D4映像端子につないだ機器の映像はコンポーネント映像端子から同時に出力しています。
  （例）COMPONENT VIDEO DVD IN端子に入力したDVDプレーヤーの映像を、D4 VIDEO MONITOR OUT端子に接続したテレビと、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子に接続したプロジェクターの両方で見ることができます。このとき本機の入力は「DVD」にします。

HDMI接続でできること

本機と再生機器、本機とテレビなどの映像機器をHDMIでつなぎ、高画質、高音質を楽しむことができます。本機が対応している映像の解像度は最大1080iまでです。

HDMI端子の接続について

- HDMIケーブルはHDMIロゴがついているもの（ソニー製）をお使いください。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。

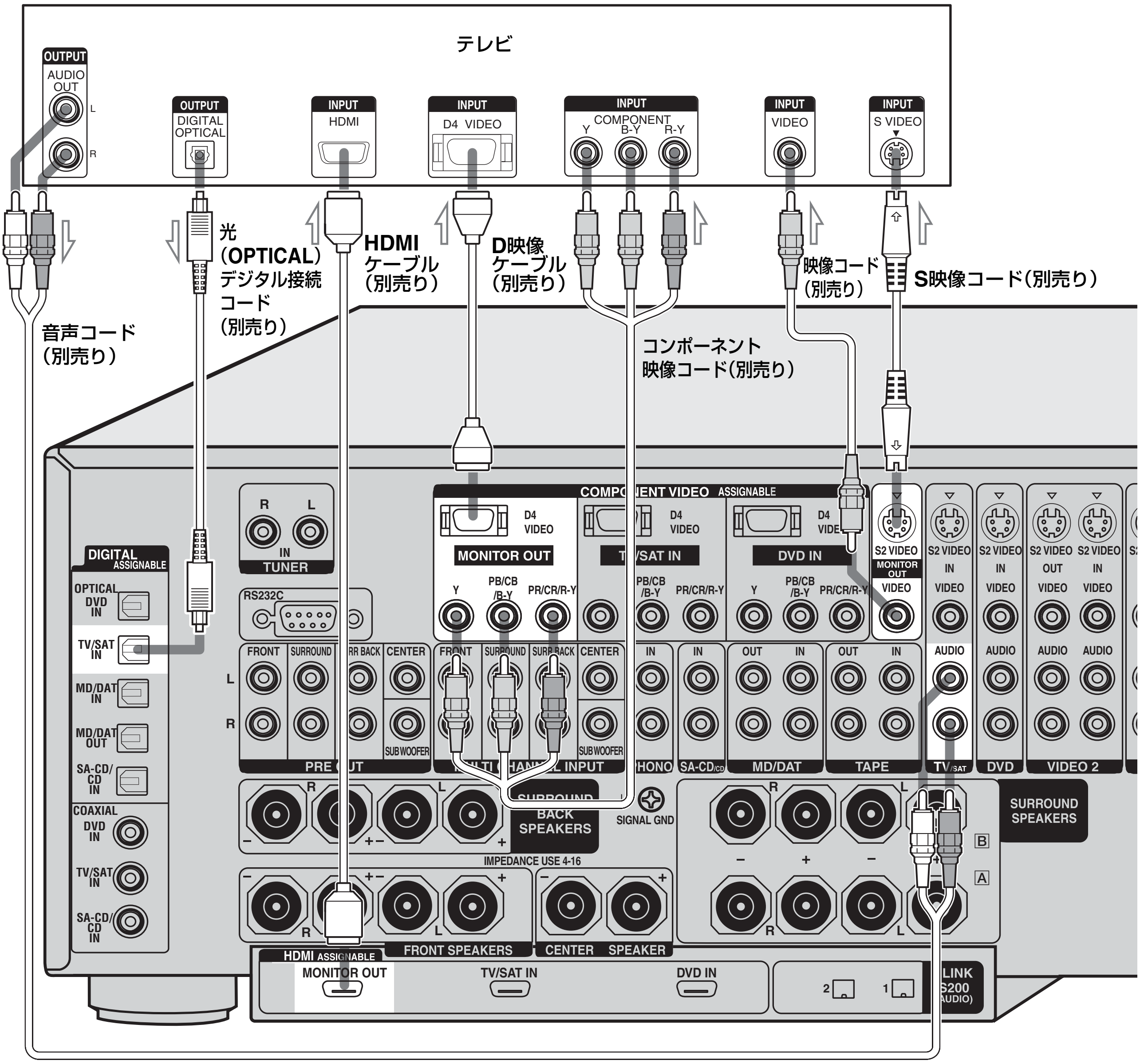
HDMI端子の接続のご注意

- HDMI IN端子に入力された信号はHDMI MONITOR OUT端子からのみ出力されます。他の音声/映像端子（PRE OUT端子、スピーカー端子、VIDEO OUT端子、S VIDEO OUT端子とMONITOR OUT端子）からは出力されません。
- 本機のメニュー画面は、HDMI MONITOR OUT端子からは出力されません。
- スーパーオーディオCDのマルチ/ステレオエリアの音声は出力されません。
- 再生機の映像や音声を、本機を通してテレビに出力している場合は、本機の電源を入れてください。電源が入っていないと、映像も音声も伝送されません。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音がでないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- 本機につないだ機器について詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

つづく

テレビを接続する

本機に接続した映像機器の映像や、本機のメニューの設定画面を見ることができます。
すべてのケーブルで接続する必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像を接続してください。

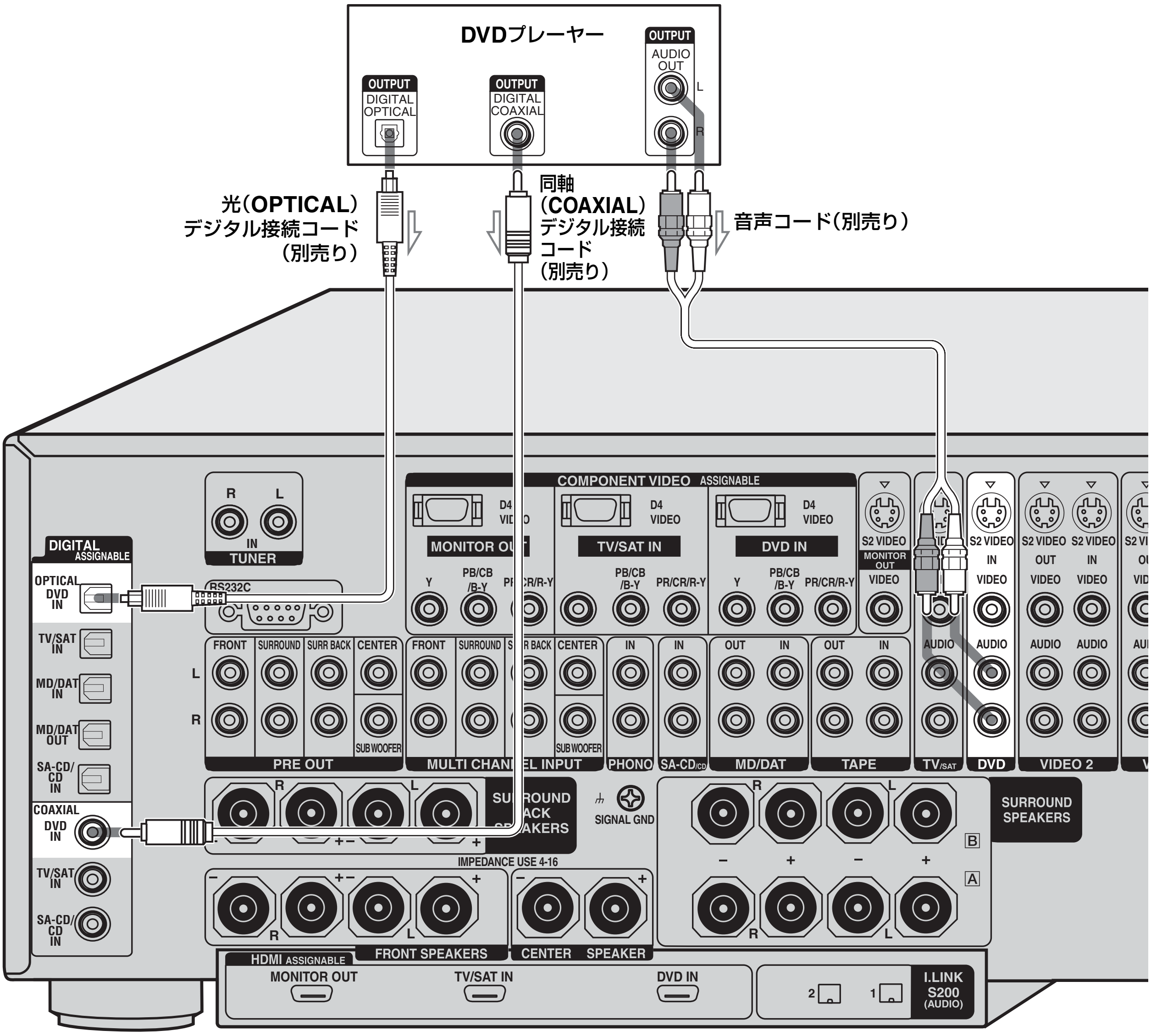


DVDプレーヤーを接続する

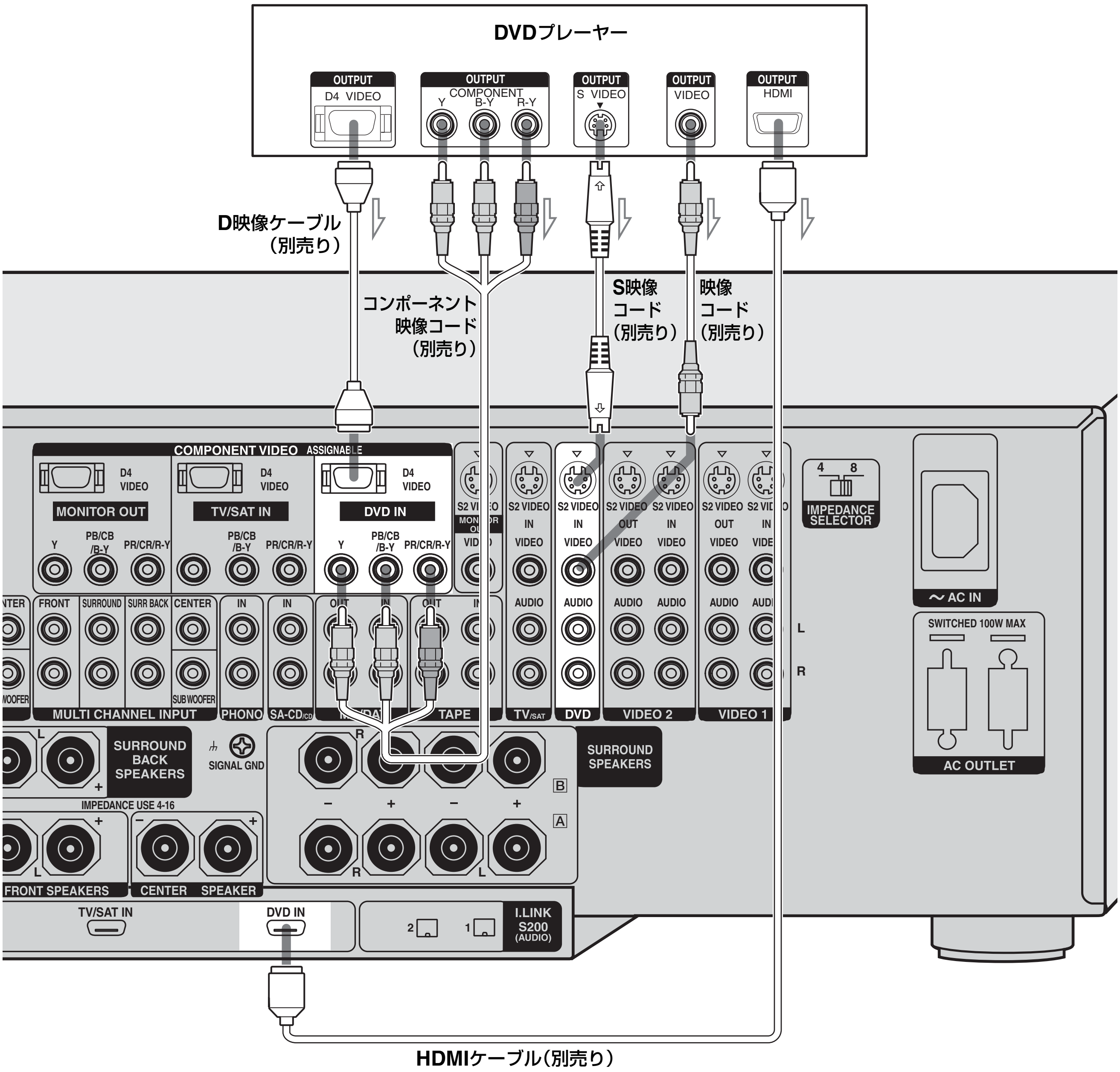
DVDプレーヤーの接続例です。
すべてのケーブルで接続する必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて音声と映像を接続してください。

① 音声を接続する

マルチチャンネルのデジタル音声を出力するために、DVDプレーヤー側でデジタル音声出力の設定をする必要があります。詳しくは、DVDプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。



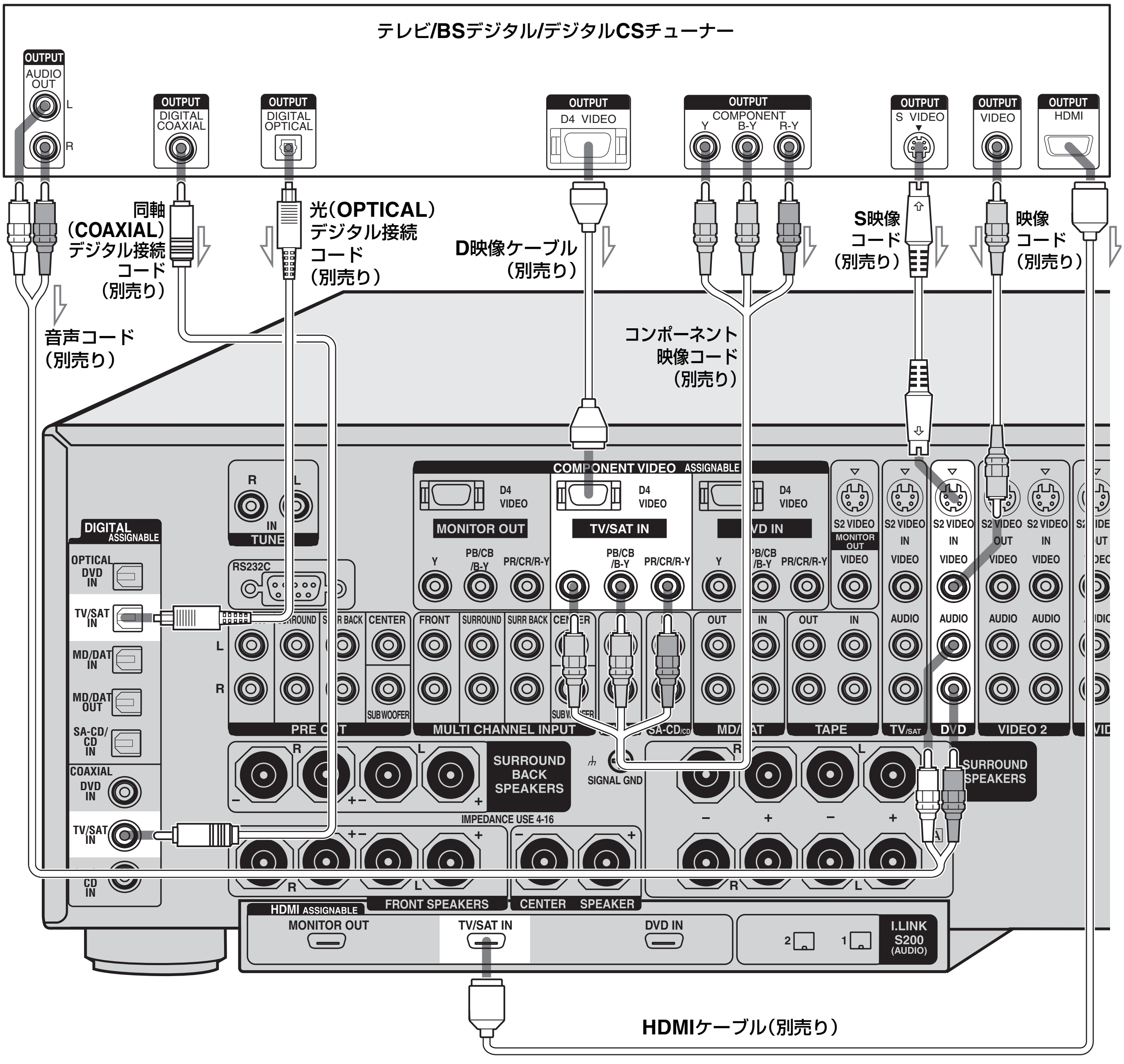
② 映像を接続する



DVDプレーヤー
OUTPUT D4 VIDEO
OUTPUT COMPONENT Y B-Y R-Y
OUTPUT S VIDEO
OUTPUT VIDEO
OUTPUT HDMI
D映像ケーブル（別売り）
コンポーネント映像コード（別売り）
S映像コード（別売り）
映像コード（別売り）
COMPONENT VIDEO ASSIGNABLE
MONITOR OUT
TV/SAT IN
DVD IN
IMPEDANCE SELECTOR
AC IN
SWITCHED 100W MAX
AC OUTLET
MULTI CHANNEL INPUT
PHONO
SA-CD/CD
TAPE
TV/SAT
DVD
VIDEO 2
VIDEO 1
SURROUND BACK SPEAKERS
SIGNAL GND
SURROUND SPEAKERS
IMPEDANCE USE 4-16
FRONT SPEAKERS
CENTER SPEAKER
TV/SAT IN
DVD IN
I.LINK S200 (AUDIO)
HDMIケーブル（別売り）

BSデジタル/デジタルCSチューナーを接続する

テレビ、BSデジタル/デジタルＣＳチューナーの接続例です。
すべてのケーブルで接続する必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせて接続してください。



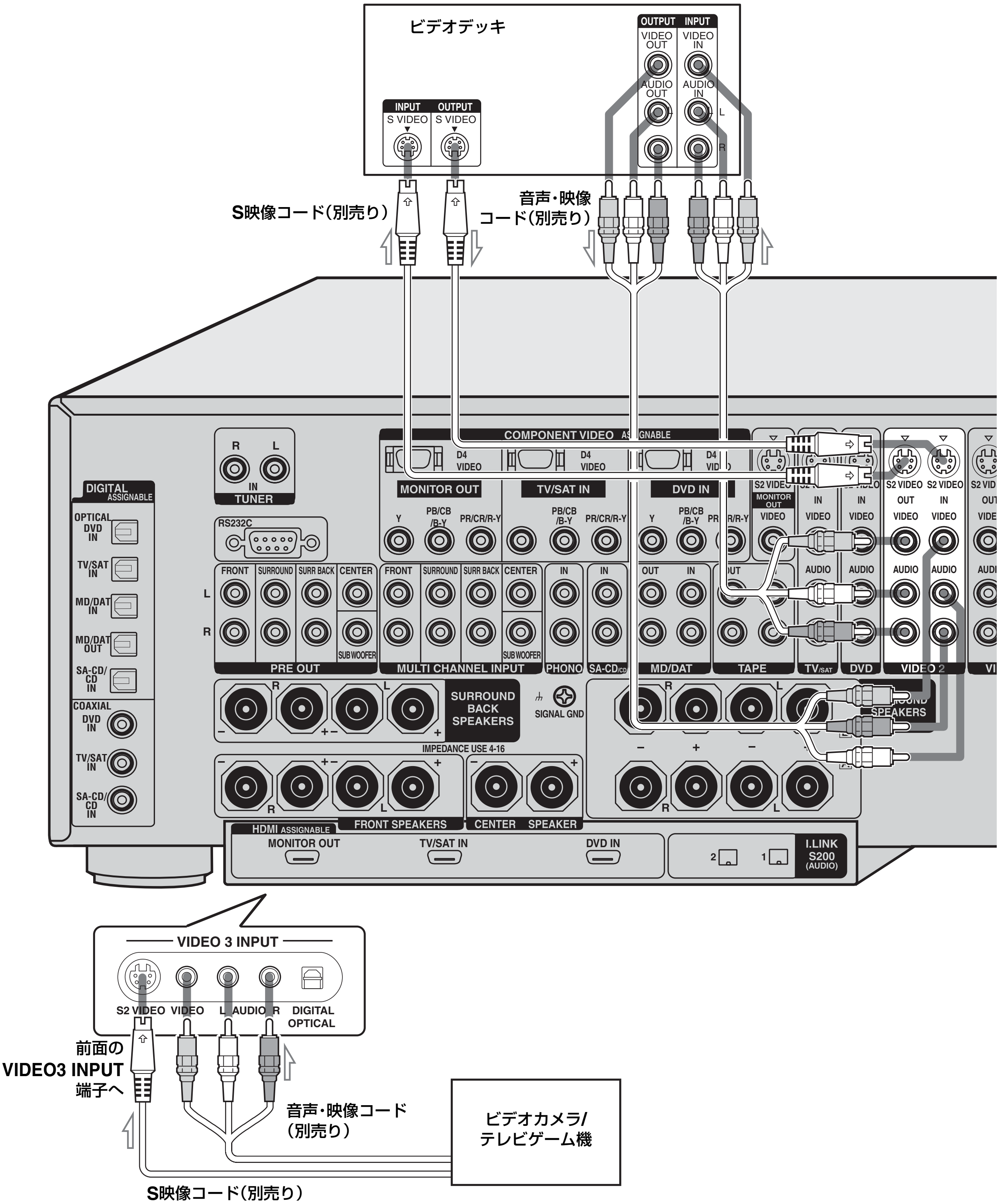
ちょっと一言

- HDMI IN 端子に入力された音声信号は、本機の PRE OUT、REC OUT、スピーカー端子からは出力されません。
- テレビの音声出力端子を本機の TV/SAT AUDIO IN 端子に接続すると、テレビの音声を本機で聞けます。このとき、テレビの音声出力端子が可変 / 固定切り換えの場合には、固定にします。別売りの BS チューナーなどを接続する場合は、接続図のように音声・映像端子ともに本機に接続してください。
- BS デジタルチューナーを D4 VIDEO TV/SAT IN 端子に接続したときは、D4 VIDEO MONITOR OUT 端子にプログレッシブ信号対応のテレビなどを接続することをおすすめします。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子につないだときは、プログレッシブ / インターレースなどの画面に関する設定はテレビ側で行ってください。
- BS デジタル放送の MPEG-2 AAC を聞くためには、BS デジタルチューナーの設定メニューで、デジタル出力を「AAC」に切り換えてください。設定項目が「PCM」か「AUTO」のみのときは「AUTO」に設定します。

つづく

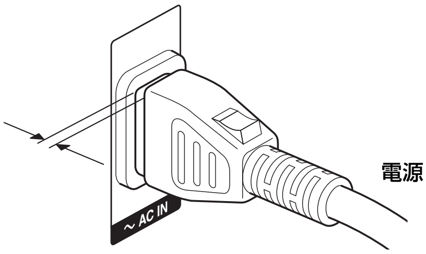
アナログ映像/音声出力端子のある機器

ビデオデッキなどアナログ端子のある機器の接続例です。

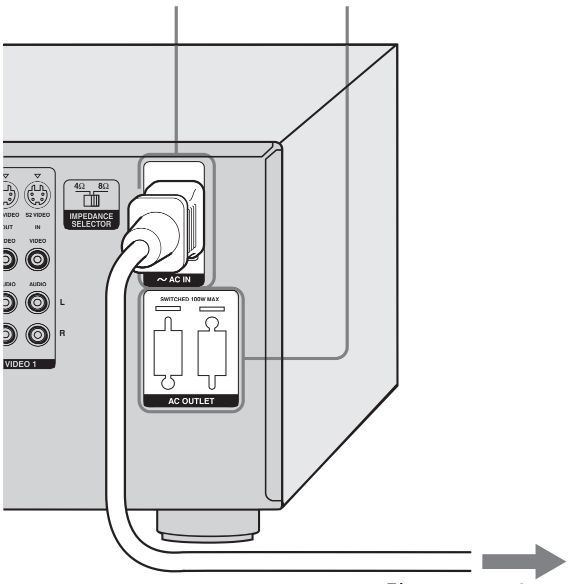


準備 4:電源コードをつなぐ

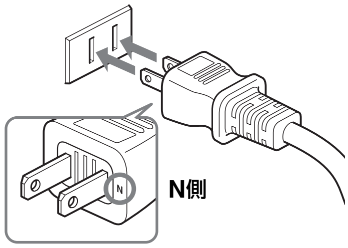
付属の電源コードを本機後面のAC IN （100V）端子に接続し、電源コードのプラグを壁のコンセントに接続します。
また、お手持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）に2台接続できます。



本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しく接続されています。



電源コードについて



付属の電源コードには、上の図のように「N」側の表示があります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。長短がない場合は、極性がわかる市販の検電ドライバーで調べます。

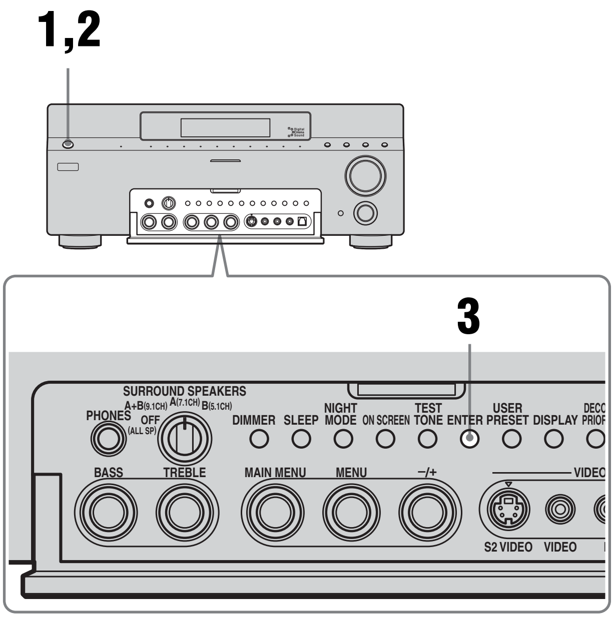
ご注意

- お手持ちの機器の電源コードに極性がある（白線または刻印が付いている）ときは、白線のある側を本機の AC OUTLET の白線のある側（アース側）へ差し込みます。
- 本機後面の電源コンセントは連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、接続した機器に電源を供給できます。
- 接続する機器の消費電力の合計が 100W を越えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因になります。

つづく

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになった後、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



1 I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を切る。

2 I/⏻（電源スイッチ）を 5 秒間押し続ける。

本体の表示窓に「ENTER to Clear All」と約10秒間表示されます。

3 「ENTER to Clear All」が表示されている間に ENTER を押す。

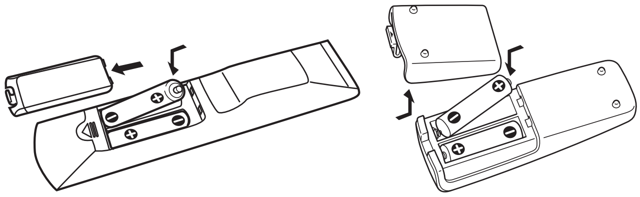
表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示された後、「MEMORY CLEARED!」と表示されます。下記がお買い上げ時の状態に戻ります。

- SPEAKER SET UP、LEVEL、SURR SET UP、EQUALIZER、CUSTOMIZEの各メニューで設定した内容
- 入力ごとに記憶したサウンドフィールド
- 入力に付けた名前

準備 5：リモコンを準備する

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（付属）2個を入れる。



AVリモコン　　　簡単リモコン

コマンドモードについて

アンプのコマンドモードとリモコンのコマンドモードが一致していないと通信ができず、リモコンで操作できません。本機とリモコンの両方がお買い上げ時のコマンドモードのままならば、新たに設定し直す必要はありません。

コマンドモードを切り換える

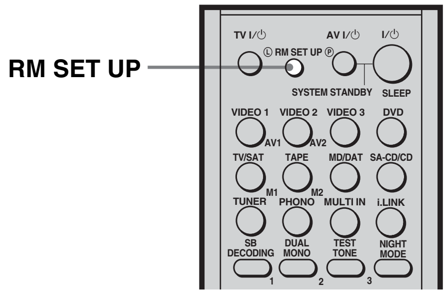
アンプとリモコンのコマンドモードを切り換えることができます（AV SYSTEM1またはAV SYSTEM2）。本機のコマンドモードの初期設定はAV SYSTEM2です。本機のリモコンでお手持ちのソニー製機器も動作する場合は、本機とリモコンのコマンドモードをAV SYSTEM1に変えると、他のソニー製機器は動作しなくなります。

本体のコマンドモードを切り換えるには

2CH を押しながら電源を入れる。

表示窓に「COMMAND MODE [AV2]」と表示され、AV SYSTEM2に設定されていることをご確認ください。
もう一度同じ操作をすると、AV SYSTEM2からAV SYSTEM1に設定が変わります。

AVリモコンのコマンドモードを切り換えるには



RM SET UPを押す。

現在のコマンドモードを確認できます。
RM SET UPの点滅が1回：AV SYSTEM1
RM SET UPの点滅が2回：AV SYSTEM2

1 RM SET UP を押しながら、AV1 または AV2 を押します。

2 RM SET UPを押し、RM SET UPの点滅回数で設定を確認します。

ご注意

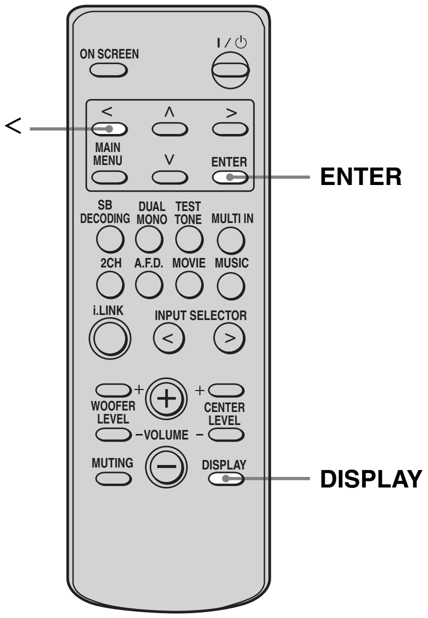
- 乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
  - ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
  - 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  - 液もれしたときは、電池入れについた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部🅁に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

ちょっと一言

- 乾電池の寿命は約 6 か月です。ただし、操作する条件により寿命は変わります。残りが少なくなるとリモコンで操作できる範囲が短くなります。これを目安にして、2 個とも新しい乾電池に交換してください。
- RM SET UP は先の細いもので 1 秒以上押してください。

つづく

簡単リモコンのコマンドモードを切り換えるには

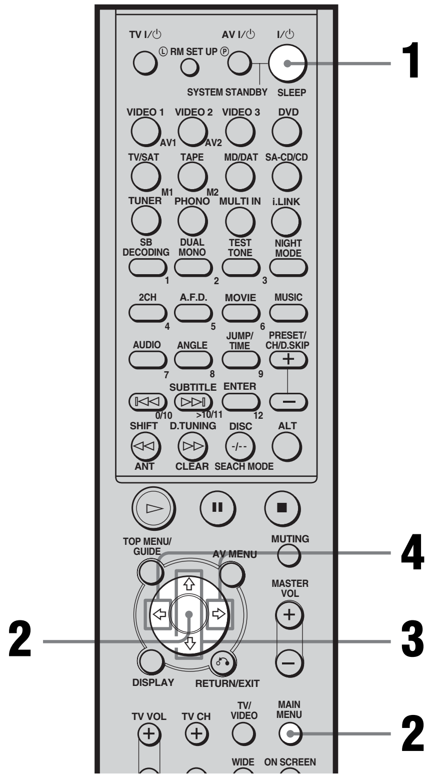


<とDISPLAYを押しながら、ENTERを押す。

AV SYSTEM2からAV SYSTEM1に設定が変わります。
もう一度同じ操作をすると、AV SYSTEM1からAV SYSTEM2に設定が変わります。
本機用の設定（AV SYSTEM2）になっているかは、VOLUMEなどを押して、本機の操作ができることをご確認ください。

準備 6:スピーカーを設定する

SPEAKER SET UPメニューを使って、本機に接続して使用するスピーカーと、その大きさ、距離などを設定してください。



1 **I/⏻（電源スイッチ）を押して、本機の電源を入れる。**

2 **MAIN MENU をくり返し押して「SPEAKER SET UP」を選び、コントロールボタンを押す。**
または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定したい項目を選ぶ。**
または本体のMENUつまみを回します。
詳しくは、「スピーカーの設定項目」（33ページ）をご覧ください。

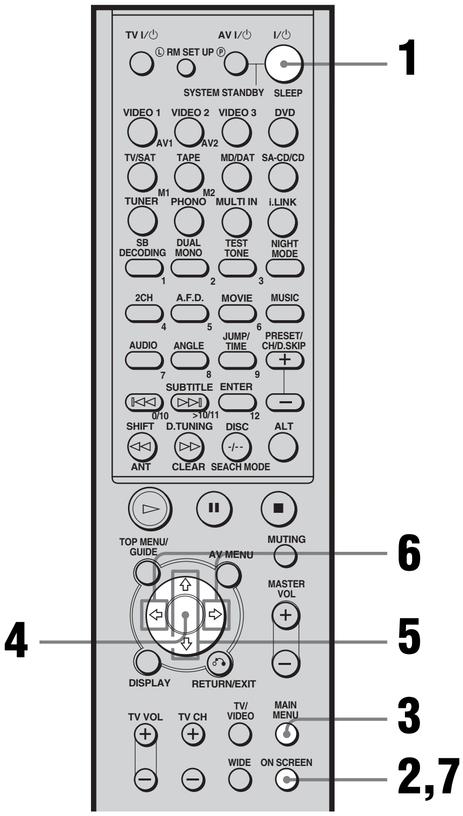
ご注意
- 表示窓の設定項目が暗く表示されているものは、サウンドフィールド（56 ～ 60 ページ）や他のスピーカーの設定状態などによって、選んだ設定項目が機能しない、あるいは変更できないことを意味します。

4 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、パラメーターを選ぶ。**
または本体の＋/－つまみを回します。

5 **手順３と４をくり返し、すべての項目を設定する。**

テレビの画面にメニューを表示して設定をする

ON SCREENを押し、本機に接続したテレビに設定画面を表示させると、より分かりやすくメニューを設定できます。



1 本機とテレビの電源を入れます。

2 ON SCREENを押します。
本機に接続したテレビに設定画面が表示されるように、テレビの入力を切り換えます。

3 MAIN MENUをくり返し押して、設定したいメニューを選びます。
テレビの画面には6項目のメニューが表示されます。
LEVEL
SURR SET UP
EQUALIZER
SPEAKER SET UP
CUSTOMIZE
STREAM INFO

4 コントロールボタンを押して、設定したいメニューを決定します。

5 ⇧/⇩方向にコントロールボタンを動かして、設定したい項目を選びます。

6 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、お好みのパラメータを選びます。

7 ON SCREENを押して終了します。

スピーカーの設定項目

お買い上げ時は、下線のパラメーターに設定されています。

■SP EASY SET UP（スピーカー簡単設定）

- YES
スピーカーの設定を簡単に行えます。付属の**「接続・設定ガイド」**を使って、あらかじめ用意されたスピーカーパターンを選ぶときに選びます。
- NO
個々のスピーカーの設定を自分で行うときに選びます。

■SPEAKER PATTERN（スピーカー設定パターン）

スピーカー簡単設定を「YES」にしたとき、スピーカーパターンを設定します。⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして（または本体の＋/－つまみを回す）、スピーカーパターンを選び、押して決定します。スピーカーパターンは、付属の**「接続・設定ガイド」**で確認してください。

つづく

■SUB WOOFER
（サブウーファー）

- YES
  サブウーファーをつないだ場合に選びます。
- NO
  サブウーファーをつながない場合に選びます。低域変換機能が働き、L.F.E.（重低音効果）信号が他のスピーカーから再生されます。

■FRONT SP
（フロントスピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。フロントスピーカーの低域成分は、サブウーファーから再生されます。
  「SMALL」を選ぶと、センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーの設定も自動的に「SMALL」になります（「NO」に設定されている場合を除く）。
  サブウーファーを「NO」に設定しているときは選べません。

■CENTER SP
（センタースピーカー）

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。
  フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。センタースピーカーの低域成分は、フロントスピーカー（「LARGE」に設定されている場合）またはサブウーファーから再生されます。
- NO
  センタースピーカーをつながない場合に選びます。
  センタースピーカーの音はフロントスピーカーから出力されます。

■SURROUND SP-A
（サラウンドスピーカー A）

■SURROUND SP-B
（サラウンドスピーカー B）

サラウンドバックスピーカーも自動的に同じ設定になります。

- LARGE
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだ場合に選びます。通常は「LARGE」を選びます。
  フロントスピーカーを「SMALL」に設定しているときは選べません。
- SMALL
  「LARGE」にすると音が歪んだり、サラウンド効果が不充分な場合に選びます。
  サラウンドスピーカーの低域成分は、サブウーファーまたは「LARGE」に設定した他のスピーカーから再生されます。
- NO
  サラウンドスピーカーをつながない場合に選びます。

■SURR BACK SP
（サラウンドバックスピーカー）

サラウンドスピーカーを「NO」に設定しているときは、サラウンドバックスピーカーも自動的に「NO」になり、設定を変えることはできません。

- DUAL
  サラウンドバックスピーカーを2台つないだ場合に選びます。音声を最大7.1チャンネルで出力します。
- SINGLE
  サラウンドバックスピーカーを1台だけつないだ場合に選びます。音声を最大6.1チャンネルで出力します。
- NO
  サラウンドバックスピーカーをつながない場合に選びます。

ご注意

サラウンドスピーカーの設定をする前に、使うスピーカーシステムを選んでください。（36 ページ）

ちょっと一言

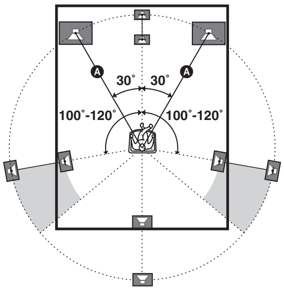
- ドルビーデジタルの低域変換機能を充分にお楽しみいただくために、サブウーファーのカットオフ周波数をできるだけ高く設定することをおすすめします。
- SURROUND SPEAKERS スイッチが 9.1 に設定されている場合、サラウンドスピーカー A で設定した内容はサラウンドスピーカー B にも反映されます。
- 各スピーカーの「LARGE」、「SMALL」の違いは、「そのスピーカーの低音をカットするかしないか」です。

「SMALL」でカットされた低音は、「LARGE」と設定した他のスピーカーまたはサブウーファーの低域に回されます。しかし、できれば低域はカットしたくないものです。したがって、どんなに小型のスピーカーでも、低音を再生させたい場合は「LARGE」に設定します。逆に大型のスピーカーでも、低音を再生させたくない場合は「SMALL」に設定します。
全体の音量が小さい場合はすべてのスピーカーを「LARGE」に設定し、低音感が足りない場合は、イコライザーで低域を上げることをおすすめします。イコライザーの設定については 70 ページをご覧ください。

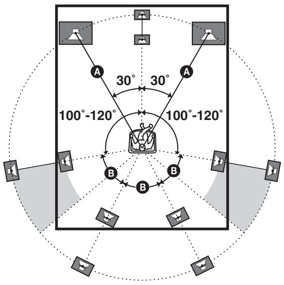
■FRONT ■.■ meter
（フロントスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションから左右のフロントスピーカーまでの距離（Ⓐ）を設定します。1.0〜7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のフロントスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

サラウンドバックスピーカーを1つだけ設置した場合



サラウンドバックスピーカーを2つ設置した場合
（Ⓑの角度は同じにする）



■CENTER ■.■ meter
（センタースピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離を設定します。1.0〜7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

■SURROUND-A ■.■ meter
（サラウンドスピーカー Aまでの距離）

■SURROUND-B ■.■ meter
（サラウンドスピーカー Bまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションから左右のサラウンドスピーカーまでの距離を設定します。
1.0〜7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のサラウンドスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■SURR BACK ■.■ meter
（サラウンドバックスピーカーまでの距離）

お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションからサラウンドバックスピーカーまでの距離を設定します。1.0〜7.0mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。
左右のサラウンドバックスピーカーがリスニングポジションから同じ距離に設置されていない場合は、リスニングポジションに近いほうのスピーカーの距離を設定します。

■SUB WOOFER ■.■ meter
（サブウーファーまでの距離）

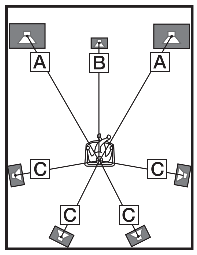
お買い上げ時の設定：3.0 meter
リスニングポジションからサブウーファーまでの距離を設定します。
1.0〜7.0 mの範囲で、0.1 m単位で設定できます。

より細かいスピーカー設定をするには

本機のCUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすることによって、サラウンドスピーカーの位置や高さなど、より細かい設定ができるようになります。
「MENU EXPAND」について詳しくは50ページを、設定のしかたについて詳しくは68ページをご覧ください。

ちょっと一言

- SURROUND SPEAKERS スイッチが 9.1 に設定されている場合、サラウンドスピーカー A で設定した内容はサラウンドスピーカー B にも反映されます。
- リスニングポジションからセンタースピーカーまでの距離 B は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも 1.5 m より近くに設定できません。以下の図の A − B が 1.5 m 以下になるように設置してください。
  例：A が 6 m のとき、B の距離は 4.5 m 以上にしてください。
  リスニングポジションからサラウンドスピーカーやサラウンドバックスピーカーまでの距離 C は、リスニングポジションからフロントスピーカーまでの距離 A よりも 4.5 m より近くに設定できません。以下の図の A − C が 4.5 m 以下になるように設置してください。
  例：A が 6 m のとき、C の距離は 1.5 m 以上にしてください。
  これらは、スピーカーの配置を適切に行い、よりよい音で楽しんでいただくために設けた制限です。
  使いこなしのヒントとして、実際の距離より近くスピーカーの位置を設定すると、音が出るタイミングが遅くなり、スピーカーが遠くにあるように感じられます。



スピーカーシステムを選ぶ

（サラウンドスピーカースイッチ 5.1/7.1/9.1）

本機は、前面にサラウンドチャンネルのA（7.1CH）、B（5.1CH）、A+B（9.1CH）切り換えを持っています。後面のサラウンドスピーカー端子はAとBがあります。

サラウンドスピーカー端子の使いかた

A端子の使いかた

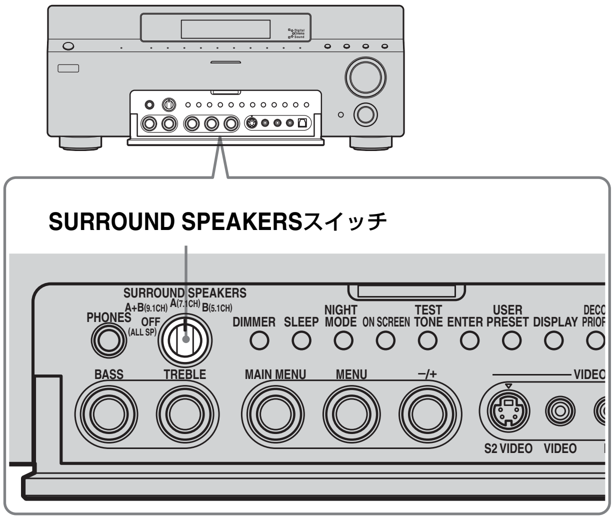
7.1チャンネルまでの操作では、サラウンドスピーカーはA端子につなぎます。このつなぎかたは、映画鑑賞にもスーパーオーディオCDを聞くときにも使える標準的な使いかたです。

B端子の使いかた

B端子は、7.1チャンネルとは別に5.1チャンネル用のサラウンドスピーカーを使う場合や、7.1チャンネルにさらに2本のサラウンドスピーカーを加えて、9.1チャンネルにするときに使います。B端子を使うと、映画用のシステム（7.1チャンネル）とスーパーオーディオCD音楽再生用のシステム（5.1チャンネル）を使い分けることができます。
映画用のサラウンドL/Rをサラウンドスピーカー A端子に、音楽用のサラウンドL/Rをサラウンドスピーカー B端子につないで使います。

サラウンドスピーカーを選ぶ

本機前面のSURROUND SPEAKERSスイッチを、使用するスピーカーシステムに合わせます。



合わせる位置	使うスピーカーシステム
A（7.1CH）	SURROUND SPEAKERS A端子につないだスピーカー（7.1チャンネル）
B（5.1CH）	SURROUND SPEAKERS B端子につないだスピーカー（5.1チャンネル） サラウンドバックスピーカーからは音は出力されません。
A＋B（9.1CH）＊	SURROUND SPEAKERS A端子とSURROUND SPEAKERS B端子につないだスピーカー（9.1チャンネル） このとき、SPEAKER SET UPで設定したパラメータは、サラウンドスピーカー Aの内容がサラウンドスピーカー Bにも反映されます。
OFF（ALL SP）	すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません。

＊サラウンドスピーカーを「A+B（9.1CH）」で使う場合、16Ω またはそれ以上のインピーダンスのスピーカーをつないでください。16Ω またはそれ以上のスピーカーをつなぐ場合は、後面の IMPEDANCE SELECTOR スイッチを 8Ω にしてください。それ以外の場合は、4Ω にしてください。

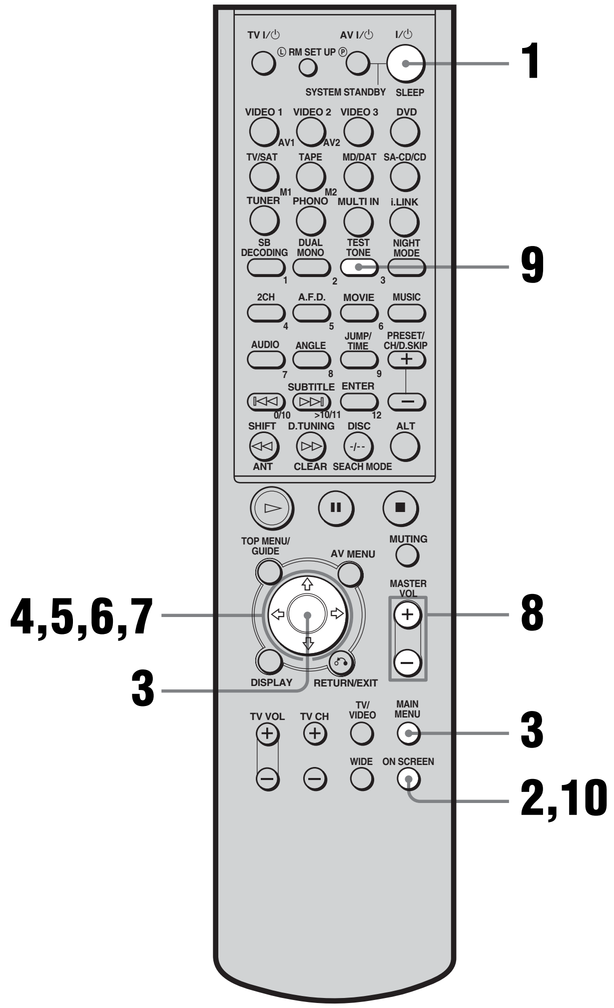
ご注意

- サラウンドスピーカーの設定をする前に、使うスピーカーシステムを選んでください。
- サラウンドスピーカーの設定（34 ページ）は、SURROUND SPEAKERS A 端子につないだスピーカーと SURROUND SPEAKERS B 端子につないだスピーカー用に別々に設定できます。

準備 7:スピーカーのレベルとバランスを調節する

(テストトーン)

リスニングポジションに座り、テストトーンの出力を聞きながらスピーカーのレベルとバランスを調節してください。

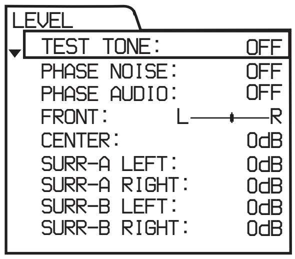


1 本機とテレビの電源を入れる。

2 リモコンの ON SCREEN を押す。
本機に接続したテレビに設定画面が表示されるように、テレビの入力を切り換えます。

3 リモコンの MAIN MENU をくり返し押して LEVEL メニューを選びコントロールボタンを押す。

4 リスニングポジションに座り、⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして TEST TONE を選ぶ。



5 ⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、テストトーンを開始させる。
本機の表示窓にLEVELメニューの「TEST TONE」が表示され、各スピーカーから順番にテストトーンが出力されます。

6 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定したい項目を選ぶ。

例)センタースピーカーのレベルを調節したい場合
(**MENU EXPAND**:**OFF**設定時)



7 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かしてお好みのパラメータを選ぶ。
テストトーン信号の出力チャンネルが調整中のチャンネルに固定され、調整どおりにスピーカーレベルが変わります。

例)センタースピーカーのレベルを**+1dB**に設定したい場合



ちょっと一言
本機は中心周波数 800Hz のテストトーンを採用しています。

つづく

8 すべてのスピーカーのテストトーンが同じ音量に聞こえるように、レベル（音量）調整する。

手順6、7の操作をくり返して、すべてのスピーカーの音量を調節します。
すべてのスピーカーの音量を一度に調節したいときは、MASTER VOL＋/－で調節します。

9 調節が終わったら、TEST TONE を押して「TEST TONE [OFF]」を選ぶ。

テストトーンが消えます。

10 リモコンの ON SCREEN を押す。

テレビの設定画面が消えます。

途中で止めるには

別のボタンを押すと、そのボタンに対応した動作に変わります。
そのまま一定時間が過ぎると通常の表示に戻ります。

テストトーンを出力するスピーカーを固定するには

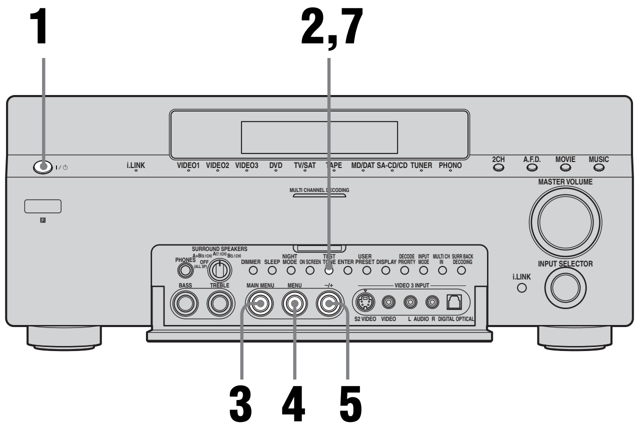
LEVELメニューで、「TEST TONE」を「FIX」に設定する（66ページ）。
選んだスピーカーからのみ、テストトーンが出力されます。

さらに細かい調節を行うには

隣り合う2個のスピーカーからテストトーンや音源を出力して、バランスやレベルを調節できます。
CUSTOMIZEメニューで、「MENU EXPAND」を「ON」に設定し（50ページ）、続けてLEVELメニューの「PHASE NOISE」または「PHASE AUDIO」で、調節したい2個のスピーカーを選びます。

本体で操作を行うには

本体で操作をする場合は、以下の手順を行ってください。



1 本機の電源を入れます。

2 TEST TONEを押します。

3 MAIN MENUつまみを回して「LEVEL」を選びます。

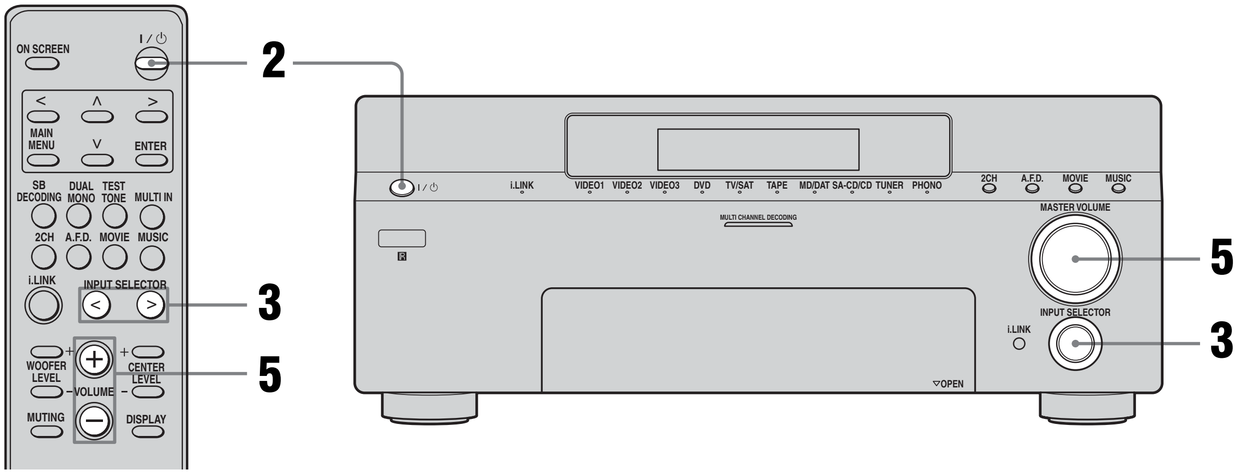
4 MENUつまみを回して、調節したいスピーカーの設定項目を選びます。

5 ＋/－つまみを回して、テストトーンが他のスピーカーと同じ音量に聞こえるようにレベル（音量）を調節します。

6 手順4、5の操作をくり返して、すべてのスピーカーの音量を調節します。

7 TEST TONEをもう一度押して終了します。

スーパーオーディオ CD/CD を聞く



!

- 本ページの操作はソニーのスーパーオーディオ CD プレーヤーの場合です。
- スーパーオーディオ CD プレーヤー、CD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の AV リモコンでも操作できます。

お聴きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 60 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム
クラシック：D.CONCERT HALL
ジャズ：JAZZ CLUB
ライブコンサート：
LIVE CONCERT、STUDIUM

2 チャンネルで記録された CD の音声を、すべてのスピーカー（マルチチャンネル）でも聞くことができます（詳しくは 57 ページをご覧ください）。

1 スーパーオーディオCDプレーヤー/CDプレーヤーの電源を入れ、ディスクをプレーヤーにセットする。

2 アンプ(本機)の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR < / > を押して SA-CD/CD を選び、アンプの入力を SA-CD/CD プレーヤーに切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してSA-CD/CDを選びます。

表示例）

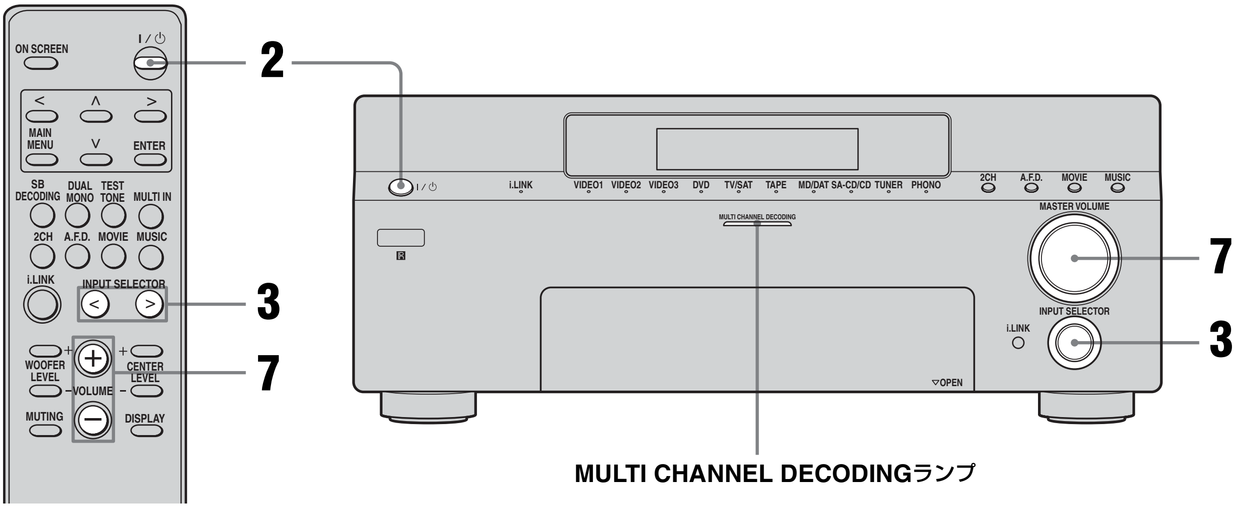


4 ディスクを再生する。

5 ボリュームを適当な音量に調節する。

6 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

DVD を見る



MULTI CHANNEL DECODINGランプ

!

- テレビ、DVD プレーヤーの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の AV リモコンでも操作できます。

ヒント

必要に応じて再生するディスクのサウンドフォーマットを選んでください。

ヒント

お聴きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 60 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム
映画：CINEMA STUDIO EX
ライブ映像：LIVE CONCERT
スポーツ：SPORTS

!

マルチチャンネルで音声が聞けない場合は、以下についてご確認ください。

- ソフトがマルチチャンネルに対応しているか（再生時に前面の MULTI CHANNEL DECODING ランプが点灯しているか）。
- 本機と DVD プレーヤーがデジタル接続されているか。
- DVD プレーヤー側の音声デジタル出力が設定されているか。

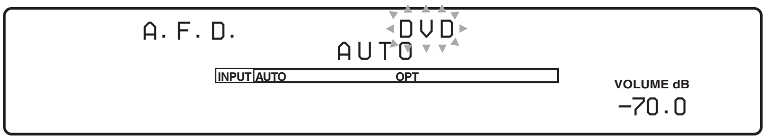
1 テレビ、DVD プレーヤーの電源を入れる。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR < / > を押して DVD を選び、アンプの入力を DVD プレーヤーに切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してDVDを選びます。

表示例）



4 テレビの入力を DVD プレーヤーの映像が映るように切り換える。

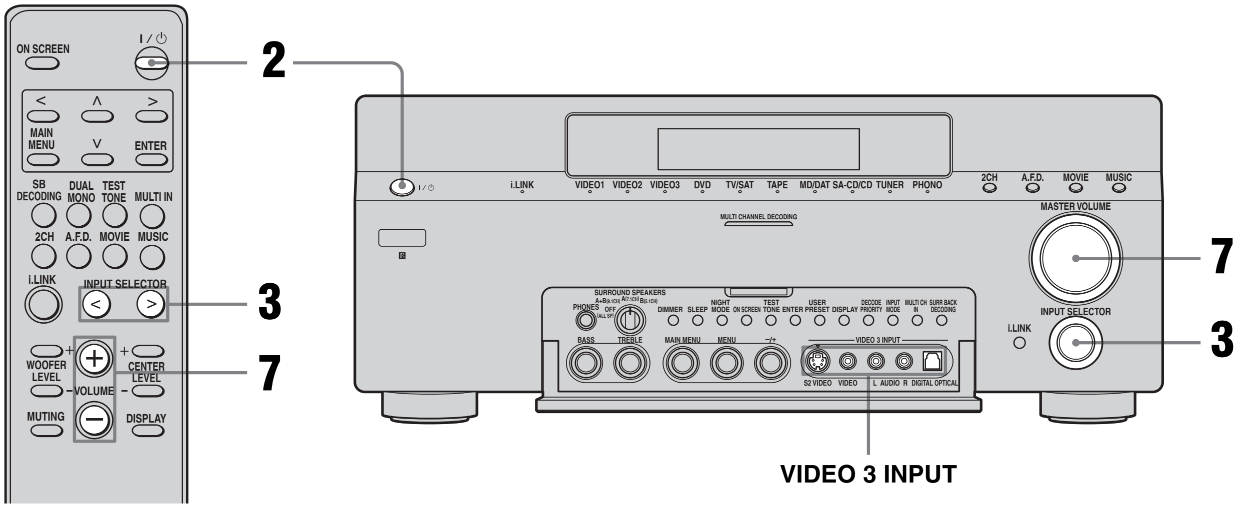
5 DVD プレーヤーの設定をする。

6 ディスクを DVD プレーヤーにセットし、再生する。

7 ボリュームを適当な音量に調節する。

8 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切って終了する。

ゲームを楽しむ



!

- テレビ、テレビゲーム機の操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の AV リモコンでも操作できます。

ヒント

お聴きになる音楽に合わせてお好みの音場効果を設定することができます（詳しくは 57 ページをお読みください）。
おすすめの音場プログラム：GAME

1 テレビ、テレビゲーム機の電源を入れる。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR < / > を押して VIDEO3* を選び、アンプの入力をテレビゲーム機に切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO3*を選びます。

＊テレビゲーム機を本体前面の VIDEO 3 INPUT 端子に接続している場合です。

表示例）



4 テレビの入力をテレビゲーム機の映像が映るように切り換える。

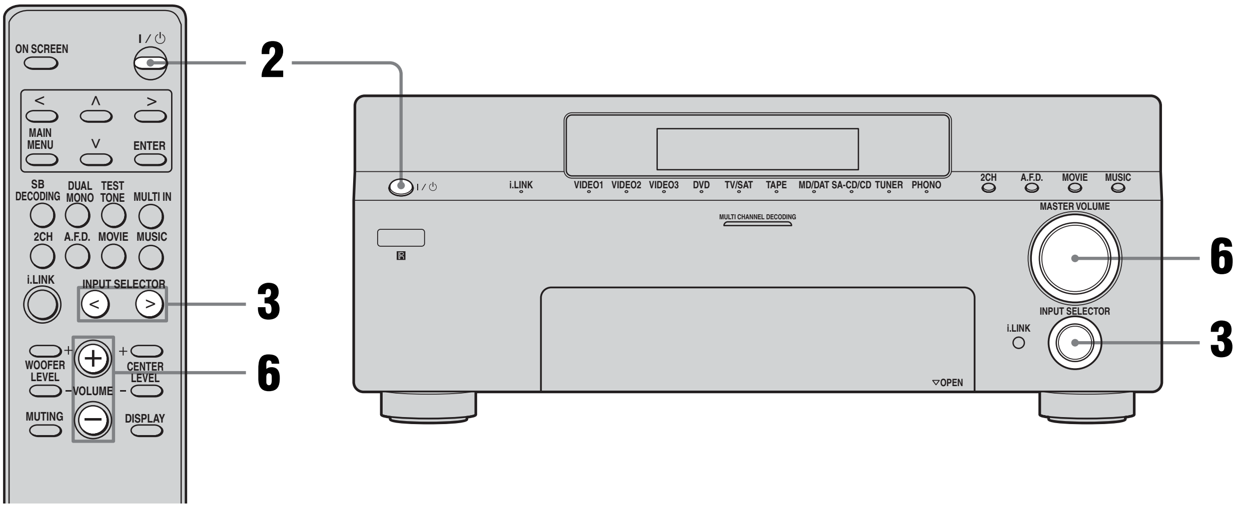
5 テレビゲーム機の設定をする。

6 ディスクをテレビゲーム機にセットし、再生する。

7 ボリュームを適当な音量に調節する。

8 使い終わったらディスクを取り出し、各機器の電源を切る。

ビデオを見る



- テレビ、ビデオデッキの操作について詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 本機は付属の AV リモコンでも操作できます。

テープに記録されている 2 チャンネルの音声を、すべてのスピーカー（マルチチャンネル）でも聞くことができます（詳しくは 57 ページをご覧ください）。

1 ビデオデッキの電源を入れる。

2 アンプ（本機）の電源を入れる。

3 リモコンの INPUT SELECTOR < / > を押して VIDEO1* を選び、アンプの入力をビデオデッキに切り換える。

または本体のINPUT SELECTORつまみを回してVIDEO1*を選びます。

＊ビデオデッキを VIDEO1 端子に接続している場合です。

表示例）



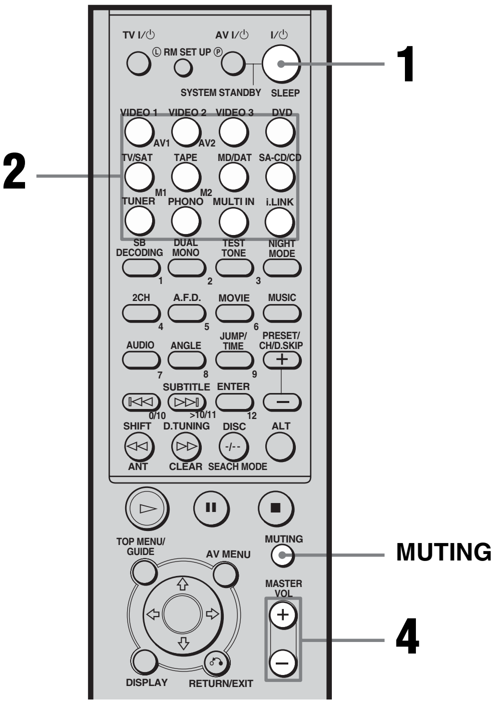
4 テレビの入力をビデオデッキの映像が映るように切り換える。

5 ビデオテープを再生する。

6 ボリュームを適当な音量に調節する。

7 使い終わったらビデオテープを取り出し、各機器の電源を切る。

入力を切り換える



1 アンプ(本機)の電源を入れる。

2 アンプの入力を、再生する機器に切り換える。

リモコンの、入力端子名と同じ名前のボタンを押します。
または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。i.LINK端子につないだ機器を選ぶときはi.LINKボタンを押してください。MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器を選ぶときはMULTI CH INボタンを押してください。
選んだ入力が本機の表示窓に表示されます。
HDMI端子につないだ機器からの入力信号は、HDMI MONITOR OUT端子につないだテレビなどで入力をHDMIに切り換えて選んでください。

選んだ入力と表示	再生できる機器
VIDEO 1または VIDEO 2	VIDEO 1またはVIDEO 2端子につないだビデオデッキなど
VIDEO 3	VIDEO 3端子につないだビデオカメラ、テレビゲームなど
DVD	DVD端子につないだDVDプレーヤーなど
TV/SAT	TV/SAT端子につないだBS/CSチューナーなど
TAPE	TAPE端子につないだカセットデッキなど
MD/DAT	MD/DAT端子につないだMD/DATデッキなど
SA-CD/CD	SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCD/CDプレーヤーなど
TUNER	TUNER端子につないだラジオチューナーなど
PHONO	PHONO端子につないだレコードプレーヤーなど
MULTI IN	MULTI CHANNEL INPUT端子につないだ機器
i.LINK 1または i.LINK 2*	i.LINK端子につないだi.LINK機器

＊リモコンの i.LINK を押して、i.LINK 1 または i.LINK 2 を選びます。このとき、つないでいる機器名（例：SCD-XA9000ES など）が表示されます。

3 機器の電源を入れて、再生する。

4 MASTER VOL ＋/－を押して、音量を調節する。

または本体のMASTER VOLUMEつまみを回します。
音量の初期値は最小（消音）になっています。

音を一時的に消したいときは

リモコンのMUTINGを押す。
解除するには、MUTINGをもう一度押すか、MASTER VOLUMEつまみを回して音量を上げます。
消音中に本体の電源を切っても、再度電源を入れたときは消音機能が働いています。

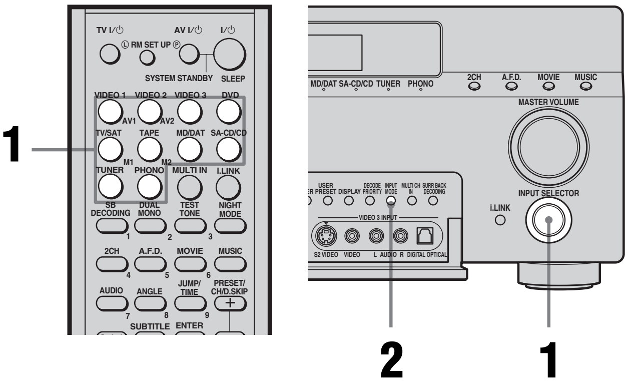
ご注意

- 「MULTI IN」を選ぶと、サウンドフィールド（59 ページ）などのサラウンド効果は働きません。
- 他の入力から i.LINK に入力を切り換えると、i.LINK 回路の接続をします。このとき「i.LINK CONNECTING」の表示が消えてから、i.LINK 機器を操作してください。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

（INPUT MODE）

本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方に接続している場合、音声入力モードを設定すると、どちらかに固定したり、切り換えることができます。



1 **入力切り換え用のボタンを押して、音声入力を選ぶ。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 **本体の INPUT MODE をくり返し押して、音声入力モードを選ぶ。**

表示窓に、選んだ音声入力モードが表示されます。

音声入力モード

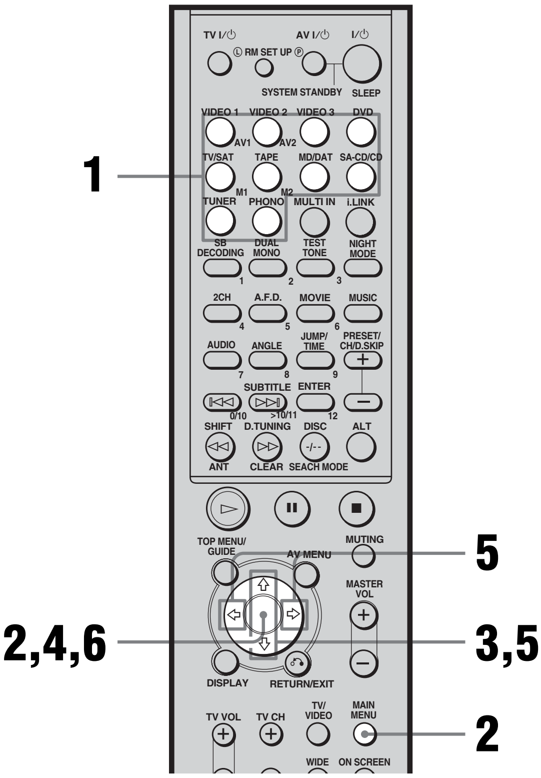
- AUTO 2CH
  デジタル音声入力がない場合は、AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が選ばれます。
- COAXIAL FIXED
  DIGITAL COAXIAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- OPTICAL FIXED
  DIGITAL OPTICAL入力端子へのデジタル音声入力が常に選ばれます。
- ANALOG 2CH FIXED
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- DIGITAL ASSIGN 機能（46 ページ）で他の入力に割り当てているデジタル音声入力は選ぶことができません。
- 入力によっては、設定できない音声入力モードがあります。

入力に名前を付ける

入力に8文字までの名前を付けて、本機の表示窓に表示できます。
機器名を付けると、どの端子に何の機器をつないだかがわかり、便利です。



1 **入力切り換え用のボタンを押して、名前を付けたい入力を選ぶ。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 **MAIN MENU を押して「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のMAIN MENUつまみを回して、「CUSTOMIZE」を選びます。

3 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンをくり返し動かして、「NAME IN?」を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。
入力名が点滅します。

4 **コントロールボタンを押す。**

または本体の+/−つまみを回します。
カーソルが点滅し、文字を選べる状態になります。

5 **⇧/⇩/⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして名前を付ける。**

または本体の+/−つまみとMENUつまみを使います。
⇧/⇩方向にコントロールボタンを動かして（または本体の+/−つまみを回して）文字を選び、⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして（またはMENUつまみを右に回して）コントロールボタンを次へ動かします。

スペースを入れるには

文字を入力せずに ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かします（または本体のMENUつまみを回します）。入力した文字をスペースに変更したい場合は、表示窓にスペースが表示されるまで⇧/⇩方向にコントロールボタンを動かします（または本体の+/−つまみを回します）。

間違えて入力したときは

⇦/⇨ボタンを押して（または本体のMENUつまみを回して）変更したい文字を点滅させ、⇧/⇩方向にコントロールボタンを動かして（または本体の+/−つまみを回して）、正しい文字を選びます。

6 **コントロールボタンを押す。**

名前が確定します。

7 **別の入力に名前を付けるときは、手順 1 ～ 6 をくり返す。**

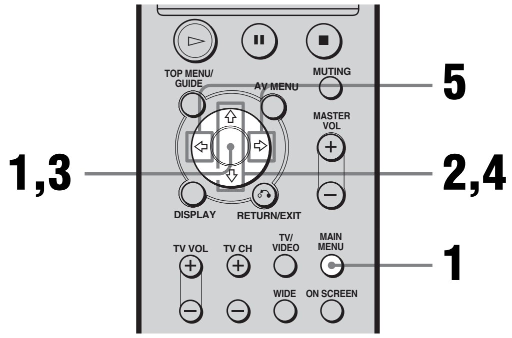
デジタル音声を他の入力でも聞くことができるように設定する

（DIGITAL ASSIGN）

OPTICALやCOAXIALのデジタル音声入力端子を持っている入力 （DVD IN、TV/SAT IN、MD/DAT IN、SA-CD/CD IN、VIDEO 3 INPUT）を使っていないときに、他の入力（VIDEO 2など）に割り当てることができます。

例：複数のデジタル機器（DVDプレーヤー）をつなぎたいときに、入力が足りない場合

- 1台目のDVDプレーヤー
  DVD OPTICAL IN端子につなぎます。入力で「DVD」を選ぶと、音声はOPTICALで聞くことができます。
- 2台目のDVDプレーヤー
  DVD COAXIAL IN端子につなぎ、VIDEO 2に割り当てます。入力で「VIDEO2」（２台目のDVDプレイヤー）を選ぶと、デジタルCOAXIALの音声で聞くことができるようになります。



1 MAIN MENU を押して、「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回して「CUSTOMIZE」を選びます。

2 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「DIGITAL ASSIGN ?」を選ぶ。

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 コントロールボタンを押す。

4 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、空いているデジタル音声入力（上記の例では「DVD COAX」）を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

5 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、手順 4 で選んだデジタル音声入力を割り当てたい入力（上記の例では「VIDEO 2」）を選ぶ。

または本体の＋/－つまみを回します。
これで入力を「VIDEO 2」に切り換えると、2台目のDVDプレーヤーの音声もCOAXIAL端子を通してデジタル音声になります。
割り当てができる入力は、デジタル音声入力ごとに異なります。
詳しくは、以下の「デジタル音声入力に割り当てできる入力」をご覧ください。

デジタル音声入力に割り当てできる入力

デジタル音声入力	割り当てできる入力
VIDEO3 OPT	VIDEO3、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER
DVD COAX、DVD OPT	DVD、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER
TV/SAT COAX、TV/SAT OPT	TV/SAT、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER
MD/DAT OPT	MD/DAT、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER
SA-CD/CD COAX、SA-CD/CD OPT	SA-CD/CD、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER

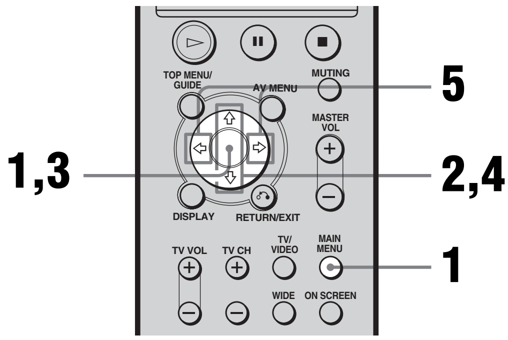
ご注意

- 複数のデジタル音声入力を、同じ入力に割り当てることはできません。
- 他の入力へ割り当てられたデジタル音声入力は、もとの入力で使うことはできません。
- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE（44ページ）の設定が変わることがあります。

コンポーネント映像を他の入力でも見られるように設定する

（COMPONENT/D-VIDEO ASSIGN）

コンポーネント映像を、他の入力を選んだときも楽しむことができます。
例：SA-CD/CDの入力を選んだときに、SA-CD/CD端子につないだスーパーオーディオCDの音を聞きながら、コンポーネント映像を楽しむことができます。



1 **MAIN MENU を押して、「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。**
または本体のMAIN MENUつまみを回して「CUSTOMIZE」を選びます。

2 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、「COMP/D-VIDEO ASSIGN?」を選ぶ。**
または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 **コントロールボタンを押す。**

4 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、割り当てるコンポーネント映像を選ぶ。**
または本体のMENUつまみを回します。

5 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、手順 4 で選んだコンポーネント映像入力を割り当てたい入力を選ぶ。**
または本体の+/−つまみを回します。
割り当てできる入力は、コンポーネント映像入力ごとに異なります。
詳しくは、以下の「コンポーネント映像入力に割り当てできる入力」をご覧ください。

アップコンバート機能（23ページ）を使うときは

映像/S映像端子への入力を、コンポーネント映像で出力するアップコンバート機能を使うときは、手順5で「NONE」を選びます。

コンポーネント映像入力に割り当てできる入力

コンポーネント映像入力	割り当てできる入力
DVD	NONE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、DVD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
TV/SAT	NONE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER

HDMI映像を他の入力でも見られるように設定するには（HDMI ASSIGN）

手順2で「HDMI ASSIGN?」を選ぶ。
HDMI映像以外の入力にHDMI映像入力を割り当て、その入力を選ぶとHDMI映像で見られるように設定できます。

HDMI映像入力に割り当てできる入力

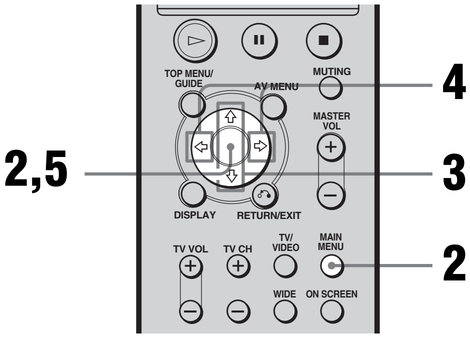
HDMI映像入力	割り当てできる入力
DVD	VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、DVD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER
TV/SAT	VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER

ご注意
- 複数のコンポーネント映像入力を、同じ入力に割り当てることはできません。
- 他の入力へ割り当てられたコンポーネント映像入力は、もとの入力で使うことはできません。

調節した内容を登録する

(USER PRESET)

調節したサウンドフィールドなどの設定を、USER PRESETに3つまで登録し、簡単に呼び出すことができます。



USER PRESETを登録する

1 サウンドフィールドなど、登録したい項目を調節する。

USER PRESETに登録できる項目

- 選んだ入力（43ページ）
- INPUT MODEの設定（44ページ）
- 選んだサウンドフィールド（59ページ）
- MULTI CH INの設定（43ページ）
- NIGHT MODEの設定（61ページ）
- EFFECT LEVELの設定（64ページ）
- C.WIDTHの設定（64ページ）
- DIMENSIONの設定（64ページ）
- PANORAMA MODEの設定（64ページ）
- SCREEN DEPTHの設定（65ページ）
- VIR.SPEAKERSの設定（65ページ）

2 MAIN MENU を押して「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回して、「CUSTOMIZE」を選びます。

3 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして「USER PRESET MEM.?」を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

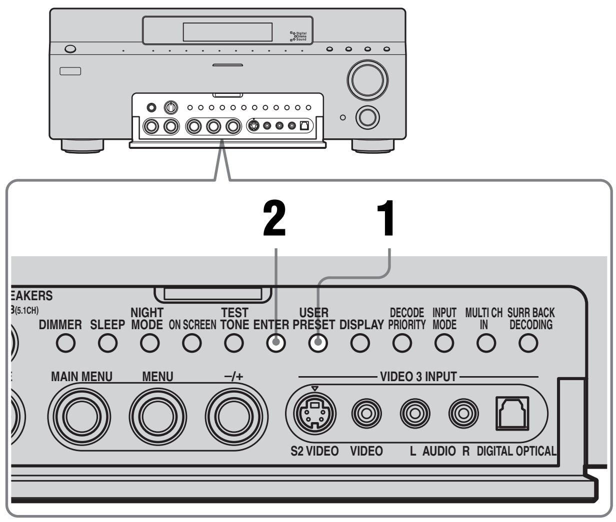
4 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、登録したい番号を選ぶ。

または本体の+/−つまみを回します。

5 コントロールボタンを押す。

6 他の設定を登録するときは、手順1から5をくり返す。

登録したUSER PRESETを使う



1 USER PRESET をくり返し押して、お好みの USER PRESET 番号を選ぶ。

2 ENTER を押す。

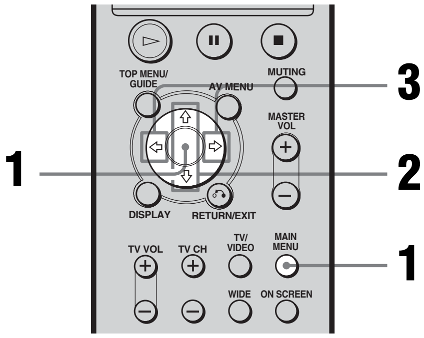
ちょっと一言

USER PRESET への登録後に DIGITAL ASSIGN（46 ページ）の設定を変えたため、登録した INPUT MODE の設定が使えないときは、選べる INPUT MODE が自動的に適用されます。

例）

1 DIGITAL ASSIGN で「DVD OPT」を「TAPE」に割り当て直す。
2 「TAPE」の INPUT MODE を「AUTO 2CH」または「OPTICAL FIXED」にし、USER PRESET に登録する。
3 DIGITAL ASSIGN で「DVD OPT」を「TAPE」から「DVD」に割り当て直す。
4 2で登録した USER PRESET を選ぶ。
TAPE の INPUT MODE は自動的に「ANALOG 2CH FIXED」になります。「AUTO 2CH」と「OPTICAL FIXED」は選べません。

各種設定を変える



1 **MAIN MENU を押して「CUSTOMIZE」を選び、コントロールボタンを押す。**

または本体のMAIN MENUつまみを回して「CUSTOMIZE」を選びます。

2 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。**

または本体のMENUつまみを回します。
詳しくは、以下の「設定項目」（50ページ）をご覧ください。

3 **⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かしてお好みの項目または設定値を選ぶ。**

または本体の＋/－つまみを回します。

4 **他の項目を設定するときは、手順２と３をくり返す。**

つづく

設定項目

お買い上げ時は、下線のように設定されています。

設定項目	設定値	説明
MENU EXPAND （メニュー項目拡張）	ON	表示窓にSPEAKER SET UP、SURR SET UP、LEVELの各メニューの拡張設定項目が表示されて、設定できるようになります。各メニューの設定項目について詳しくは、64～68ページをご覧ください。
	OFF	各メニューの拡張設定項目は表示されません。
DTS 96/24 DEC.[a] （DTS 96/24デコーディング）	AUTO	DTS 96/24信号が入力されたとき、サンプリング周波数 96 kHzで再生します。
	OFF	DTS 96/24信号が入力されても、サンプリング周波数 48 kHzで再生します。
SB DECODING （サラウンドバックデコーディング）	AUTO	サラウンドバックデコーディング機能を設定できます。 詳しくは、62ページの「サラウンドバックデコーディング機能の種類」をご覧ください。
	ON	
	OFF	
SB DEC MODE[b] （サラウンドバックデコーディングモード）	DDEX	サラウンドバックのデコーディングモードを設定します。 各モードについて詳しくは、63ページをご覧ください。
	PLII x MV	
	PLII x MS	
i.LINK VIDEO ASSIGN （i.LINK映像入力割り当て）		i.LINK入力1または2へ映像入力を割り当てることができます。リモコンの⇧/⇩方向にコントロールボタンを動かして、i.LINK 1、またはi.LINK 2を選んでください。 次にリモコンの⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、i.LINK 1、またはi.LINK 2を選んだときに出力する映像入力を選んでください。
	NONE	i.LINK入力を選んでいるときに、映像出力を行いません。
	VIDEO 1、 VIDEO 2、 VIDEO 3、 DVD、TV/SAT	i.LINK入力を選んでいるときに、選んだ入力の映像をモニター出力します。
i.POWER （i.LINK回路の電源）	AUTO	不要なi.LINK回路の電源を自動的に切ります。i.LINK回路の影響を受けない高音質の音声をお楽しみいただけます。「AUTO」にすると、音が出るまでに少し時間がかかります。「AUTO」に設定して入力を切り換えるときは、43ページのご注意をご覧ください。
	EVER ON	i.LINK回路の電源を常に入れたままにします。「AUTO」に設定して、音が出るまでに時間がかかることが気になる場合などに選びます。この機能はi.LINK端子1に接続した機器に対してのみ有効です。つなぐ機器によっては効果がない場合もあります。
H.A.T.S.[c] （H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能）	ON	i.LINKから入力されたデジタル音声信号を一時的に蓄え、精度の高いタイミングで信号を読み出しアナログ信号に変換します。このため、デジタル音声信号転送時に生じるジッター（信号を読み取るタイミングの時間軸のゆれ）の影響を受けず、音質がよくなります。この機能を使わないときは「OFF」にします。
	OFF	H.A.T.S.機能は働きません。

a) A.F.D. モード（56 ページ）が「AUTO」の場合のみ有効です。それ以外のサウンドフィールドでは、常に「OFF」になります。
96kHz での再生中はサラウンドバックデコーディングは機能しません。

b) SB DECODING/SB DEC MODE の設定は、A.F.D. モードでドルビープロロジック IIx を選んでいるときは無効になり、自動的に最適なデコードモードが設定されます。

c) H.A.T.S. 機能の性質により、再生機の操作（例：再生ボタンを押す、停止ボタンを押す、一時停止ボタンを押す、など）をしてから音が出るまで少し時間がかかることがあります。また、音源によってもかかる時間は異なります。また、接続している機器や音源によっては、「ON」に設定している場合でも機能しないことがあります。

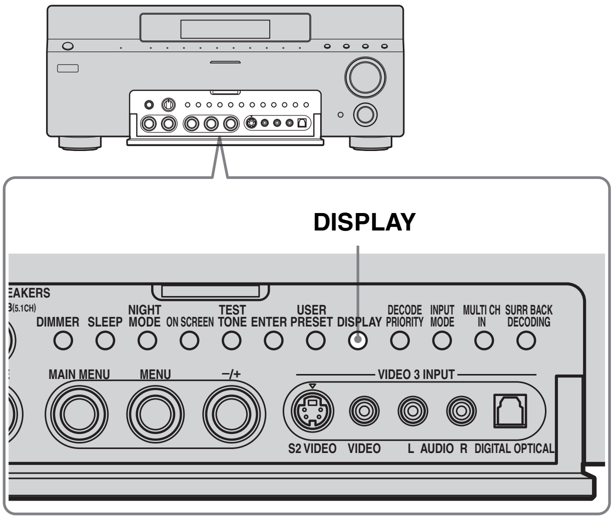
設定項目	設定値	説明
A/V SYNC	0 ms	入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを調節することができます。 0 ms～200 msの範囲で10 msごとに調節できます。 ただし、i.LINK入力でDSD信号を受けている場合は機能しません。
DC PHASE L. （(DC PHASE Linearizer）低域の増強）		低域の位相特性を伝統的なアナログアンプの特性に近づけます。
	OFF	位相補正を行いません。
	LOW-A、 STD-A、 HIGH-A、 LOW-B、 STD-B、 HIGH-B	「LOW」、「STD」、「HIGH」の順に補正が行われる帯域が広がります。「-B」のつくB特性は、より低音感が豊かな位相特性を与えます。
S.FIELD LINK （サウンドフィールドリンク）	ON	入力ごとに、最後に選んでいたサウンドフィールドを記憶させることができます。例えばSA-CD/CDでSTADIUMを選び、別の入力に切り換えた後で再びSA-CD/CDに切り換えると、自動的にSTADIUMになります。
	OFF	サウンドフィールドリンクは働きません。
DEC. PRIORITY （デジタル音声入力デコードプライオリティ）		DIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを設定できます。 本体のDECODE PRIORITYでも設定できます。
	AUTO	ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、PCMの音声入力を自動的に切り換えます。
	PCM	PCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。「AUTO」に設定してCDなどのデジタル音声を入力したときに、再生を始めると音が途切れる場合は「PCM」にしてください。なお、PCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「AUTO」に設定してください。
DUAL MONO （二重音声モード）		BSデジタル放送のMPEG-2 AAC/ドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。リモコンのDUAL MONOでも設定できます。
	MAIN/SUB	左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。
	MAIN	主音声のみを再生します。
	SUB	副音声のみを再生します。
	MAIN+SUB	主音声と副音声が合成された音声を再生します。
OSD H.POSITION （オンスクリーン画面位置（水平方向））	4	オンスクリーン画面の水平方向の位置を設定します。0～64の範囲で設定できます。
OSD V.POSITION （オンスクリーン画面位置（垂直方向））	4	オンスクリーン画面の垂直方向の位置を設定します。0～32の範囲で設定できます。
UP YUV HUE （色あいの調節）	4	通常の映像信号（コンポジット信号）、S映像信号をコンポーネント映像信号にアップコンバートしたときに映像の色あいを調節します。1～7の範囲で設定できます。
UP YUV SHARPNESS （シャープネスの調整）	4	通常の映像信号（コンポジット信号）、S映像信号をコンポーネント映像信号にアップコンバートしたときに映像のシャープネスを調節します。1～5の範囲で設定できます。
UP YUV COLOR （色の濃さの調整）	4	通常の映像信号（コンポジット信号）、S映像信号をコンポーネント映像信号にアップコンバートしたときに映像の色の濃さを調節します。1～7の範囲で設定できます。
DIGITAL ASSIGN ? （デジタル音声入力の割り当て）		特定の入力のデジタル音声入力を、他の入力に割り当てることができます。詳しくは、「デジタル音声を他の入力でも聞くことができるように設定する （DIGITAL ASSIGN)」（46ページ）をご覧ください。

つづく

設定項目	設定値	説明
COMP/D-VIDEO ASSIGN? (コンポーネントビデオ入力の割り当て)	DVD、TV/SAT NONE VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3 DVDまたはTV/SAT TAPE MD/DAT SA-CD/CD TUNER	DVDとTV/SATのコンポーネントビデオ入力を他の入力に割り当てることができます。
HDMI ASSIGN? (HDMI入力の割り当て)	DVD、TV/SAT VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3 DVDまたはTV/SAT TAPE MD/DAT SA-CD/CD TUNER	DVDとTV/SATのHDMI入力を他の入力に割り当てることができます。
USER PRESET MEM.? (ユーザープリセットメモリー)	調節したサウンドフィールドなどの設定を登録します。詳しくは、「調節した内容を登録する (USER PRESET)」(48ページ)をご覧ください。	
NAME IN? (名前設定)	入力の名前を付けることができます。詳しくは、「入力に名前を付ける」(45ページ)をご覧ください。	

表示窓の表示を切り換える

表示窓の表示を切り換えて、サウンドフィールドなどを確認できます。



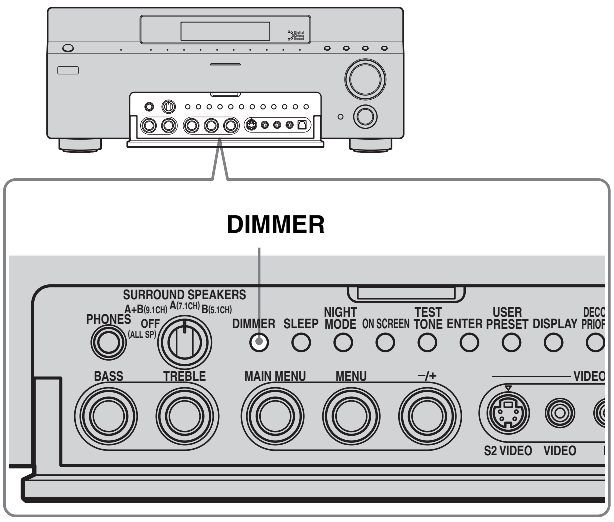
本体または簡単リモコンのDISPLAYをくり返し押す。

DISPLAYを押すたびに、表示が次のように切り換わります。

登録した名前*とサウンドフィールド名
↕
入力名とサウンドフィールド名

＊入力に名前を付けているときのみ表示されます。
すべてスペースが入力されていたり、入力名と同じ名前が付けられている場合は名前は表示されません。

表示窓の明るさを切り換える



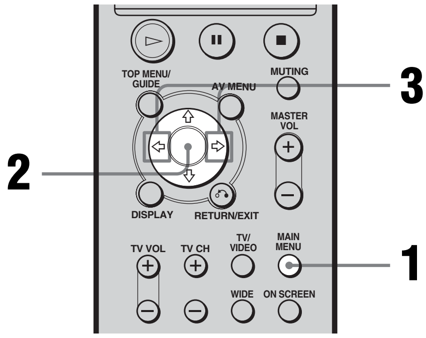
DIMMERをくり返し押す。

表示窓の明るさが3段階（0% DOWN、60% DOWN、100% DOWN*）で切り換わります。

＊100%DOWNを選んでいるときは、「100%DOWN」という文字は表示されません。

入力ストリームの情報を見る

デジタルで入力された信号のストリーム情報（フォーマット情報、チャンネル情報）を確認できます。入力ストリーム情報は、入力されるデジタル信号に変化があったときにも自動的に4秒間表示されます。



1 MAIN MENUをくり返し押して、「STREAM INFO」を選ぶ。

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

2 コントロールボタンを押す。

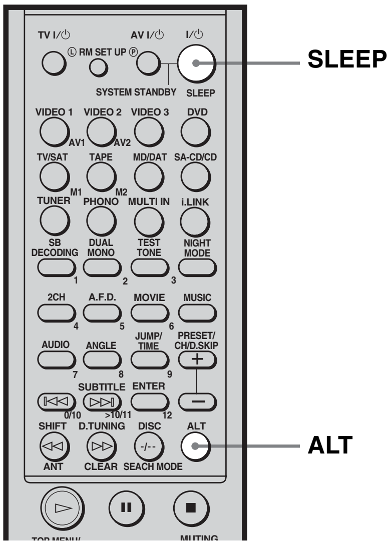
または本体のMENUつまみを回します。
入力ストリーム情報が表示されます。

3 さらに情報を見るときは、⇦/⇨方向にコントロールボタンをくり返し動かす。

または本体の+/−つまみを回します。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。



ALT を押したあとに SLEEP を押す。

または本体のSLEEPを押します。
SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

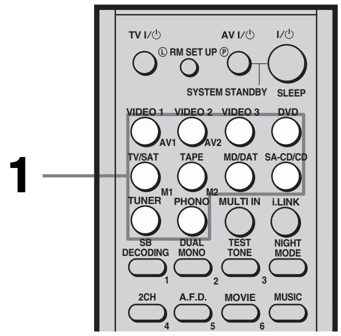
→2:00:00→1:30:00→1:00:00→0:30:00→OFF

スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。

他機を使って録音／録画する

カセットテープやミニディスクに録音する

本機を使ってカセットテープまたはミニディスクに録音できます。お手持ちのカセットデッキまたはMDデッキの取扱説明書もご覧ください。



1 **入力切り換え用のボタンを押して再生機器を接続した入力を選ぶ。**
または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 **再生機器を準備する。**
例：CDプレーヤーにCDを入れる。

3 **録音機器を準備する。**
カセットテープまたはミニディスクを入れ、録音レベルを調節する。

4 **録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。**

デジタル音声を録音するには

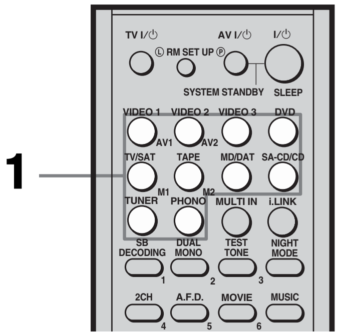
再生機器をデジタル音声入力（OPTICAL IN）端子に接続し、録音機器をOPTICAL MD/DAT OUT端子に接続してください。

ちょっと一言
スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、電源が入っているときに、SLEEP を押します。表示窓に残り時間が表示されます。

ご注意
- TAPE OUT 端子または MD/DAT OUT 端子から出力される信号に対して、音の調節は効きません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は、FRONT の L/R 音声のみ出力されます。

録画する

本機を使って映像機器からビデオテープなどに録画できます。お手持ちの録画機器の取扱説明書もご覧ください。



1 **入力切り換え用のボタンを押して、再生機器を接続した入力を選ぶ。**

または本体のINPUT SELECTORつまみを回します。

2 **再生機器の準備をする。**

例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

3 **録画機器の準備をする。**

（VIDEO 1またはVIDEO 2につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

4 **録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。**

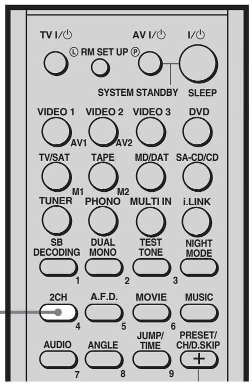
ご注意

- 録画防止機能のあるソースは録画できません。
- MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は、FRONT の L/R 音声のみ出力されます。

フロントスピーカーのみから音を出す

（2CH STEREO）

フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。サブウーファーからは、音が出ません。
標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにして（ダウンミックス）再生します。



2CH

2CH を押す。

表示窓に「2CH STEREO」と表示され、2CH STEREOモードになります。

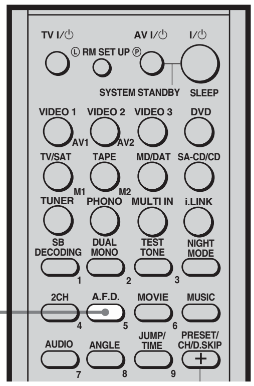
入力音声を自動的に判別する

（AUTO FORMAT DIRECT）

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、原音により忠実な音で聞いたり、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネル音声で聞くためのデコーディングモードを選びます。

原音により忠実な音で聞く

入力された音声信号（ドルビーデジタル、DTS、2チャンネルステレオ音声など）を自動的に判別し、適切な処理をします。
このモードは残響などの効果を加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。
通常は「AUTO」をおすすめしますが、入力ストリームに応じてサラウンドバックデコーディング機能（62ページ）を使ったほうがよい場合があります。



A.F.D.

A.F.D. をくり返し押して､「AUTO」を選ぶ。

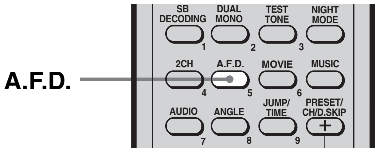
入力された音声信号を自動的に判別し、適切な処理をします。

ちょっと一言

- 2CH STEREO モードでは、サブウーファーからは音が出ませんが、サブウーファーも使って 2 チャンネルステレオ音声を再生することもできます。A.F.D. モードを「AUTO」にし（57 ページ）、SURR SET UP メニューの「A.F.D. 2CH SW」を「CREATE」にしてください（65 ページ）。
  2 チャンネル信号に対してサブウーファーから出力される低域効果音である L.F.E. 信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成して出力します。

2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞く

2チャンネル音声をマルチチャンネル音声で聞くためのA.F.D.モードを選べます。



A.F.D. をくり返し押して、A.F.D. モードを選ぶ。

A.F.D.モードの種類

デコーディングモード	A.F.D.モード 「表示」	デコード後の マルチチャンネル音声	効果
（自動判別）	A.F.D. AUTO 「AUTO」	（自動判別）	（自動判別）
ドルビープロロジック	A.F.D. PRO LOGIC 「PRO LOGIC」	4チャンネル	ドルビープロロジック処理を行います。2チャンネルで記録されている音声を4チャンネルにデコードして再生します。
ドルビープロロジックII	A.F.D. PRO LOGIC II MOVIE 「PRO LOGIC II MOVIE」	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
	A.F.D. PRO LOGIC II MUSIC 「PRO LOGIC II MUSIC」	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
	A.F.D. PRO LOGIC II GAME 「PRO LOGIC II GAME」	5チャンネル	ドルビープロロジックIIのゲームモード処理を行います。
ドルビープロロジックIIx	A.F.D. PRO LOGIC IIx MOVIE 「PRO LOGIC IIx MOVIE」	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹替版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
	A.F.D. PRO LOGIC IIx MUSIC 「PRO LOGIC IIx MUSIC」	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音された音声の再生に適しています。
	A.F.D. PRO LOGIC IIx GAME 「PRO LOGIC IIx GAME」	7チャンネル	ドルビープロロジックIIxのゲームモード処理を行います。
DTS Neo:6	A.F.D. Neo:6 Cinema 「Neo:6 Cinema」	6チャンネル	DTS Neo:6のシネマモード処理を行います。
	A.F.D. Neo:6 Music 「Neo:6 Music」	6チャンネル	DTS Neo:6のミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ録音の再生に適しています。
（マルチステレオ）	A.F.D. MULTI STEREO 「MULTI STEREO」	（マルチステレオ）	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

つづく

サブウーファーを接続したときは

サブウーファーから出力される低域効果音である L.F.E.信号がないときは、本機がサブウーファー用信号を生成し、サブウーファーから出力します。ただし、すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているときは、「Neo:6 Cinema」、「Neo:6 Music」では生成されません。

ご注意

- 以下の場合は機能しません。
  - MULTI CH IN を選んでいる。
  - i.LINK で DSD 信号を受信している。
- DTS 2CH の音声に対しては DTS Neo:6 は働かず、2 チャンネルで再生します。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48kHz で再生されます。

ちょっと一言

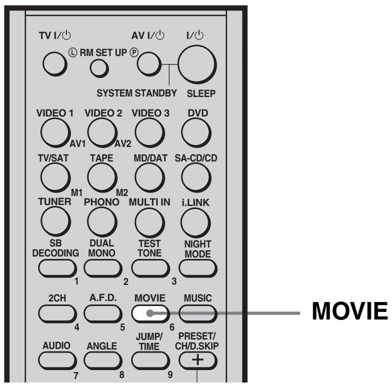
マルチチャンネル信号が入力されているときは、ドルビープロロジック IIx デコーディングのみ有効です（このとき、CUSTOMIZE メニューで設定した SB DECODING/SB DEC MODE の設定は無効になります）。ドルビープロロジック IIx 以外のデコーディングモードを選んでいるときは、エンコードされたままのマルチチャンネルの音声が出力されます。

音場効果を選ぶ

（サウンドフィールド）

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しむことができます。ご自分の部屋で、映画館やコンサートホールの臨場感を再現できます。

映画用のサウンドフィールドを選ぶ



MOVIE をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールドの種類

■CINEMA STUDIO EX A DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Cary Grant Theater」スタジオの音響特性を再現します。標準的なモードで、あらゆる映画に適しています。

■CINEMA STUDIO EX B DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントの「Kim Novak Theater」スタジオの音響特性を再現します。このモードは音場効果が豊富に使われているSF映画やアクション映画に適しています。

■CINEMA STUDIO EX C DCS

ソニー・ピクチャーズエンターテインメントのスコアリング・ステージの音響特性を再現します。このモードはミュージカルや、オーケストラによるサウンドトラックが特長的な映画などに適しています。

■V.MULTI DIMENSION DCS

1組の実在するサラウンドスピーカーから、多数の仮想サラウンドスピーカーを生成します。

ご注意

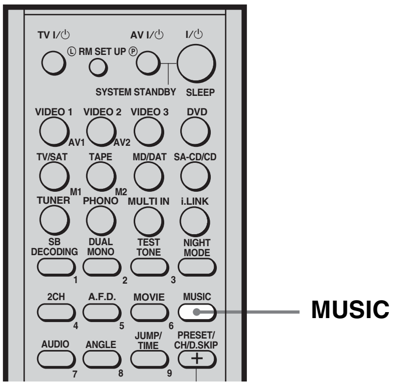
- 以下の場合は機能しません。
  - MULTI CH IN を選んでいる。
  - i.LINK で DSD 信号を受信している。
  - サンプリング周波数が 48kHz より高い信号を受けている。
- DTS 96/24 信号受信中に音場効果を設定すると、強制的に 48kHz で再生します。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、ノイズが目立つことがあります。
- 仮想スピーカーによるサウンドフィールド再生では、直接サラウンドスピーカーから音は聞こえません。

ちょっと一言

DVD ソフトなどのエンコード方式は、パッケージに付いているマークで確認できます。

- DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルでエンコードされているソフト
- DOLBY SURROUND DOLBY SURROUND：ドルビーサラウンドでエンコードされているソフト
- dts：DTS デジタルサラウンドでエンコードされているソフト
- DCS マークの付いたサウンドフィールドは、DCS 技術を利用しています。DCS について詳しくは、「技術解説」（84 ページ）をご覧ください。
- DCS マークの付いたサウンドフィールドが選ばれているとき、Digital Cinema Sound ランプが点灯します。

音楽用のサウンドフィールドを選ぶ



MUSIC をくり返し押して、お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

表示窓に、選んだサウンドフィールドが表示されます。

サウンドフィールドの種類

■D.CONCERT HALL A

3D立体音像処理により、反射によって大きなサウンドステージをつくることが特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。

■D.CONCERT HALL B

3D立体音像処理により、ホールの残響が特長的なコンサートホールの音響特性を再現します。

■CHURCH

石造りの教会の音響を再現します。

■JAZZ CLUB

ジャズクラブの音響を再現します。

■LIVE CONCERT

300席あるライブハウスの音響を再現します。

■STADIUM

屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。

■SPORTS

スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。

■HEADPHONE （2CH）*

2CHまたはA.F.D.を押す。2チャンネル（ステレオ）で音を出します。デジタル入力のマルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。

■HEADPHONE （MULTI）*

MULTI INを押す。MULTI CHANNEL INPUT端子に入力されたアナログ音声を2チャンネルにダウンミックスして出力します。

■HEADPHONE THEATER DCS *

MOVIEまたはMUSICを押す。映画館にいるような雰囲気をヘッドホンで再現します。

＊ヘッドホンを接続したときに選べるサウンドフィールドです。

映画用/音楽用のサウンドフィールドを解除するには

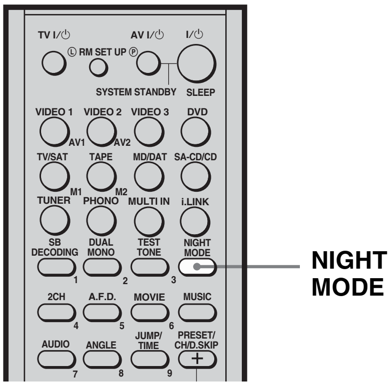
2CH、またはA.F.D.を押します。

ご注意

音楽用のサウンドフィールドを選んでいるときは、サラウンドバックデコーディング（62 ページ）は機能しません。

小音量でサラウンド効果を楽しむ（NIGHT MODE）

音量が小さい状態でも、劇場のようなサラウンド効果を楽しめる機能です。サウンドフィールドと同時に働かせることができます。
例えば深夜に映画を見るとき、小音量でもセリフをはっきりと聞き取ることができます。



NIGHT MODE を押す。

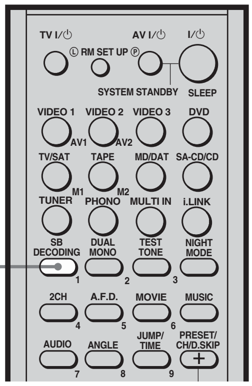
NIGHT MODE機能が働きます。

ちょっと一言
NIGHT MODE 機能を働かせると、BASS、TREBLE、EFFECT のレベルが上がり、「D.RANGE.COMP.」が「MAX」になります（67 ページ）。

サラウンドバックデコーディング機能を使う

（SB DECODING）

「ドルビーデジタルEX」や「DTS-ESマトリックス6.1」、「DTS-ESディスクリート6.1」などで記録された映画のDVDソフトなどを再生するとき、サラウンドバック信号をデコードします。これにより、映画製作者が意図したサラウンド音声を楽しむことができます。



SB DECODING をくり返し押して、サラウンドバックデコーディング機能を選ぶ。

サラウンドバック信号がデコードされているときは、SB DECランプが点灯します。

サラウンドバックデコーディング機能の種類

■「AUTO」

入力ストリームに6.1チャンネルデコードフラグ[a)]があるとき、フラグに適したサラウンドバック信号をデコードします。

入力ストリーム	出力チャンネル	サラウンドバックデコード処理
ドルビーデジタル5.1	5.1[e)]	—
ドルビーデジタルEX[b)]	6.1[e)]	SB DEC MODEで設定（63ページ）されたデコードモードによるデコード処理
DTS 5.1	5.1[e)]	—
DTS-ESマトリックス6.1[c)]	6.1[e)]	DTSマトリックスデコード処理
DTS-ESディスクリート6.1[d)]	6.1[e)]	DTSディスクリートデコード処理

■「ON」

入力ストリーム5.1チャンネル、6.1チャンネルの信号に対してSB DEC MODEで設定（63ページ）されたデコード処理を行います。

■「OFF」

サラウンドバック信号はデコードされません。

a) 6.1 チャンネルデコードフラグとは、DVD などのソフトに書き込まれている情報です。

b) サラウンド EX フラグが書き込まれている、ドルビーデジタルの DVD です。ドルビー社のホームページなどで、サラウンド EX 映画を判別することができます。

c) 5.1 チャンネルの信号とともに、DTS-ES マトリックス信号であることを示すフラグが書き込まれています。

d) 5.1 チャンネルの信号とともに、これをディスクリート 6.1 チャンネルに戻すための拡張ストリームが記録されています。ディスクリート 6.1 チャンネル信号は、映画館では使用されない DVD 専用の信号です。

e) サラウンドバックスピーカーを 2 本接続しているときは、7.1 チャンネルになります。

ちょっと一言

サラウンドバックデコーディングモードは、CUSTOMIZE メニューの「SB DECODING」でも設定できます（50 ページ）。

ご注意

- 以下の場合は機能しません。
  - MULTI CH IN を選んでいる
  - i.LINK 入力で DSD 信号を受信している
  - DTS 96/24 信号を受信して、96kHz でデコードしている
  - 音楽用サウンドフィールドモードが選ばれている
- パッケージにドルビーデジタルサラウンド EX のロゴが記載されていても、フラグが書き込まれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、「ON」を選んでください。
- A.F.D. モードで「PLIIx」を選んでいるときは、SB DECODING MODE の設定に関わらず、PLIIx デコード処理されます。

サラウンドバックデコーディングモードを選ぶ（SB DEC MODE）

サラウンドバックデコーディング機能で「AUTO」または「ON」を選び、入力ストリームにドルビーデジタルEXのフラグが付いている場合は、更に下記のサラウンドバックデコーディングモード（SB DEC MODE）を選ぶことができます。

サウンドバックデコーディングモード	スピーカー設定	サラウンドバックデコード処理
「DDEX」	7.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MV」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理
	6.1ch	ドルビーデジタルEXのマトリックスデコード処理
「PLIIx MS」	7.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理
	6.1ch	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理

入力ストリームとデコード状態を表示で確認する

A.F.D.モードを選んでいるとき、サラウンドバックデコーディング機能が働いていれば、現在入力しているストリーム表示後に現在のデコード状態を表すPROCESSING表示が出ます。

■ ドルビーデジタルEXデコードのとき

入力ストリーム	数秒後	PROCESSING表示
DOLBY DIGITAL[3/2.1]	⇒	DOLBY D EX[3/2.1]
DOLBY D EX[3/2.1]	⇒	DOLBY D EX[3/2.1]
DTS[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX
DTS-ES Matrix[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX
DTS-ES Discrete[3/3.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX*
DTS 96/24[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋DOLBY EX
MPEG-2 AAC[3/2.1]	⇒	AAC[3/2.1]＋DOLBY EX

* DTS-ES Discrete[3/3.1] 信号に対して、ドルビーデジタル EX デコード処理によりサラウンドバックデコーディングを行う場合は、DTS[3/2.1] の信号に対してデコード処理を行います。

■ ドルビープロロジックIIxデコードのとき

入力ストリーム	数秒後	PROCESSING表示
DOLBY DIGITAL[3/2.1]	⇒	DOLBY D[3/2.1]＋PLIIx
DOLBY D EX[3/2.1]	⇒	DOLBY D[3/2.1]＋PLIIx
DTS[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx
DTS-ES Matrix[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx
DTS-ES Discrete[3/3.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx*
DTS 96/24[3/2.1]	⇒	DTS[3/2.1]＋PLIIx
MPEG-2 AAC[3/2.1]	⇒	AAC[3/2.1]＋PLIIx

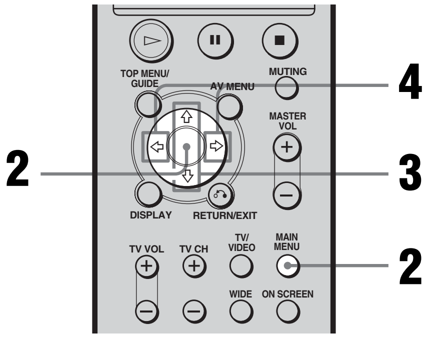
* DTS-ES Discrete[3/3.1] 信号に対して、ドルビープロロジック IIx デコードによりサラウンドバックデコーディングを行う場合は、DTS[3/2.1] に対して行います。

ご注意

- 映画用のサウンドフィールドが選ばれているときは、SB DEC MODE の設定に関わらず、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われます。
- PLIIx MS モードを選んでも、下記の場合は、通常時とデコード処理が異なります。スピーカー設定が 6.1ch のときは、ドルビーデジタル EX のマトリックスデコード処理が行われ、スピーカー設定が 7.1ch のときは、ドルビープロロジック IIx ムービー処理が行われます。
  – ドルビーデジタルサラウンド EX 信号が入力されている
  – SB DECODING が「AUTO」に設定されている

サウンドフィールドの効果を調節する

調節した内容は、サウンドフィールドごとに記憶されます。



1 **マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源(DVD など)を再生する。**

2 **MAIN MENU をくり返し押して「SURR SET UP」を選び、コントロールボタンを押す。**
または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 **⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。**
または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、以下の「SURR SET UPメニューの設定項目」をご覧ください。

4 **音を聞きながら ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節 / 設定する。**
または本体の+/−つまみを回します。

5 **他の項目を調節/設定するときは、手順3と4をくり返す。**

SURR SET UPメニューの設定項目

■EFFECT LEVEL _ _ _ %
（エフェクトレベル）

お買い上げ時の設定：100%
値を上げるほど、サラウンド効果が大きくなります。
20〜120%の範囲で、5%単位で調節できます。

SURR SET UPメニューの拡張設定項目

CUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすると（50ページ）、以下のすべての項目を表示・設定できるようになります。

■C.WIDTH L__C__R
（センター音像イメージ幅コントロール）

お買い上げ時の設定：(3)
ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（57ページ）場合のみ設定できます。
ドルビープロロジックIIで生成したセンターチャンネルの音声を、フロントL/Rスピーカーに振り分ける調節ができます。

■DIMENSION F__ __S
（ディメンションコントロール）

お買い上げ時の設定：センター（0）
ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（57ページ）場合のみ設定できます。
フロントチャンネルとサラウンドチャンネルのレベル差を調節できます。

■PANORAMA MODE
（パノラマモード）

ドルビープロロジックII、IIxのミュージックモード処理に対して、さらに細かい調節をしたいときに設定します。A.F.D.モードを「PRO LOGIC II MUSIC」または「PRO LOGIC IIx MUSIC」に設定している（57ページ）場合のみ設定できます。

- ON

フロントの音場を左右に大きく回りこませて、サラウンドにつながるような音場モード（パノラマモード）を楽しむことができます。

- OFF

パノラマモードは働きません。

ご注意
サウンドフィールドによって、調節できる設定項目は異なります。暗く表示されている設定項目は調節できません。

■SCREEN DEPTH（スクリーンの奥行き）

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド（59ページ）専用の設定です。
映画館のように、フロントスピーカーの音がスクリーンの中から出てくるような感覚を、リスニングルームにつくり出します。

• ON

非常に大きなスクリーンから音が出てくるような奥行き感をつくり出します。

• OFF

この機能は働きません。

■VIR.SPEAKERS（仮想スピーカー）

シネマスタジオEXモードのサウンドフィールド（59ページ）専用の設定です。

• ON

仮想スピーカーを生成します。

• OFF

仮想スピーカーを生成しません。

■A.F.D. 2CH SW

A.F.D.モードを「AUTO」に設定している場合のみ設定できます。

• CREATE

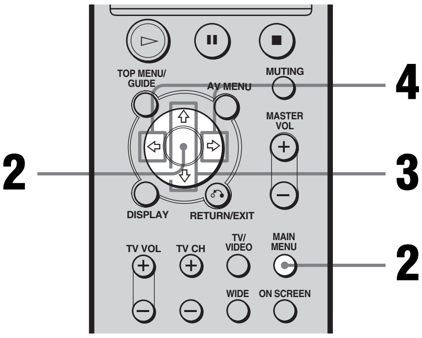
サブウーファー信号を生成します。

• OFF

サブウーファー信号を生成しません。

各スピーカーのレベルやバランスを調節する

調節した内容は、すべてのサウンドフィールドに反映されます。



1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVD など）を再生する。

2 MAIN MENU をくり返し押して「LEVEL」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

3 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、66ページの「LEVELメニューの設定項目」をご覧ください。

4 音を聞きながら ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節 / 設定する。

または本体の＋/－つまみを回します。

5 他の項目を調節/設定するときは、手順3と4をくり返す。

ちょっと一言

「SCREEN DEPTH」、「VIR.SPEAKERS」の設定は、入力ごとに最後に選んでいたサウンドフィールドを記憶させることができません（51ページ「サウンドフィールドリンク」）。

つづく

LEVELメニューの設定項目

■TEST TONE（テストトーン）

お買い上げ時の設定：OFF
それぞれのスピーカーから順番にテストトーンを出します。「AUTO」にすると、テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。「FIX」にすると、テストトーンを出すスピーカーを選ぶことができます。

■FRONT L__ __R
（フロントスピーカーバランス）

お買い上げ時の設定：センター（0）
フロントスピーカーの左右のバランスを調節します。±8 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■CENTER ■■■.■ dB
（センタースピーカーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-A L ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー A（左）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-A R ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー A（右）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-B L ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー B（左）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURROUND-B R ■■■.■ dB
（サラウンドスピーカー B（右）レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURR BACK ■■■.■ dB
（サラウンドバックスピーカーレベル）＊

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURR BACK L ■■■.■ dB
（サラウンドバックスピーカー（左）レベル）＊＊

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SURR BACK R ■■■.■ dB
（サラウンドバックスピーカー（右）レベル）＊＊

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■SUB WOOFER ■■■.■ dB
（サブウーファーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
－20 dB～＋10 dBの範囲で、0.5 dB単位で調節できます。

■MULTI CH SW
（マルチチャンネルサブウーファーレベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
MULTI CHANNEL INPUT端子のサブウーファーのレベルを10 dB上げることができます。DVDプレーヤーのサブウーファーレベルはスーパーオーディオCDよりも10 dB低いため、DVDプレーヤーをMULTI CHANNEL INPUT端子に接続したときは、この設定項目で10dB上げると効果的な場合があります。

＊　サラウンドバックスピーカーの設定が「SINGLE」に設定されているときのみ設定できます（34 ページ）。
＊＊サラウンドバックスピーカーの設定が「DUAL」に設定されているときのみ設定できます（34 ページ）。

ご注意

右のサウンドフィールドで SPEAKER SET UP メニューのすべてのスピーカーが「LARGE」に設定されていると、サブウーファーからは音が出ません。ただし、入力されたデジタル信号に L.F.E. 信号が含まれているときや、フロント、サラウンドのいずれかが「SMALL」に設定されているときは、サブウーファーから音が出ます。

- D.CONCERT HALL A
- D.CONCERT HALL B
- CHURCH
- JAZZ CLUB
- LIVE CONCERT
- STADIUM
- SPORTS

LEVELメニューの拡張設定項目

CUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすると（50ページ）、以下のすべての項目を表示・設定できるようになります。
お買い上げ時は、下線の項目に設定されています。

■PHASE AUDIO（フェーズオーディオ）

- ON

となりあった2つずつのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出します。

- <u>OFF</u>

■PHASE NOISE（フェーズノイズ）

- ON

となりあった2つずつのスピーカーから順番にテストトーンを出します。

- <u>OFF</u>

■D.RANGE.COMP.（ダイナミックレンジの圧縮）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

- <u>OFF</u>

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

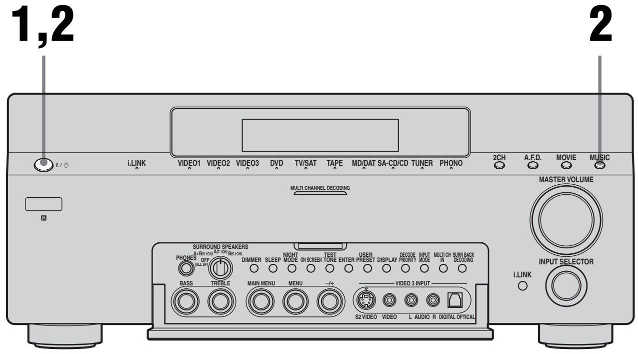
- STD

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

- MAX

ダイナミックレンジを極端に狭くします。

サウンドフィールドをお買い上げ時の設定に戻す



1 **I/⏻（電源スイッチ）を押して電源を切る。**

2 **MUSIC を押しながら、I/⏻（電源スイッチ）を押す。**

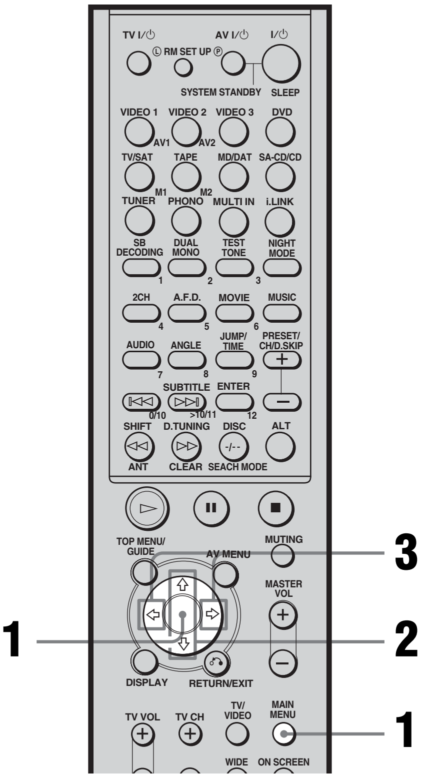
表示窓に「S.F. Initialize」と表示され、すべてのサウンドフィールドがお買い上げ時の設定に戻ります。

ちょっと一言

「D.RANGE.COMP.」では、ダイナミックレンジをドルビーデジタルに記録されているダイナミックレンジ情報に基づいて圧縮します。「STD」が本来の圧縮値ですが、控えめに感じるときは、「MAX」をおすすめします。これは極端にダイナミックレンジを圧縮しますので、深夜のビデオ鑑賞などに便利です。アナログのリミッターとは異なり、機器側が圧縮ポイントをあらかじめ予測しているため、自然な圧縮になります。

スピーカーを拡張設定する

CUSTOMIZEメニューで「MENU EXPAND」を「ON」にすると、サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの位置など、より細かい設定ができるようになります。



1 MAIN MENU をくり返し押して「SPEAKER SET UP」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回します。

2 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定したい項目を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

詳しくは、「スピーカーの設定項目」（33ページ）をご覧ください。

3 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、パラメーターを選ぶ。

または本体の＋/－つまみを回します。

4 手順２と３をくり返し、すべての項目を設定する。

■DISTANCE UNIT（距離の単位）

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

- meter

メートル表示に切り換えます。

- feet

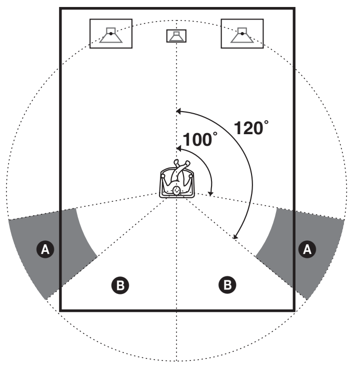
フィート表示に切り換えます。

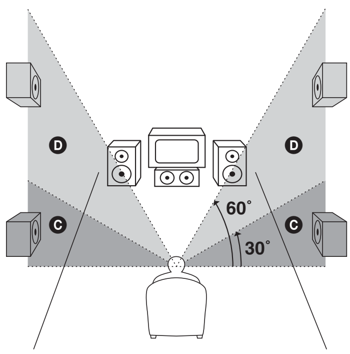
■SP-A POSI.（サラウンドスピーカー Aの位置）

■SP-B POSI.（サラウンドスピーカー Bの位置）

シネマスタジオEXモード（59ページ）によるサラウンド効果を充分に得るために、サラウンドスピーカーの位置を設定します。

サラウンドスピーカーの設定が「NO」のとき（34ページ）は設定できません。





ご注意

サラウンドスピーカーの設定をする前に、使うスピーカーシステムを選んでください（36 ページ）。

- SIDE/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒶかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- SIDE/HIGH
  サラウンドスピーカの位置がⒶかつⒹの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/LOW
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒸの範囲にあるときに選びます。
- BEHD/HIGH
  サラウンドスピーカーの位置がⒷかつⒹの範囲にあるときに選びます。

■SP CROSSOVER ＞ __ __ __ Hz（スピーカークロスオーバー周波数）

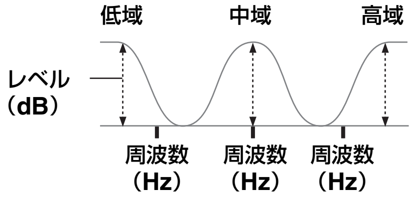
お買い上げ時の設定：100 Hz
SPEAKER SET UPメニューで「SMALL」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。40 Hz～160 Hzの範囲で、10 Hzごとに調節できます。

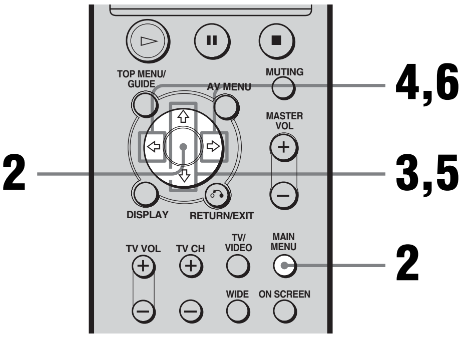
ちょっと一言

サラウンドスピーカーの位置は、シネマスタジオ EX モード専用の設定です。
通常のサウンドフィールドでは、スピーカーの配置はそれほど重要ではありません。基本的にはスピーカーは後方配置を標準として設計していますが、角度が相当開いていても効果が比較的薄れません。しかしスピーカーを耳の真横に置くと効果がはっきりしなくなるため、「SIDE」を用意しました。
ただし、リスニング環境には壁の反射も含まれるため、スピーカーの位置が高いときは、サラウンドスピーカーがほぼ真横にあっても「BEHD」に設定したほうがよい場合があります。
実際に設定し、より広がり感が豊かで、サラウンド空間とフロントとのつながりのよいほうを選んでください。迷ったら「BEHD」に設定し、距離や音量を調節してよりよい広がり感になるようにしてください。

イコライザー（低域 / 中域 / 高域のレベル）を調節する

本機のイコライザーバンクに5通りの設定（EQ PRESET［1］～［5］）を登録して、いつでも呼び出すことができます。スピーカーごとに設定できます。





1 マルチチャンネルのサラウンド効果がエンコードされている音源（DVD など）を再生する。

2 MAIN MENU を押して「EQUALIZER」を選び、コントロールボタンを押す。

または本体のMAIN MENUつまみを回して、「EQUALIZER」を選びます。

3 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして「EQ PRESET」を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。

4 ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節したいイコライザー（EQ PRESET［1］～［5］）を選ぶ。

または本体の＋/－つまみを回します。

5 ⇧/⇩ 方向にコントロールボタンを動かして、設定項目を選ぶ。

または本体のMENUつまみを回します。
設定項目については、以下の「EQUALIZERメニューの設定項目」をご覧ください。

6 音を聞きながら ⇦/⇨ 方向にコントロールボタンを動かして、調節する。

または本体の＋/－つまみを回します。

7 他の項目を調節するときは、手順５と６をくり返す。

EQUALIZERメニューの設定項目

■EQ PRESET（イコライザーバンクの選択）

イコライザーバンク（[1]～[5]）を選びます。「OFF」にするとイコライザー効果がオフになります。

■FRONT BASS ■■■ dB（フロントスピーカーの低域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■FRONT TREBLE ■■■ dB（フロントスピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■CENTER BASS ■■■ dB（センタースピーカーの低域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■CENTER MID ■■■ dB（センタースピーカーの中域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■CENTER MID ■■■ Hz（センタースピーカーの中域カットオフ周波数レベル）

お買い上げ時の設定：1.0 kHz
100Hz～10kHzの間で、5段階に設定できます。

■CENTER TREBLE ■■■ dB（センタースピーカーの高域レベル）

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

ちょっと一言

フロントスピーカーの低域レベルと高域レベルは、本体のBASS つまみ、TREBLE つまみでも調節できます。

■ **SURR/SB BASS ■■■ dB（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの低域レベル）**

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■ **SURR/SB TRE. ■■■ dB（サラウンドスピーカー /サラウンドバックスピーカーの高域レベル）**

お買い上げ時の設定：0 dB
いずれも±10dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

■ **PRESET ■ CLEAR（イコライザーバンククリア）**

調節したイコライザーバンクの設定を、お買い上げ時の設定に戻します。詳しくは、以下の「イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには」をご覧ください。

登録したイコライザーを呼び出すには

1 「イコライザー（低域 / 中域 / 高域のレベル）を調節する」（70 ページ）の手順 1 ～ 3 を行う。

2 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、「EQ PRESET［1］～［5］」から選ぶ。
または本体の＋/－つまみを回します。

イコライザー効果をオフにするには

「イコライザー（低域/中域/高域のレベル）を調節する」（70ページ）の手順4で、EQ PRESETから「EQ PRESET[OFF]」を選びます。

イコライザーをお買い上げ時の設定に戻すには

1 「イコライザー（低域 / 中域 / 高域のレベル）を調節する」（70 ページ）の手順 1 ～ 3 を行う。

2 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、お買い上げ時の設定に戻したいイコライザー（EQ PRESET［1］～［5］）を選ぶ。
または本体の＋/－つまみを回します。

3 ⇧/⇩方向にコントロールボタンをくり返し動かして、「PRESET ■ CLEAR」を選ぶ。
または本体のMENUつまみを回します。
■には、選んだイコライザーバンクの番号が入ります。

4 ⇦/⇨方向にコントロールボタンをくり返し動かして、「YES」を選び、押す。
または本体の＋/－つまみを回します。
「Are you sure?」と表示されます。

5 ⇦/⇨方向にコントロールボタンを動かして、「YES」を選び、押す。
または本体の＋/－つまみを回します。
「PRESET ■ CLEARED !」と表示され、選んだイコライザーがお買い上げ時の設定に戻ります。

本機のリモコンで他機を操作する

必要な登録を行うと、本機のリモコンで接続機器を操作できます。ただし、本機のリモコンで操作できるのは、赤外線リモコン信号を受光できる機器のみです。登録のしかたは、「接続機器に合わせて本機のリモコンに登録する」（73ページ）をご覧ください。また、機器によっては登録しても操作できないことがあります。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

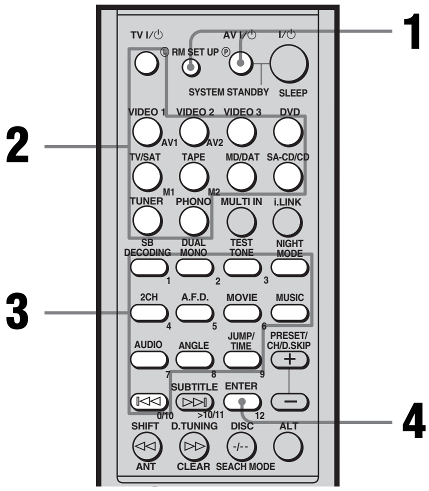
選ばれている機器 ボタン	CD プレーヤー	DAT デッキ	MDデッキ	カセットデッキ（AとB）	ビデオデッキ	テレビ	衛星放送チューナー	ビデオCD プレーヤー	DVD プレーヤー	チューナー
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ANGLE	–	–	–	–	–	–	–	–	●	–
ANT	–	–	–	–	●	–	●*	–	–	–
AUDIO	–	–	–	–	●	●	●*	–	●	–
AV MENU	–	–	–	–	●	–	●	–	●	–
AV I/⏻	●	●	●	–	●	●	–	●	●	–
CLEAR	●	–	–	–	–	–	–	–	●	–
DISC*	●	–	–	–	–	–	–	●	–	–
DISPLAY	●	–	●	–	●	●	●	●	●	●
D.SKIP*/	●	–	●	–	–	–	–	●	●	–
PRESET/CH +/–	–	–	–	–	●	●	●	–	–	●
D.TUNING	–	–	–	–	–	–	–	–	–	●
ENTER	●	●	●	●	●	●	●	–	●	–
JUMP/	–	–	–	–	–	–	●*	–	–	–
TIME	●	–	●	–	–	–	–	●	●	–
RETURN ↶/	–	–	–	–	–	–	–	●	●	–
EXIT	–	–	–	–	–	–	●	–	–	–
SEARCH MODE	–	–	–	–	–	–	–	–	●	–
SHIFT	–	–	–	–	–	–	–	–	–	●
SUBTITLE	–	–	–	–	–	–	–	–	●	–
SYSTEM STANDBY	●	●	●	–	●	●	●	●	●	–
TOP MENU/GUIDE	–	–	–	–	–	–	●*	–	●	–
TV CH +/–、TV VOL +/–、TV/VIDEO、TV I/⏻、WIDE	–	–	–	–	–	●	–	–	–	–
▷	●	●	●	●	●	–	–	●	●	–
II	●	●	●	●	●	–	–	●	●	–
■	●	●	●	●	●	–	–	●	●	–
I◁◁/▷▷I	●	●	●	●**	●	–	–	●	●	–
◁◁/▷▷	●	●	●	●	●	–	–	●	●	–
>10/11	●	–	●	●	–	–	–	●	–	–
-/--	–	–	–	–	–	●	●	–	–	–
⇧/⇩/⇦/⇨、コントロールボタン	–	–	–	–	●	–	●	–	●	–

＊　操作できない機器があります。

＊＊デッキ B のみ操作できます。

接続機器に合わせて本機のリモコンに登録する

他社製の機器や、初期設定では操作できないソニー製の機器を、本機のリモコンで操作できるように登録します。登録はAVリモコン（RM-PG7J）で行います。



1 RM SET UP を押しながら、AV I/⏻ を押す。

RM SET UPが点灯します。

2 入力切り換え用のボタンを押して登録したい入力を選ぶ。

例えば、CDプレーヤーを操作したいときは、SA-CD/CDを選びます。TV I/⏻の設定を変えることもできます。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コード（74 ページ）を入力する。

コードが複数ある場合は、いずれかを入力してください。

4 ENTER を押す。

有効なコードが入力されると、RM SET UPがゆっくりと2回点滅し、登録が完了します。

5 他の機器を登録するときは、手順１～４をくり返す。

登録を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押します。

登録した機器を使うには

登録したボタンを押します。

うまく登録できないときは

以下を確認してください。

- 手順１でRM SET UPが点灯しない場合は、リモコンの電池が残り少なくなっています。2個とも新しい電池と交換してください。
- 対応コードの入力中にRM SET UPが４回すばやく点滅したときは、エラーが起こっています。手順1からやり直してください。
- 手順1でRM SET UPを押してから60秒たつと、RM SET UPが点滅したあと消灯します。この場合は手順1からやり直してください。

機器・メーカー別の対応コード

それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、1つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードで登録できない場合は、別のコードで登録してみてください。

ご注意

- 有効なボタンが押されているあいだは、RM SET UP は消灯します。
- 手順 2 で入力切り換え用のボタンを 2 つ以上押した場合、最後に押したボタンのみ有効となります。
- 手順 2 で TV I/⏻ を押した場合、TV VOL +/–、TV CH +/–、TV/VIDEO、WIDE のみ設定が変更されます。
- 手順 3 で入力切り換え用のボタンを押した場合、新しい入力が選ばれ、手順３のはじめに戻ります。
- 手順 3 で入力した対応コードは、最初に入力した 3 つの数字が有効となります。
- i.LINK には 1 機種のみ設定できます。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- 操作する機器によっては、本機の特定のボタンが機能しなくなる場合があります。

つづく

対応コードの初期設定

入力切り換え用のボタン	初期設定値*	対応コード
VIDEO1	ビデオデッキ	703
VIDEO2	ビデオデッキ	701
VIDEO3	ビデオデッキ	702
DVD	DVDプレーヤー	401
TV/SAT	テレビ	501
TAPE	カセットデッキ	202
MD/DAT	MDプレーヤー	301
SA-CD/CD	CDプレーヤー	101
TUNER	チューナー	002
PHONO	設定なし	001
MULTI CH	CDプレーヤー	101
i.LINK	CDプレーヤー	101

＊設定はすべてソニー製です。

チューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	002、003、004、005

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
PANASONIC	406、408
PHILIPS	407
PIONEER	409
TOSHIBA	404
DENON	405

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508
GOLDSTAR	503、511、512、515、534、544
GRUNDIG	517、534
HITACHI	513、514、515、544
ITT/NOKIA	521、522
JVC	516
MAGNAVOX	503、518、544
MITSUBISHI/MGA	503、519、544
NEC	503、520、544
PANASONIC	509、524
PHILIPS	515、518
PIONEER	509、525、526、540
RCA/PROSCAN	510、527、528、529、544
SAMSUNG	503、515、531、532、533、534、544
SANYO	508、545、546、547
SHARP	535
TELEFUNKEN	523、536、537、538
THOMSON	530、537、539
TOSHIBA	535、540、541
ZENITH	542、543

ビデオCDプレーヤー対応コード表

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC	721、722、730
GOLDSTAR	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、755、756
ZENITH	754

＊アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

BSデジタルチューナー/デジタルCSチューナー対応コード表

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804
JERROLD/G.I.	806、807、808、809、810、811、812、813、814
PANASONIC	818
RCA	805、819
S.ATLANTA	815、816、817

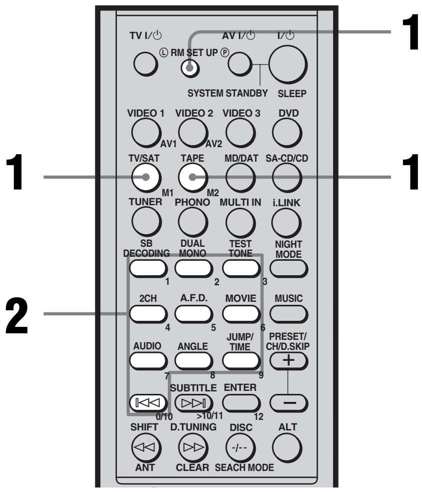
リモコンを使う

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ機能）

いくつかのリモコンコードを一連の操作（マクロ操作）として登録し、簡単に連続操作ができるようにします。例えば部屋の電気をつけ、エアコンを入れてからCDを再生することが一連でできるようになります。
マクロ操作は2種類登録でき（M1、M2）、それぞれに10個までリモコンコードを登録できます。

操作の実行順を登録する



1 **RM SET UP を押しながら、TV/SAT（M1）または TAPE（M2）を押す。**

RM SET UPが点灯します。

2 **数字ボタンを押して、マクロ機能の実行順を選ぶ。**

例えば1番目に実行するコードを登録するには、1を押します。
RM SET UPがゆっくり点滅します。

3 **本機のリモコンのリモコンコード受光部と学習する機器のリモコンの受信 / 送信部とを向かい合わせる。**

4 **学習する機器のリモコンのボタンを押し、リモコンコードを送信する。**

軽く1回押せばリモコンコードは送信されます。
正しく学習されると、RM SET UPが2回ゆっくりと点滅し、マクロ操作の登録が完了します。
正しく学習されなかったときはRM SET UPが4回すばやく点滅し、手順4のはじめに戻ります。手順4からやり直してください。
RM SET UPが8回すばやく点滅したときは、リモコンの記憶容量が不足しています。

5 **手順1から4をくり返し、最大10個までリモコンコードを設定する。**

マクロ操作の登録を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押します。

マクロ機能を使うには

ALTを押したあと、M1またはM2を押します。

うまく登録できないときは

以下のことを確認してください。
- 手順１でRM SET UPが点灯しない場合は、リモコンの電池が残り少なくなっています。2個とも新しい電池と交換してください。
- 手順3でRM SET UPが4回すばやく点滅したときは、エラーが起こっています。手順1からやり直してください。

設定したリモコンコードを消すには

マクロ機能での順番単位で消すことができます。手順3で、M1またはM2を2秒以上押します。登録したリモコンコードが消えます。

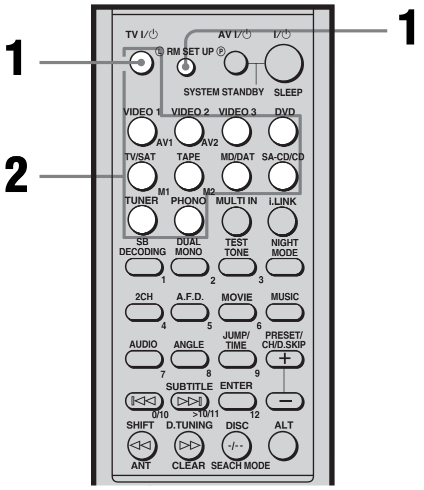
各操作間に待機時間を設定するには

手順1からやり直します。手順3で、M1またはM2を押します。各操作のリモコンコードを出力するまでの待機時間が、1秒に設定されます。
マクロ機能がうまく働かないときも、この設定を行うとうまく働くことがあります。

ご注意
- 本体の AV リモコン（RM-PG7J）のリモコンコードは登録できません。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

本機のリモコンにもともと入っていないリモコンコードを学習させて、操作することができます。



1 RM SET UP を押しながら､TV I/⏻ を押す。

RM SET UPが点灯します。

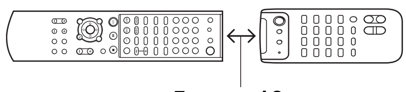
2 入力切り換え用のボタンを押して設定したい入力を選ぶ。

例えば、CDプレーヤーの操作を学習したいときは、SA-CD/CDを選びます。
TV I/⏻の設定を変えることもできます。

3 学習させたいボタンを押す。

有効なボタンを押しているときはRM SET UPが消灯し、そのあとゆっくりと点滅します。

4 本機のリモコンのリモコンコード受光部と､学習する機器のリモコンの受信 / 送信部とを向かい合わせる。



5cm ～ 10cm

5 学習する機器のリモコンのボタンを押し、リモコンコードを送信する。

軽く1回押せばリモコンコードは送信されます。正しく学習されると、RM SET UPが2回ゆっくりと点滅し、学習が完了します。

学習できるボタンの数

学習できるボタンは最大80個までですが、それ以下の場合もあります。それぞれの入力で学習できるボタンの数は以下の表のとおりです。

入力	学習できるボタンの数
VIDEO1、VIDEO2、DVD	78
VIDEO3、TV/SAT、TAPE	78
MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	78
PHONO、MULTI CH	52
テレビ操作用ボタン （TV I/⏻、TV VOL +/–、TV CH +/–、WIDE、TV/VIDEO）	7

学習を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押します。

学習させたリモコンコードを使うには

学習させたボタンがある入力を選び、学習させたボタンを押します。

うまく学習できないときは

以下のことを確認してください。

- 手順 1 でRM SET UPが点灯しない場合は、リモコンの電池が残り少なくなっています。2個とも新しい電池と交換してください。
- 手順3でRM SET UPが4回すばやく点滅したときは、エラーが起こっています。手順1からやり直してください。
- 正しく学習されなかったときは、RM SET UPが4回すばやく点滅し、手順4のはじめに戻ります。手順4からやり直してください。
- RM SET UPが8回すばやく点滅したときは、リモコンの記憶容量が不足しています。

ご注意

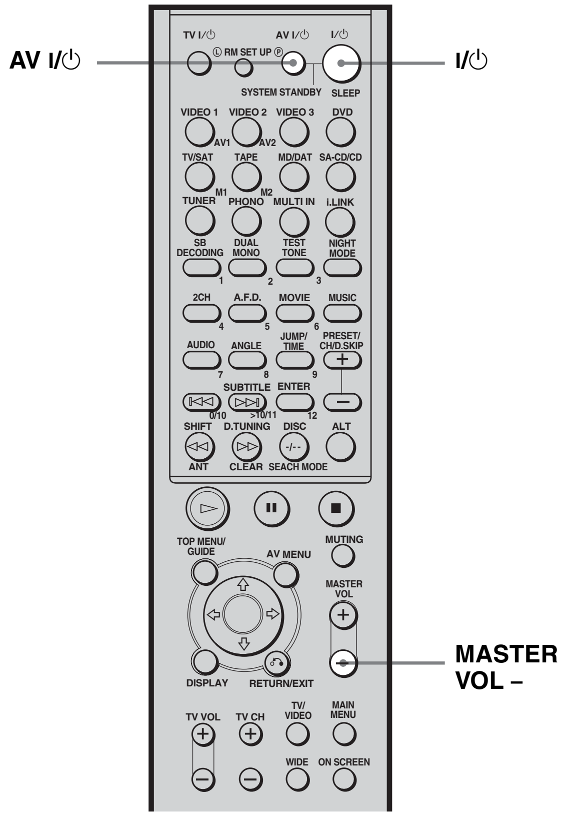
- 手順 2 と 3 で、有効なボタンが押されているときは RM SET UP は消灯します。
- 手順 3 で、学習させたいボタンを 2 つ以上押した場合、最後に押したボタンのみ有効となります。
- 手順 5 で、学習可能な本機のリモコンのボタンを押した場合、新しいボタンが選ばれ、手順 5 のはじめに戻ります。

学習させたリモコンコードを消すには

手順1からやり直します。手順3のあとでTV I/⏻を2秒以上押してください。RM SET UPが2回ゆっくり点滅し、学習させたリモコンコードが消えます。TV I/⏻を2秒以上押さないと、手順4のはじめの状態になります。

学習させたコードを消すと、そのボタンコードは元に戻ります。

リモコンをお買い上げ時の設定に戻す



I/⏻、AV I/⏻、MASTER VOL – を同時に押す。

RM SET UPが3回点滅し、リモコンは初期設定に戻ります。

メニュー一覧（LEVEL/SURR SET UP/EQUALIZER/SPEAKER SET UP/CUSTOMIZE）

メニューを使ってさまざまな設定をすることができます。メニューはMAIN MENUを押すと表示されます。

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
LEVEL	TEST TONE [■■■]	OFF、AUTO、FIX	OFF	37、65ページ
	PHASE NOISE [■■■]*	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SL/L、SR/L	OFF	
	PHASE AUDIO*	OFF、L/C、C/R、R/SL、R/SR、SR/SL、SL/L、SR/L	OFF	
	FRONT L--- ---R	8.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	CENTER [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-A L [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-A R [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-B L [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURROUND-B R [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURR BACK [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURR BACK L [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SURR BACK R [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	SUB WOOFER [■■■.■ dB]	−20.0dB～＋10.0dB（0.5dB単位）	0dB	
	MULTI CH SW [■■■]	0dB、＋10.0dB	0dB	
	D. RANGE COMP. [■■■]	OFF、STD、MAX	OFF	
SURR SET UP	C.WIDTH L----C----R*	8ステップ	3	64ページ
	DIMENSION F------S*	7ステップ	Center	
	PANORAMA MODE [_ _ _]*	OFF、ON	OFF	
	EFFECT LEVEL _ _ _%	20%～120%（5%単位）	100%	
	SCREEN DEPTH [_ _ _]*	ON、OFF	ON	
	VIR. SPEAKERS [_ _ _]*	ON、OFF	ON	
	A. F. D. 2CH SW [■■■]*	CREATE、OFF	OFF	
EQUALIZER	EQ PRESET [■]	1、2、3、4、5、OFF	1	70ページ
	FRONT BASS [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	FRONT TREBLE [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER BASS [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER MID [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	CENTER MID [■■■.■ kHz]	100Hz、300Hz、1.0kHz、3.0kHz、10kHz	1.0kHz	
	CENTER TREBLE [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	SURR/SB BASS [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	SURR/SB TREBLE [■■■.■ dB]	−10.0dB～＋10.0dB（1dB単位）	0dB	
	PRESET X CLEAR [■■■]	YES、NO	NO	

つづく

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
SPEAKER SET UP	SP EASY SET UP [■■■]	YES、NO	YES	32～35ページ
	SPEAKER PATTERN [■■■]	2−0、2−1、3−0、3−1、4−0、4−1、5C0、5C1、5−0、5−1、6C0、6C1、6−0、6−1、7−0、7−1		
	SUB WOOFER [■■■]	NO、YES	YES	
	FRONT SP [■■■]	SMALL、LARGE	LARGE	
	CENTER SP [■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURROUND SP-A [■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURROUND SP-B [■■■]	NO、SMALL、LARGE	LARGE	
	SURR BACK SP [■■■]	NO、SINGLE、DUAL	DUAL	
	FRONT ■.■meter	1.0m～7.0m（0.1m単位）	3.0m	
	CENTER ■.■meter	1.0m～7.0m（0.1m単位）	3.0m	
	SURROUND-A ■.■meter	1.0m～7.0m（0.1m単位）	3.0m	
	SURROUND-B ■.■meter	1.0m～7.0m（0.1m単位）	3.0m	
	SURR BACK ■.■meter	1.0m～7.0m（0.1m単位）	3.0m	
	SUB WOOFER ■.■meter	1.0m～7.0m（0.1m単位）	3.0m	
	DISTANCE UNIT [■■■]*	meter、feet	meter	68ページ
	SP-A POSI [■■■]*	SIDE/LOW、SIDE/HIGH、BEHD/LOW、BEHD/HIGH	SIDE/LOW	
	SP-B POSI [■■■]*	SIDE/LOW、SIDE/HIGH、BEHD/LOW、BEHD/HIGH	SIDE/LOW	
	SP CROSSOVER > ■■■Hz*	40Hz～160Hz（10Hz単位）	100Hz	
CUSTOMIZE	MENU EXPAND [■■■]	OFF、ON	OFF	50～52ページ
	DTS 96/24 DEC. [■■■]	OFF、AUTO	AUTO	
	SB DECODING [■■■]	OFF、AUTO	AUTO	
	SB DEC MODE [■■■]	DDEX、PLIIx MV、PLIIx MS	PLIIx MV	
	i. LINK VIDEO ASSIGN? i. LINK1/i.LINK2	NONE、VIDEO 1、VIDEO 2、VIDEO 3、DVD、TV/SAT	NONE	
	i. POWER [■■■]	AUTO、EVER ON	AUTO	
	H. A. T. S. [■■■]	OFF、ON	ON	
	A/V SYNC [■■■ms]	0ms～200ms、	0ms	
	DC PHASE L. [■■■]	OFF、LOW−A、STD−A、LOW−B、STD−B、HIGH−B	STD−A	
	S. FIELD LINK [■■■]	OFF、ON	ON	
	DEC. PRIORITY [■■■]	PCM、AUTO	AUTO	
	DUAL MONO [■■■]	MAIN/SUB、MAIN、SUB、MAIN+SUB	MAIN	
	OSD H. POSITION [■■■]	0～64（1.0単位）	4	
	OSD V. POSITION [■■■]	0～32（1.0単位）	4	
	UP YUV HUE [■■]	1、2、3、· 4、5、6、7	· 4	
	UP YUV SHARPNESS [■■]	1、2、3、· 4、5	· 4	
	UP YUV COLOR [■■]	1、2、3、· 4、5、6、7	· 4	

メニュー	項目	設定値	初期値	参照ページ
	DIGITAL ASSIGN?			50～52ページ
	VIDEO 3 OPT	VIDEO3、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	VIDEO3	
	DVD COAX	DVD、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	DVD	
	DVD OPT	DVD、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	DVD	
	TV/SAT COAX	TV/SAT、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	TV/SAT	
	TV/SAT OPT	TV/SAT、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	TV/SAT	
	MD/DAT OPT	MD/DAT、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	MD/DAT	
	SA-CD COAX	SA-CD、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	SA-CD	
	SA-CD OPT	SA-CD、VIDEO1、VIDEO2、TAPE、TUNER	SA-CD	
	COMP/D-VIDEO ASSIGN?			
	DVD	NONE、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、DVD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	DVD	
	TV/SAT	NONE、VIDEO1、VIDEO 2、VIDEO 3、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	TV/SAT	
	HDMI ASSIGN?			
	DVD	VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、DVD、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	DVD	
	TV/SAT	VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3、TV/SAT、TAPE、MD/DAT、SA-CD/CD、TUNER	TV/SAT	
	USER PRESET MEM. ? [■]	1、2、3	1	
	NAME IN? [■■■]			
STREAM INFO	STREAM=■■■■■■■			53ページ

＊この項目は、CUSTOMIZE メニューで、「MENU EXPAND」が「ON」に設定されている場合のみ表示されます。

用語集

■AAC

デジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式です。Advanced Audio Coding（アドバンスド・オーディオ・コーディング）の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現できます。

■AFD（Auto Format Direct）

入力された音声信号を自動的に判別し、適切な処理を行うことです。録音またはエンコードされたままの音を、残響などの効果を加えずに再現します。

■A/V SYNC

映像と音声がずれるときに、この機能を使って音声を遅らせ、映像と音声が合うように補正する。

■Component（コンポーネント）映像

映像信号を輝度Yと色差 Pb、Pr の3系統に分けて伝送する映像端子です。DVDビデオやハイビジョン映像などの高画質をより忠実に伝送します。3つの端子はそれぞれ緑、青、赤で色分けされています。

■Composite（コンポジット）映像

映像信号を伝送する最も一般的な映像信号です。輝度Yと色Cを1つにまとめて伝送します。

■Dolby Digital

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声デジタル圧縮技術です。フロント（L/R）、センター、サラウンド（L/R）、サブウーファーで構成されています。DVDビデオの標準音声フォーマットにも採用され、5.1chサラウンドとも呼ばれています。サラウンド2chがステレオで記録・再生をおこなうため、ドルビーサラウンドよりもリアルな臨場感を再現します。

■Dolby Digital Surround EX

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音響技術です。サラウンド（L/R）に後方のサラウンドバック（SB）を合成し、再生時に6.1chで出力されます。特に動きのあるシーンを、よりダイナミックでリアルな音場で再現します。

■Dolby Pro Logic II

2chステレオで記録された音声を5.1chに変換して再生します。映画用のMOVIEモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードの2種類があります。従来のステレオで録音された古い映画も、5.1chの迫力で再現します。

■Dolby Pro Logic IIx

7.1ch（または6.1ch）スピーカー環境のための再生システムです。ドルビーデジタルサラウンドEX作品に加え、通常の5.1chドルビーデジタル作品を7.1ch（または6.1ch）で再生できます。さらに通常のステレオ収録のコンテンツも7.1ch（または6.1ch）で再生できます。

■Dolby Surround (Dolby Pro Logic)

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、音声処理技術です。ステレオ2chの中にセンター、サラウンドの音が合成されています。再生時にデコーダーでフロント（L/R）とともに4chサラウンドで出力します。DVDビデオでは最も一般的な音声処理方法です。

■DSD（Direct Stream Digital）

スーパーオーディオCDに採用されているフォーマット方式です。アナログの音楽信号をデジタルに変換した後、加工せずにそのまま記録します。加工段階での情報欠落がなく、原音に近い高音質の録音・再生を実現します。

■DTS 96/24

高音質再生フォーマットです。DVDビデオでは最高の、サンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24ビットで音を記録します。ソフトにより、再生チャンネル数は異なります。

■DTS Neo: 6

2chステレオで記録された音声を6.1chに変換して再生します。映画用のCINEMAモードと、音楽などのステレオソース用のMUSICモードがあり、再生するソースや好みに応じて選べます。

■DTSサラウンド

Digital Theater Systems社が開発した、映画館向けの音声デジタル圧縮技術です。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率で記録し、より高音質で再生します。

■DTS-ES

サラウンドバックを加えた6.1ch方式で再生します。全チャンネルを独立して記録する「ディスクリート6.1」と、ドルビーサラウンドEXと同様、サラウンドバック音声をリアチャンネルに重ねて記録する「マトリックス6.1」の2種類があります。映画のサウンドトラックを再生するのに適しています。

■Dynamic Range

音声信号の再現能力を示した数値です。最小値（小さい音）と最大値（大きい音）の差を指し、単位はdB（デシベル）で表示します。この数値が大きいほど、小さい音から大きい音まで再現できます。

■D端子

映像とともに解像度等の識別信号も伝送できる端子です。対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3とD4端子があります。コンポーネント信号で接続するため、より高画質な画像となります。

■HDMI (High-Definition Multimedia Interface)

ディスプレイ接続技術のDVI（Digital Visual Interface）をAV向けにアレンジ仕様したものです。映像・音声・制御信号をデジタルで伝送できるインターフェースです。

■i.LINK

パソコンと周辺機器を結ぶ転送方式の一つである「IEEE 1394」の別名です。プレーヤーとアンプ間をケーブル１本でシンプルにつなぐ、新しいインターフェースです。5.1chの情報をデジタルで伝送するため、クリアな音質で再生されます。

■L.F.E (Low Frequency Effect)

ドルビーデジタルやDTSなどで、サブウーファーから出力される低域効果音のことです。帯域内が20Hz～120Hzの重低音を補助的に出力することで、音響に迫力が加わります。

■LINC

Logical Interface Connection（ロジカル・インターフェース・コネクション：「論理的な接続を行う」の意）の略です。

■PCM

アナログ音声をデジタル音声に変換する方式。Pulse Code Modulation（パルス・コード・モジュレーション）の略で、手軽にデジタル音声を楽しめる。

■Sビデオ信号

映像信号を輝度Yと色Cの2系統で伝送する方式です。コンポジットと比べてより美しい映像で記録・再生します。

■インターレス

テレビやモニターの管面にある走査線のうち、まず奇数番目の走査線を1/60秒かけて描き、次にその間を埋めるように偶数番目の走査線を描いて画面を映し、合わせて1枚の完全な画面を作っていく飛び越し走査のこと。

■クロスオーバー周波数

各スピーカーユニットがカバーする周波数帯域が交差するポイントの周波数。

■サンプリング周波数

音声などをアナログデータからデジタルデータへ変換するとき、数字に置き換える必要がある。この作業をサンプリングと呼び、1秒間に記録する回数をサンプリング周波数という。音楽CDの場合、1秒間に44,100回記録しており、サンプリング周波数を44.1kHzと表す。一般的には、サンプリング周波数が高いほど、記録された音声は高音質になる。

■ダウンミックス

5.1チャンネルなどのマルチチャンネル音声を、2チャンネルに振り分けて出力すること。

■入力ストリーム

ドルビーデジタル5.1、DTS 5.1などのフォーマット情報やチャンネル情報を付帯しているデジタル入力信号のことです。

■プログレッシブ

インターレス（インターレスの項目を参照）方式ではなく、すべての走査線を順番通りに描いていく順次走査のことです。

技術解説

■S-Master/S-Master PRO

"S-Master"はソニーが開発し、ホームシアターの分野での実績があるフルデジタルアンプ・デバイスです。S-Master PROはこのS-Masterをさらに進化させ「パルスハイト・ボリューム」と「DCフェーズ・リニアライザー」を搭載し、さらなるディテールの再現力と、従来からのアナログ音質の統一感を獲得。原音により忠実な高音質を実現しています。

■S-Master

ソニーは長年にわたり培ったデジタル信号処理技術を投入し「ストリームマスターデジタルアンプ」技術を開発。全ステージデジタル処理のパワーアンプS-masterを実現しました。入力信号を完全デジタル領域で処理する上、スピーカーを直接駆動できる、いわばD/Aコンバーターとパワーアンプが合体したようなデジタル技術です。音声の信号処理をフルデジタルで行うため、音質の劣化が極めて少なく、高音質で迫力のあるサウンドを楽しめます。さらにS-Master 技術は電力効率が、理論上約90%で、熱による影響をほとんど受けません。このため、大音量のデバイスを作ることが容易となり、且つ、音量が上がっても発熱による音への影響が最小限に食い止められます。
TA-DA7000ESでは、1チップ実に150Wという大出力のデバイスを7基も搭載し、原音に忠実で余裕のある音の再現が可能です。

■パルスハイト・ボリューム

S-Master PROの特長の一つであるパルスハイト・ボリュームは、アナログ再生音を含むパルスの高さを変えて音量を調整します。デジタル・ビット領域で音量調整を行う方法に比べ情報量の欠落もなく、より高音質な再生が可能です。

■DCフェーズ・リニアライザー

アナログ方式のパワーアンプでは数十Hzより下の周波数で位相が回転します。これに対しデジタルパワーアンプは位相回転が起こらずフラットな特性となっています。
現在発売されているスピーカーはこの特性を前提として音作りがされているため、低域の表現がアナログ方式のアンプと違ったものになりがちです。そこで"S-Master PRO"ではアナログアンプ方式の位相特性をデジタル領域の演算で再現し聞き慣れた低音感を得ています。

■Digital Cinema Sound (DCS)

映画館での迫力あるサウンドをご家庭で楽しむために、ソニーがソニー・ピクチャーズ・エンタテイメントとの協力により独自に開発した劇場音響再現技術です。DSP（デジタルシグナルプロセッサー）と計測データを結合して開発されたこの「デジタルシネマサウンド」で、ご家庭でも映画製作者が意図した理想的な音場を体感できます。

■シネマスタジオＥＸ

「デジタルシネマサウンド」の集大成ともいえるサラウンドモードです。「バーチャル・マルチディメンション」、「スクリーン・デプス・マッチング」、そして「シネマスタジオ・リバーブレーション」の3つの技術でダビングシアターの音を再現します。
仮想スピーカー技術「バーチャル・マルチディメンション」が7.1chまでの実スピーカー環境でマルチサラウンド環境を実現（9.1chスピーカー再生時では「バーチャル・マルチディメンション」はOFFで使用してください。）し、最新設備の映画館の音をご家庭のサラウンド環境で再現します。
「スクリーン・デプス・マッチング」は、フロント、センターの前方チャンネルの音に、実際の映画館と同様にスクリーン越しに再生されることによる高域の減衰と音のふくらみ、距離による音の奥行き感を付加します。
「シネマスタジオ・リバーブレーション」は、ソニー・ピクチャーズ・エンタテイメントのダビングスタジオをはじめとする、最新のダビングシアターや録音スタジオの音響を再現します。スタジオの種類によりA/B/Cの3つのモードを選べます。

■デジタルコンサートホール

「デジタルコンサートホールモード」は、CDなどの2chステレオソースをより豊かな音で楽しめるモードです。5.1chまたは7.1chスピーカーとバーチャルスピーカー技術を利用した立体的な残響や反射音の再現により、音楽ソフトをより臨場感豊かな音で楽しめます。コンサートホールの音場の再現は、実測データを元に、ホールを幾何学的に解析し、反射音や残響音を精密にモデリング。音の強さや周波数特性といった音色的な要素も取り込み、DSP上での演算により残響を再現します。あたかも、コンサートホールの席で音楽を楽しんでいるような、自然で心地よい響きとともに音楽を楽しめます。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない	➔ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 ➔ MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。 ➔ 本機前面のSURROUND SPEAKERSスイッチが「OFF」になっていないか確認する（36ページ）。 ➔ スピーカーコードが正しく接続されているか確認する。 ➔ リモコンのMUTINGを押して、ミュート機能を解除する。
選んだ機器から音が出ない	➔ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。
片方のフロントスピーカーから音が出ない	➔ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しく接続されていません。正しく接続されているか確認してください。 ➔ モノラル機器を接続しているときは、L/Rの片方の端子のみに接続していないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売り）を使ってL/R両方の端子に接続してください。ただし、サウンドフィールド（PRO LOGICなど）を選ぶとセンタースピーカーからは音が出ません。センタースピーカーを「NO」に設定しているときは、フロントスピーカー L/Rからのみ音が出ます。
音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で正しい入力が選ばれているか確認する。 ➔ 本機前面のSURROUND SPEAKERSが「OFF」になっていないか確認する（36ページ）。 ➔ ヘッドホンがつながれていないか確認する。 ➔ リモコンのMUTINGを押して、ミュート機能を解除する。 ➔ 小音量でしか聞こえないときはNIGHT MODEが働いていないか確認する（61ページ）。 ➔ 保護回路が働いている。本機の電源を切り、スピーカーの接続にショートがないか確認して、もう1度電源を入れる。
アナログ2チャンネル入力の音が出ない	➔ 選んだ入力に、DIGITAL ASSIGN機能を使ってデジタル音声入力を割り当てていないか確認する。 ➔ 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってデジタル入力固定（COAXIAL FIXED、OPTICAL FIXED）を選んでいないか確認する（44ページ）。 ➔ MULTI CH IN機能を使っていないか確認する。
デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）の音が出ない	➔ 選んだ入力のデジタル音声入力を、DIGITAL ASSIGN機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（46ページ）。 ➔ 選んだ入力に、INPUT MODE機能を使ってアナログ入力固定（ANALOG 2CH FIXED）を選んでいないか確認する。またはOPTICAL入力時に「COAXIAL FIXED」を選んでいないか、逆にCOAXIAL入力時に「OPTICAL FIXED」を選んでいないか確認する（44ページ）。 ➔ MULTI CH IN機能を使っていないか確認する。
i.LINK機器の音が出ない	➔ i.LINK機器が接続されているか確認する。 ➔ SCD-XA9000ESまたはSCD-DR1の出力がi.LINK出力モードになっているか確認する。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ LEVELメニューにあるバランスパラメーターを調節する。
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ 本機の上にビデオデッキやカセットデッキを置いていないか確認する。 ➔ ⏚ SIGNAL GNDが正しく接続されているか確認する。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。

症状	原因と対応のしかた
センタースピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 → シネマスタジオEXモードを選ぶ（59ページ）。 → スピーカーの音量を調節する（37ページ）。 → センタースピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（34ページ）。
サラウンドスピーカーまたはサラウンドバックスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 → シネマスタジオEXモードを選ぶ（59ページ）。 → スピーカーの音量を調節する（37ページ）。 → サラウンドスピーカーが「SMALL」または「LARGE」に正しく設定されているか確認する（34ページ）。
サラウンドバックスピーカーの音が出ない	→ パッケージにドルビーデジタルサラウンドEXのロゴが記載されていても、フラグが書かれていないディスクがあります。サラウンドバックスピーカーから音が出ない場合は、サラウンドバックデコーディングモードを「ON」に設定してください（62ページ）。
サブウーファーの音が出ない	→ すべてのスピーカーが「LARGE」に設定されているとき、「Neo:6 Cinema」または「Neo:6 Music」が選ばれているとサブウーファーからは音が出ません。
サラウンド効果が得られない	→ サウンドフィールドが働いているか確認する（A.F.D.、MOVIE、MUSICのどれかを押す）。 → サンプリング周波数48 kHzを超える信号が入力されているときは、サウンドフィールドは働きません。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	→ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTSで録音されているか確認する。 → DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子に接続しているときは、接続した機器の音声の出力設定を確認する。
録音ができない	→ 各機器が正しく接続されているか確認する。 → 入力切り換え用のボタン（または本体のINPUT SELECTORつまみ）で録音したい機器を選ぶ。
テレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	→ 適切な入力を選ぶ。 → テレビの入力モードを確認する。 → テレビをオーディオ機器から離す。 → コンポーネントビデオ入力の割り当てを正しく設定する（47ページ）。 → 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする。
リモコンで操作できない	→ 本体のリモコン受光部に向けて操作する。 → リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 → リモコンの乾電池を交換する。 → 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（31ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 → リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 → 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	→ 再生機器をデジタル接続し、アンプ側でその入力を選んでいるか確認する。 → 選んだ入力のデジタル音声入力を、DIGITAL ASSIGN機能を使って他の入力に割り当てていないか確認する（46ページ）。 → 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 → 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。

つづく

エラーメッセージ一覧

本機が正しく動作していないとき、表示窓にメッセージとチェックコードが表示されます。表示によって、本機の状態がわかるようになっています。以下の表をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	チェックコード	原因と対応のしかた
DECODE ERROR	CHECK CODE 01	CUSTOMIZEメニューの「DEC. PRIORITY」が「PCM」に設定されている場合、DTS-CDなどデコードできない信号が入力されると表示されます。「AUTO」に設定してください（51ページ）。
PROTECTOR	CHECK CODE 11	スピーカー出力に異常な電流が流れています。本機の電源を切り、スピーカーコードの接続を確認してから再度電源を入れてください。
PROTECTOR	CHECK CODE 12	アンプ部が熱くなっています。天板の上がふさがれていませんか。本機の電源を切り、しばらく放置してから再度電源を入れてください。
PROTECTOR	CHECK CODE 13	電源部が熱くなっています。天板の上がふさがれていませんか。本機の電源を切り、しばらく放置してから再度電源を入れてください。
PROTECTOR	CHECK CODE 21	本機の電源を切り、スピーカーコードの接続を確認してから再度電源を入れてください。
PROHIBITED	CHECK CODE 71	著作権保護のため、音声を出すことができません。
UNKNOWN SIGNAL	CHECK CODE 72	入力された信号のフォーマットに本機が対応していません。

本機の設定をリセットするための参照ページ

リセットするもの	参照ページ
すべての設定	30ページ
調節したサウンドフィールド	67ページ

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA7000ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
150 W ＋ 150 W
サラウンドモード：
（8 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W
（4 Ω、JEITA）
フロント部：150 W ＋ 150 W
センター部：150 W
サラウンド部：150 W ＋ 150 W
サラウンドバック部：150 W ＋ 150 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.15 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
120 W＋120 W
（4 Ω負荷）
120 W＋120 W

周波数特性

パワーアンプブロック：
10 Hz～50 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

TUNER、SA-CD/CD、TAPE、MD/DAT、DVD、TV/SAT、VIDEO 1、2、3：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比（input short、入力換算）：
100 dB
20 kHz LPF、Aネットワーク、input level、2 V
PHONO：
入力感度：3.0 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比（input short、入力換算）：90 dB
20 kHz LPF、Aネットワーク、input level、40 mV

入力（デジタル）

SA-CD/CD、DVD、TV/SAT（COAXIAL）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：100 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）
SA-CD/CD、DVD、TV/SAT、MD/DAT、VIDEO 3（OPTICAL）：
S/N比：100 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力　TAPE、MD/DAT（REC OUT）、VIDEO 1、2（AUDIO OUT）：
出力電圧：170 mV
出力インピーダンス：2.2 kΩ
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、SUB WOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：220 Ω

ビデオ部

入力/出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω
S VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度：1 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
クロマ（C）
入力感度：0.286 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度：1 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω
B-Y/R-Y
入力感度：0.7 Vp-p
入力インピーダンス：75 Ω

i.LINK部

ピン数：　4ピン
転送スピード：S200（最大データ転送速度 200 Mbps）
伝送プロトコル：A/Mトランスミッションプロトコル
信号フォーマット（入力）：
スーパーオーディオCD*（DSD PLAIN）
2チャンネルリニアPCM （IEC 60958-3）
サンプリング周波数　44.1 kHz

＊DTLA のコピー・プロテクション技術（Revision 1.3）に対応

電源、その他

電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	200 W スタンバイ時：1 W
最大外形寸法	430 × 174 × 475 mm （幅/高さ/奥行き、最大突起部を含む）
質量	約 23.5 kg
付属品	電源コード（1） 接続・設定ガイド（1） リモートコマンダー：RM-PG7J（1）・RM-U7S（1） 単3形乾電池（NS）（4） ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1） 保証書（1）

本機は「高周波ガイドライン適合品」です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

- 待機時消費電力 1W
- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- 主なはんだ付け部に無鉛はんだを使用

索引

あ行

アップコンバート 23
イコライザー 70
エラーメッセージ 88
音場効果 59

か行

各種設定 49
拡張設定
　スピーカー 68
ゲーム
　テレビゲーム 41
原音に忠実な音で聞く 56
コマンドモード 31
コンポーネント映像を他の入力でも見る 47

さ行

サウンドフィールド
　選ぶ 59-60
　調節する 64-67
　リセットする 67
サラウンドスピーカースイッチ 36
サラウンドスピーカー端子 36
サラウンドスピーカー端子（5.1／7.1／9.1）36
サラウンドバックデコーディング機能 62
サラウンドバックデコーディングモード 63
初期設定 30
スーパーオーディオ CD 18
　再生する 39
　接続する 19
　再生する 39
スーパーオーディオ CD プレーヤー 19
スピーカー
　距離の設定 35
　接続する 16
　設定する 33-38
　レベルとバランスを調節する 37-38
スリープタイマー 54

た行

ダウンコンバート 23
ダウンミックス 56
中心周波数 37
調節した内容を登録する 48
調節する
　サウンドフィールド 64-67
　サラウンド効果 64-65
　スピーカーのレベルとバランス 65
　EQUALIZER メニュー 70
　LEVEL メニュー 65
　SURR SET UP メニュー 64
デジタル音声とアナログ音声 44
デジタル音声を他の入力でも聞く 46
デジタル CS チューナー 27
テストトーン 37, 66
テレビ 24, 33
電源コード 29
ドルビー 57-59, 62, 63

な行

入力切り換え 43
　デジタル音声とアナログ音声 44
入力ストリーム 53, 63

は行

ビデオ
　再生する 42
　接続する 28
表示切り換え 53
表示窓 6

ま行

マルチチャンネルで聞く 57
メニュー一覧 79

ら行

リセット 88
リモコン 31
　学習させる 77
　各部の名前と働き 4
　簡単リモコン 10, 13
　準備する 31
　他機を操作する 72-75
　マクロ機能 76
　リセットする 78
　AV リモコン 10, 11
録音する 54
録画する 55

A-Z

AUTO FORMAT DIRECT 56
A.F.D. 56
BS デジタルチューナー 27
CD
　再生する 39
CD プレーヤー 18
COMPONENT/D-VIDEO ASSIGN 47
CUSTOMIZE メニュー 49, 80
DAT デッキ 18
DIGITAL ASSIGN 46
Dolby 57-59, 62, 63
DTS 57-59, 62, 63
DVD 19
　再生する 40
　接続する 25-26
EQUALIZER メニュー 70, 79
HDMI 23, 52, 83
IMPEDANCE SELECTOR 16
INPUT MODE 44
i.LINK 20
LEVEL メニュー 65, 79
L.F.E.（低音増強）7, 34
MD デッキ 18
NIGHT MODE 61
ON SCREEN 33, 37
SB DECODING 62
SPEAKER SET UP 32
SPEAKER SET UP メニュー 80
STREAM INFO メニュー 53, 81
SURR SET UP メニュー 64, 79
USER PRESET 48

数字

2 チャンネル 56
2CH STEREO 56
5.1 チャンネル 14
7.1 チャンネル 14
9.1 チャンネル 15

記号

⏚ SIGNAL GND 端子 21